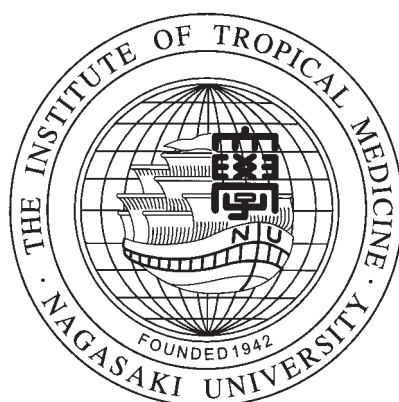


長崎大学熱帯医学研究所

年 次 要 覧

平成21年度
(2009)



長崎大学熱帯医学研究所
平成22年（2010） 12月

長崎大学熱帯医学研究所

総 合 目 標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

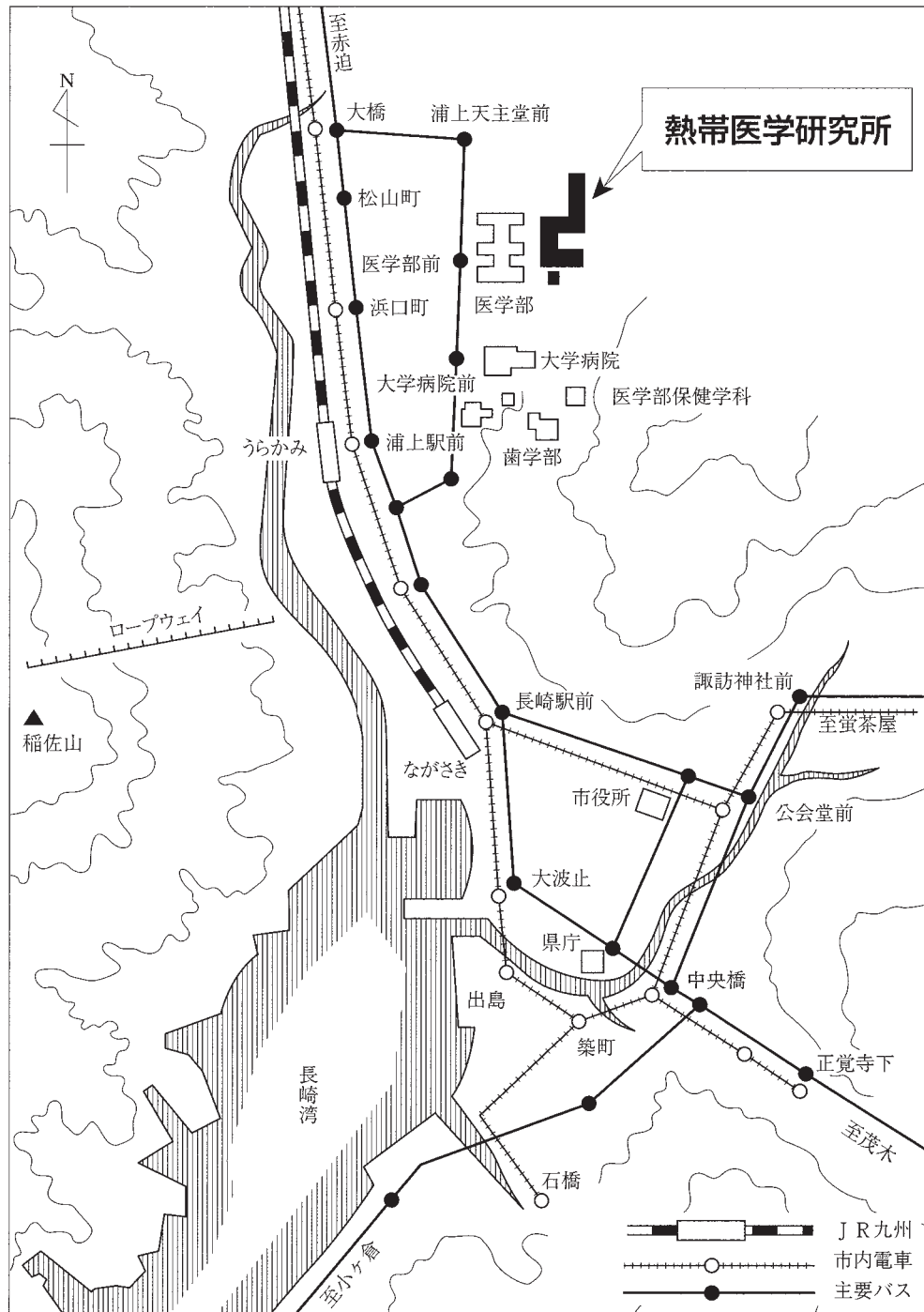
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

1. 熱帯医学及び国際保健における先導的研究
2. 研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
3. 上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4(〒852-8523)
 電話 095-819-7800 (総合案内)
 敷地面積 3,305m²
 建物面積 延8,425m²

序

長崎大学熱帯医学研究所は、国立大学法人長崎大学の附置研究所で、創立昭和17年の歴史ある全国共同利用研究所である。

熱帯医学に関する学理及び応用研究を目的としており、研究所のミッションを「先端研究、社会貢献、人材育成」として平成11年度に設定した。その組織は12分野の講座制で、平成21年4月1日現在、教授9、准教授講師5、助教助手19の定員内教員のほか、事務職員8、および技術職員2を擁している。定員外として外部資金などによる有期教員23、有期職員10、非常勤職員55名が雇用され、さらに医歯薬学総合研究科の大学院生約50名が在籍している。

本年次要覧は、平成21年度の研究所の全活動のデータベースとしての記録である。研究所全体としての活動、各分野の活動、付属施設の活動について、研究、教育、社会貢献の各項目について簡潔かつ詳細にまとめられている。我々の目指すところはすでに述べた研究所のミッションを100%果たすことにある。先端研究の目安はあくまで発表論文の質と量および獲得研究費であり、教育の目安は教育システムの高度化と集まる学生の質と修士あるいは博士論文の質により自己評価している。また社会貢献は国内における貢献および世界保健における貢献に大別して評価している。これら进行评估する情報を網羅することを意図し年次要覧を作製しているつもりである。読者の方々の忌憚のないご叱責が今後の研究所の発展に必須であると考えている。

なお平成21年度に特記すべきものとして挙げられるのは以下のものである。

1. アフリカロンドン長崎奨学金の公募開始
2. 長崎大学グローバルCOEセミナー「地球と人間の健康安全保障 世界トップレベル拠点を目指して」開催（平成21年4月18日 於：東京）
3. 長崎大学グローバルCOE国際シンポジウムの開催（平成21年11月26～28日）

平成22年12月1日

熱帯医学研究所 所長 平 山 謙 二

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成21年度（2009）

目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

序

1	沿革	1
2	組織及び規模	
2. 1	組織	3
2. 2	職員	4
2. 3	経費	12
2. 4	敷地と建物	12
3	共同利用研究	
3. 1	共同研究	13
3. 2	研究集会	17
4	研究活動	
4. 1	ウイルス学分野	19
4. 2	細菌学分野	22
4. 3	原虫学分野	24
4. 4	寄生虫学分野	27
4. 5	分子疫学分野－外国人客員	28
4. 6	臨床医学分野（熱研内科）	29
4. 7	免疫遺伝学分野	30
4. 8	感染生化学分野	32
4. 9	病理学分野	33
4. 10	エイズ・感染防御分野	36
4. 11	生態疫学分野	37
4. 12	国際保健学分野	39
4. 13	国際健康開発政策学分野	41
4. 14	病害動物学分野	43

5	附属施設	
5. 1	アジア・アフリカ感染症研究施設	46
5. 2	熱帯性病原体感染動物実験施設	46
5. 3	熱帯医学ミュージアム	50
5. 4	共同研究室	50
6	特別事業費による事業	
6. 1	グローバルCOEプログラム	53
6. 2	熱帯医学研修課程	56
6. 3	ケニアプロジェクト拠点	58
6. 4	ベトナムプロジェクト拠点	60
6. 5	フィジープロジェクト拠点	63
7	外部資金による研究	
7. 1	文部科学省科学研究費補助金	67
7. 2	厚生労働省科学研究費補助金	68
7. 3	受託研究費等	69
8	海外活動	72
9	外国人研究者の受け入れ	
9. 1	熱帯医学研究コース	85
9. 2	平成21年度に受け入れた外国人研究者	86
10	研究成果の発表状況	
10. 1	研究業績	89
10. 2	学会発表演題	101
10. 3	国際会議における研究発表	116
10. 4	報告書等印刷物	122
11	講演会	
11. 1	熱帯医学研究所における所外講師による講演	124
11. 2	熱帯医学研究所教員による講演	126
12	主要な研究設備	132
13	刊行物	133

1 沿革

昭和17年 3 月	長崎医科大学附属東亜風土病研究所設立	昭和58年 4 月	国際協力事業団（JICA）の集団研修コース「熱帯医学研究コース」開設
昭和20年 8 月	原爆投下により研究所建物及び研究資料消失	昭和59年 4 月	原虫学部門の増設
昭和21年 4 月	長崎医科大学風土病研究所に改称	昭和60年 8 月	本館の第三次増築竣工
昭和21年 5 月	諫早市に移転し、研究活動再開	昭和62年 4 月	病害動物学部門の増設
昭和24年 5 月	新制長崎大学に附置され、長崎大学附置風土病研究所に改称	平成元年 4 月	熱帯医学研究所は共同利用研究所に改組
昭和32年 7 月	諫早大水害により、施設、機器、研究資料等に壊滅的な被害	平成 3 年 4 月	感染生化学部門の増設
昭和34年 3 月	長崎市興善町の元長崎大学医学部附属病院外来患者診療所跡に移転	平成 6 年 3 月	本館の第四次増築竣工
昭和36年 3 月	長崎市坂本町に新庁舎竣工	平成 6 年 4 月	大部門制に改組（3 大部門12 研究分野）
昭和36年 4 月	新庁舎に移転	平成 7 年 4 月	世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE）の研究所に指定
昭和39年 4 月	疫学部門の増設	平成 8 年 4 月	病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）の新設
昭和40年 4 月	寄生虫学部門の増設	平成 9 年 4 月	附属熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い、附属熱帯病資料情報センターの新設
昭和41年 4 月	ウイルス学部門の増設	平成13年 4 月	附属熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い、附属熱帯感染症研究センターの新設
昭和42年 2 月	本館の第一次増築竣工	平成15年 3 月	本館の第五次増築（熱帯性病原体集中研究管理棟）竣工
昭和42年 6 月	風土病研究所が熱帯医学研究所に改称	平成17年 9 月	ナイロビ研究拠点 設置
昭和42年 6 月	熱帯医学研究所内科として、医学部附属病院に設置	平成18年 3 月	本館の改修工事竣工
昭和49年 4 月	附属熱帯医学資料室設置	平成20年 4 月	附属熱帯感染症研究センターの廃止・転換に伴い、附属アジア・アフリカ感染症研究施設及び熱帯医学ミュージアムの新設
昭和49年 4 月	病原細菌学部門の増設		
昭和53年 3 月	感染動物隔離実験棟竣工		
昭和53年 4 月	防疫部門（客員部門）の新設		
昭和53年 4 月	熱帯医学研修課程の新設		
昭和54年 4 月	感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設に昇格		
昭和55年 3 月	本館の第二次増築竣工	平成21年 6 月	共同利用・共同研究拠点「熱帯医学研究拠点」に認定

歴代所長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角	尾	晋	自至	昭和17年 (1942)	5月4日
				昭和20年 (1945)	8月22日
古	屋	宏	自至	昭和20年 (1945)	12月22日
	野	平		昭和23年 (1948)	1月23日
高	瀬	清	自至	昭和23年 (1948)	1月24日
				昭和23年 (1948)	8月31日
登	倉	登	自至	昭和23年 (1948)	9月1日
				昭和24年 (1949)	5月30日

(長崎大学風土病研究所)

登	倉	登	自至	昭和24年 (1949)	5月31日
				昭和33年 (1958)	8月31日
大	森	南三郎	自至	昭和33年 (1958)	9月1日
				昭和38年 (1963)	11月30日
福	見	秀雄	自至	昭和38年 (1963)	12月1日
				昭和42年 (1967)	5月31日

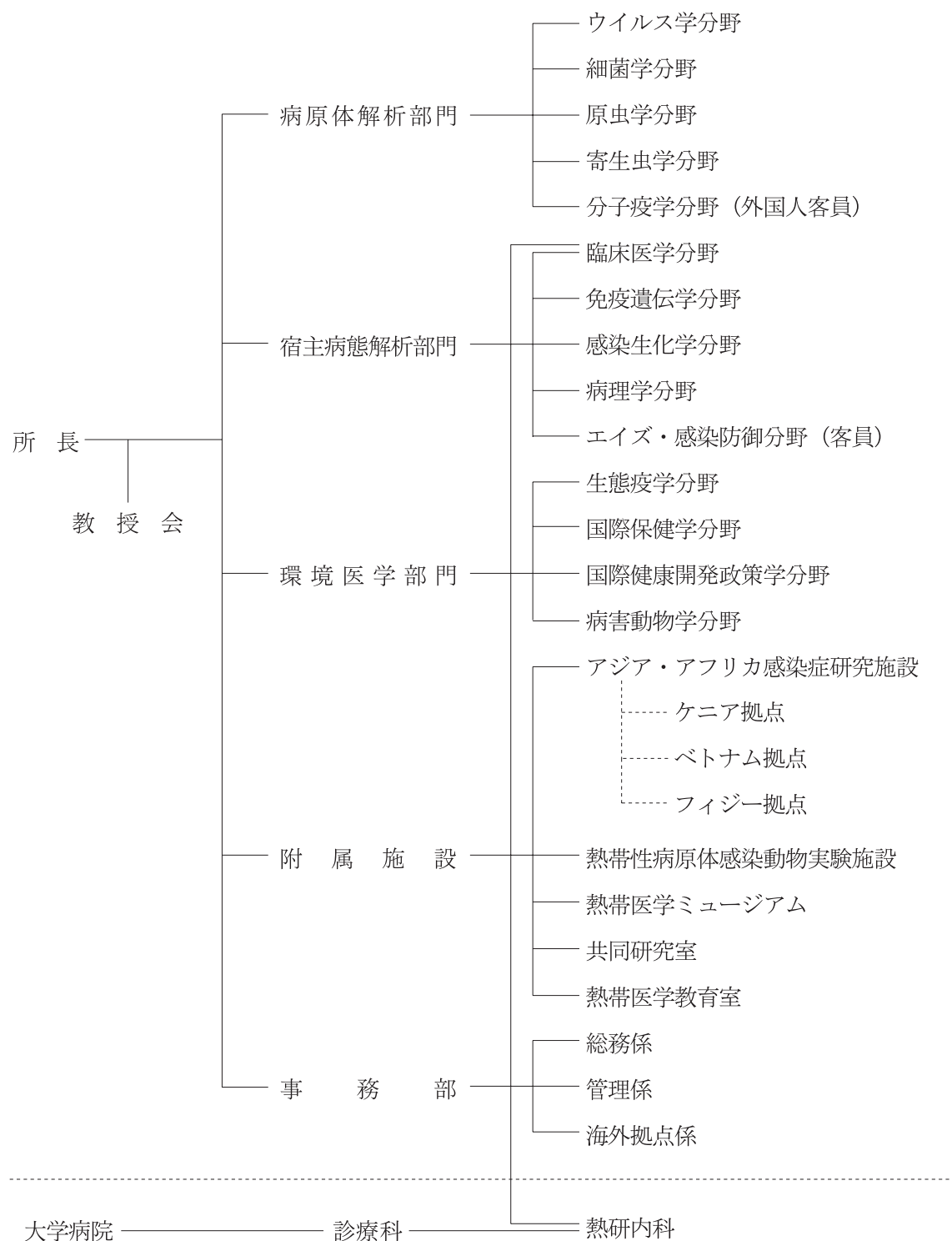
(長崎大学熱帯医学研究所)

福	見	秀雄	自至	昭和42年 (1967)	6月1日
				昭和44年 (1969)	11月30日
片	峰	大助	自至	昭和44年 (1969)	12月1日
				昭和48年 (1973)	11月30日
林		薫	自至	昭和48年 (1973)	12月1日
				昭和52年 (1977)	11月30日
内	藤	達郎	自至	昭和52年 (1977)	12月1日
				昭和54年 (1979)	11月30日
片	峰	大助	自至	昭和54年 (1979)	12月1日
				昭和56年 (1981)	4月1日
松	本	慶藏	自至	昭和56年 (1981)	4月2日
				平成3年 (1991)	4月1日
板	倉	英吾	自至	平成3年 (1991)	4月2日
				平成5年 (1993)	4月1日
小	坂	光男	自至	平成5年 (1993)	4月2日
				平成9年 (1997)	4月1日
五	十	嵐	自至	平成9年 (1997)	4月2日
		章		平成13年 (2001)	3月31日
青	木	克己	自至	平成13年 (2001)	4月1日
				平成19年 (2007)	3月31日
平	山	謙二	自至	平成19年 (2007)	4月1日
				現	在

2 組織及び規模

2.1 組織

平成21年4月1日



2. 2 職 員

平成21年4月1日

1) 定員内職員

区 分	教 員						そ の 他 の 職 員	合 計
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計		
現 員	(6) 9	(1) 3	2	(16) 16	3	(23) 33	(10) 10	(33) 43

※ () は有期雇用職員で外数

2) その他の職員

非常勤講師 13名 外国人研究員（客員教授） 1名 客員教授 1名
 客員准教授 1名 産学官連携研究員 4名 プロジェクト研究員 1名
 COE研究員 5名 科学研究費補助金技術支援員 1名 研究支援推進員 6名
 研究機関研究員 1名 事務補佐員及び技能補佐員 27名
 COE事務員及びCOE技術員 7名

3) 教職員・大学院学生等氏名

平成21年4月1日 現在

所	長 (命)教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
副 所	長 (命)教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
ウ イ ル ス 学 分 野	教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	山 城 哲
	(兼)教 授		長 谷 部 太
	助 教	獣 医 学 博 士	井 上 真 吾
	(兼)助 教		久 保 亨
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	余 福 勲
	助教(有期雇用)	農 学 博 士	鍋 島 武
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	早 坂 大 輔
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	上 地 玄 一 郎
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	堀 田 こ ず え
	技 能 補 佐 員		城 臺 和 美
	事務職員(有期雇用)		メ ル バ ギ ダ ヤ
	事 務 補 佐 員		増 田 美 紀
	大 学 院 生		木 下 一 美
	大 学 院 生		ギィエルモ ポサダス ヘッラ
	大 学 院 生		ディン テュアン デュク
	大 学 院 生		ムラオ ライア アニー エスパード
	大 学 院 生		グエン ドン グツウ
	大 学 院 生		岡 本 健 太

	大 学 院 生 大 学 院 生		吉 川 亮 ミヤ ミヤット スグェ トン
細 菌 学 分 野	教 授 講 師 助 教 助教(有期雇用) 技 術 職 員 技 術 支 援 員 C O E 技 術 員	農 学 博 士 理 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士	平 山 壽 哉 和 田 昭 裕 江 原 雅 彦 中 野 政 之 岩 見 守 前 田 香 代 藤 井 麻 美
原 虫 学 分 野	教 授 講 師 助 教 助 教 助教(有期雇用) 助教(有期雇用) 技 能 補 佐 員 技 能 補 佐 員 C O E 技 術 員 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生	医 学 博 士 薬 学 博 士 医 学 博 士 薬 学 博 士 P h D 理 学 博 士	金 子 修 上 村 春 樹 中 澤 秀 介 矢 幡 一 英 リチャード カレトン 坂 口 美 亜 子 木 下 美 紀 林 田 望 市 丸 優 子 紗羅知 明子 クリスティーナ モラコット カエタマソーン ジーン アレキサンダー 朱 暁 彤 井 上 愛 美 佐 倉 孝 哉 パンパディット サンサヤラート
寄 生 虫 学 分 野	助 教 助 教 技 術 職 員 技 能 補 佐 員 研究支援推進員	医 学 博 士 医 学 博 士	渡 部 幹 次 三 井 義 則 三 浦 光 政 富 永 佐 登 美 林 田 昌 子
分 子 疫 学 分 野	外 国 人 研 究 員 (客 員 教 授) 事 務 補 佐 員	P h D	Padilla Philip Ian 小 松 要
臨 床 医 学 分 野	教 授 准 教 授	医 学 博 士 医 学 博 士	有 吉 紅 也 森 本 浩 之 輔

	助 教	医 学 博 士	宮 城 啓
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	吉 田 レ イ ミ ン ト
	助教(有期雇用)	医 学 士	吉 野 弘
	助教(有期雇用)	医 学 士	佐 藤 光
	助 手		渡 邊 貴 和 雄
	C O E 研 究 員	医 学 博 士	土 屋 菜 歩
	C O E 研 究 員	熱 帯 医 学 修 士	氏 家 無 限
	C O E 研 究 員	医 学 博 士	阿 部 朋 子
	技 能 補 佐 員		切 江 満 代
	技 能 補 佐 員		白 水 里 奈
	事 務 補 佐 員		野 川 理 加
	大 学 院 生		ブ ティ ト ウ フ ォ ン
	大 学 院 生		森 正 彦
	大 学 院 生		津 守 陽 子
	大 学 院 生		山 下 嘉 郎
	大 学 院 生		小 山 和 彦
	大 学 院 生		小 笠 原 徹
	大 学 院 生		小 島 川 祐 輔
	大 学 院 生		濱 口 杉 大 行
	大 学 院 生		大 池 貴 貴
免 疫 遺 伝 学 分 野	教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	安 波 道 郎
	准 教 授	医 学 博 士	大 渡 伸
	(兼)講 師	医 学 博 士	菊 池 三 穂 子
	助 教	学 術 博 士	グ エ ン フ ィ テ ィ エ ン
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	柴 田 宏 樹
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	シュアイブ モハマド ナシル
	技 能 補 佐 員		早 嶋 順 子
	技 能 補 佐 員		堀 江 仁 美
	技 能 補 佐 員		丈 下 真 紀
	事 務 補 佐 員		岡 本 麻 貴 子
	C O E 技 術 員		亀 井 香 里
	大 学 院 生		高 木 明 子
	大 学 院 生		山 崎 朗 子
	大 学 院 生		ヘレッシベ ギデオ ン コフィ
	大 学 院 生		デル プエルト ロダス 社 加ワリ

	大学院生								トランティグロックハ
	大学院生								チェリフマハムドサマ
	大学院生								ダンミィーニー
	大学院生								ラムウォックバオ
	大学院生								ダニエルボアマ
	大学院生								エデルウイサセグブレメルカド
感 染 生 化 学 分 野	助		教		医 学 博 士		藤	井	仁 人
病 理 学 分 野	助		教		医 理 学 博 士		千	馬	正 敬
診 療 科 (熱 研 内 科)	科長(命)教授				医 学 博 士		有	吉	紅 也
	副科長(命)准教授				医 学 博 士		森	本	浩 之 輔
	講 師				医 学 博 士		土	橋	佳 子
	助 教				医 学 士		石	田	正 之
	医 員				医 学 士		寺	田	真 由 美
	医 員				医 学 士		田	中	健 之
	医 員				医 学 士		松	木	啓 子
	医 員				医 学 士		青	山	貴 子
	医 員				医 学 士		高	橋	健 介
	修 練 医				医 学 士		泉	田	真 生
	修 練 医				医 学 士		加	藤	隼 悟
	修 練 医				医 学 士		宮	原	麗 子
	助 教				医 学 士		本	田	章 子
事 務 補 佐 員						北	村	絢 子	
エイズ・感染防御分野	客 員 教 授				医 学 博 士		山	本	直 樹
	客 員 准 教 授				医 理 学 博 士		佐	藤	裕 徳
	助 教				医 学 博 士		久	保	嘉 直
	技 能 補 佐 員						山	谷	尚 美
	大 学 院 生						神	山	陽 香
生 態 疫 学 分 野	教 授						嶋	田	雅 曉
	教授(有期雇用)						堀	尾	政 博
	教授(有期雇用)						金	子	聴
	教授(有期雇用)						一	瀬	休 生
	プロジェクト研究員				医 学 博 士		荻	野	倫 子
	C O E 研 究 員				医 学 博 士		五 十 棲	理	恵
C O E 研 究 員				歯 学 博 士		胡		錦 萍	

国 際 保 健 学 分 野	教 授	保 医 医 学 博 士	山 本 太 郎
	助 教	医 学 博 士	砂 原 俊 彦
	助 教	医 学 博 士	橋 爪 真 弘
	研究支援推進員		崎 谷 恭 子
	C O E 技 術 員		江 口 克 之
	技 能 補 佐 員		藤 井 秀 文
	事 務 補 佐 員		白 石 さ つ き
	大 学 院 生		駒 澤 大 佐
	大 学 院 生		赤 羽 桂 子
	大 学 院 生		Kounnavong Sengchanh
	大 学 院 生		大 木 美 香
	大 学 院 生		Md.Manirul Islam
大 学 院 生		U b y d u l H a q u e	
国 際 健 康 開 発 政 策 学 分 野	教 授	医 学 博 士	溝 田 勉
	助 教	工 学 博 士	後 藤 健 介
	助 教	医 学 博 士	依 田 健 志
	研究支援推進員		牛 谷 梨 恵
	技 能 補 佐 員		中 山 栄 美
	大 学 院 生		峰 松 和 夫
	大 学 院 生		Mgaywa G.M.D.Magafu
	大 学 院 生		畑 岸 悦 子
	大 学 院 生		氏 家 無 限
大 学 院 生		Nmor Jephtha Christopher	
病 害 動 物 学 分 野	教 授	医 学 博 士	高 木 正 洋
	教授(有期雇用)	理 学 博 士	皆 川
	准 教 授	農 学 博 士	川 田
	助 教	医 学 博 士	比 嘉 由 紀 子
	助教(有期雇用)	学 術 博 士	角 田 隆
	助教(有期雇用)	農 学 博 士	二 見 恭 子
	産学官連携研究員	地 球 学 博 士	高 野 宏 平
	産学官連携研究員	医 学 博 士	前 川 芳 秀
	研究機関研究員	学 術 博 士	大 庭 伸 也
	事 務 補 佐 員		上 野 俊 子
	研究支援推進員		園 田 友 理
	事 務 補 佐 員		酒 本 淳 子
	技 能 補 佐 員		川 島 恵 美 子

	大 学 院 生 大 学 院 生		都 築 中 Endang Pujiyati
アジア・アフリカ感染症 研 究 施 設	助教(有期雇用)	医 学 博 士	Alam Md. Mahbub
	産学官連携研究員	医 学 博 士	滝 沢 直 己
	産学官連携研究員	社 会 医 学 博 士	佐 藤 尊 範
アジア・アフリカ感染症 研 究 施 設 (ケ ニ ア 拠 点)	拠点リーダー(命)教授	医 学 博 士	嶋 田 雅 暁
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	一 瀬 休 生
	教授(有期雇用)	理 学 博 士	皆 川 昇
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	金 子 聰
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	堀 尾 政 博
	准 教 授		川 田 均
	助教(有期雇用)	農 学 博 士	二 見 恭 子
	助教(有期雇用)		久 保 亨
	産学官連携研究員		前 川 芳 秀
	プロジェクト研究員	医 学 博 士	荻 野 倫 子
	C O E 研 究 員	医 学 博 士	五 十 棲 理 恵
	C O E 研 究 員	歯 学 博 士	胡 錦 萍
	事 務 職 員		風 間 春 樹
	事 務 職 員		齊 藤 幸 枝
アジア・アフリカ感染症 研 究 施 設 (ベ ト ナ ム 拠 点)	拠点リーダー(命)教授	医 学 博 士	青 木 克 己
	教授(有期雇用)	医 学 博 士	山 城 哲
	(兼)教授(有期雇用)		長 谷 部 太
	助教(有期雇用)	学 術 博 士	角 田 隆
	助教(有期雇用)	医 学 士	吉 野 弘
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	上 地 玄 一 郎
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	堀 田 こ ず え
	事 務 職 員 秘 書		古 矢 佳 男 ブイ テウー チャ
アジア・アフリカ感染症 研 究 施 設 (フ ィ ジ ー 拠 点)	拠点リーダー(命)教授	医 学 博 士	森 田 公 一
	(兼)教授(有期雇用)		神 谷 保 彦
	准教授(有期雇用)	M a s t e r	塚 越 達 彦
	技術職員(有期雇用)		笹 川 健 造
	事務職員(有期雇用)		中 村 祐 美 子
熱帯医学ミュージアム	館 長	医 学 博 士	金 子 修

	教授(有期雇用)		堀	尾	政	博
	研究支援推進員		荒	木	一	生
	技 能 補 佐 員		須	田	清	美
熱帯性病原体感染動物 実験施設	施設長(命)教授	医 学 博 士	金	子		修
	助 手	医 科 学 修 士	柳		哲	雄
	技 能 補 佐 員		川	嶋	順	子
共 同 研 究 室	室長(命)教授	医 学 博 士	森	田	公	一
	助 手		一ノ瀬	昭	多	賀
	研究支援推進員		千	葉	賀	子
非 常 勤 講 師	琉球大学・教授		森		直	樹
	長崎県環境保健研究センター・ 専門研究員		吾	郷	昌	信
	大阪大学・教授		堀	口	安	彦
			前	川	知	之
	東京都立墨東病院・部長		大	西	健	児
	神戸大学・教授		岩	田	健	太
	国立感染症研究所・室長		横	田	恭	子
	大阪市立大学・教授		脇	村	孝	平
	アフリカ日本協議会・ オフィサー		稲	場	雅	紀
	NHK・チーフディレクター		迫	田	朋	子
	長崎大学医歯薬学 総合研究科・教授		高	村		昇
	(株)グラクソスミスクライン・ 部長		野	呂	信	弘
スウェーデンカロリンスカ研究所・准教授		金	子		明	
事 務 部	事 務 長	事 務 職 員	古	川	俊	博
	専 門 職 員	事 務 職 員	末	次	弘	明
	総 務 係 長	事 務 職 員	松	尾		真
	総 務 主 任	事 務 職 員	山	下	リ	サ
	総 務 係 員	事 務 職 員	太	田	直	美
	総 務 係 員	事 務 補 佐 員	山	下	み	ゆ
	総 務 係 員	C O E 事 務 員	實	藤	英	子
	管 理 係 長	事 務 職 員	林	田	武	信
	管 理 主 任	事 務 職 員	伊	藤	智	浩
	管 理 係 員	事 務 職 員	大	宅	陽	子
	管 理 係 員	事 務 補 佐 員	末	永	純	子
	管 理 係 員	事 務 補 佐 員	松	本	由	美
	管 理 係 員	事 務 補 佐 員	松	尾	明	日

管 理 係 員	C O E 事 務 員	龍	原	梨	沙
管 理 係 員	C O E 事 務 員	辻	田	こ ず え	
海外拠点係長	事 務 職 員	笹	田	健	太
海外拠点主任	事 務 職 員	橋	口	文	子
海外拠点係員	事 務 職 員	本	田	志	保
海外拠点係員	事 務 職 員	石	川	理	恵
海外拠点係員	事 務 職 員	風	間	春	樹
海外拠点係員	事 務 職 員	齊	藤	幸	枝
海外拠点係員	事 務 補 佐 員	長	谷 川	い づ み	

2. 3 経 費

年度別決算額

年度	区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平成 16 年		566, 186, 631 円	352, 527, 012 円	918, 713, 643 円
平成 17 年		558, 515, 742	438, 954, 431	997, 470, 173
平成 18 年		606, 864, 667	367, 582, 545	974, 447, 212
平成 19 年		596, 648, 468	251, 840, 216	848, 488, 684
平成 20 年		651, 898, 818	265, 358, 082	917, 256, 900
平成 21 年		605, 260, 738	271, 544, 815	876, 805, 553

※平成21年度版から事業費中の人件費についても人件費として計上

年度別決算額：外部資金等

年度	区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平成 16 年		79, 511, 594 円	288, 612, 463 円	368, 124, 057 円
平成 17 年		79, 208, 590	907, 562, 225	986, 770, 815
平成 18 年		83, 399, 339	312, 293, 825	395, 693, 164
平成 19 年		89, 874, 072	356, 842, 823	446, 716, 895
平成 20 年		262, 345, 094	658, 352, 116	920, 697, 210
平成 21 年		326, 227, 542	746, 606, 269	1, 072, 833, 811

2. 4 敷地と建物

所在地 長崎市坂本 1 丁目12－ 4

敷 地 長崎大学医学部構内 3, 305m²

建 物

建 物 名 称	構 造	建面積(m ²)	延面積(m ²)	備 考
本 館	鉄筋コンクリート 3 階，一部 4 階建	1, 763	6, 454	昭和36. 3 建築 昭和42. 2 増築 昭和55. 3 増築 昭和60. 8 増築 平成 6. 3 増築 平成18. 3 改修
熱帯性病原体 集中研究管理棟	鉄筋コンクリート 4 階 建	329	1, 328	平成15. 3 建築
熱帯性病原体 感染動物実験 施 設	鉄筋コンクリート 3 階 建	190	490	昭和53. 3 建築 昭和63. 3 増築
薬 品 庫	ブ ロ ッ ク 建	20	20	昭和47. 3 建築
保 管 庫	プレハブハウス	133	133	平成16. 3 建築
計		2, 435	8, 425	

3 共同利用研究

3. 1 共同研究 (◎は研究代表者)

1. 先天性感染が及ぼすインパクト：ベトナム中南部バースコホート研究

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授 ◎森内 浩幸
長崎大学熱帯医学研究所・教授 有吉 紅也
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・助教 森内 昌子
長崎大学病院・助教 本村 秀樹
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・大学院生 宮川 雅美
ロンドン大学衛生熱帯医学校・大学院生 鈴木 基
ベトナム国立衛生疫学研究所・副所長 ダンドウック アイン

2. 東アフリカにおける気候変動による熱帯感染症流行への疫学的影響評価

長崎大学熱帯医学研究所・助教 ◎橋爪 真弘
長崎大学熱帯医学研究所・教授 皆川 昇
長崎大学熱帯医学研究所・教授 森田 公一
長崎大学熱帯医学研究所・教授 一瀬 休生
長崎大学熱帯医学研究所・教授 山本 太郎
香川大学教育学部・准教授 寺尾 徹
京都大学防災研究所・准教授 林 泰一
ケニア中央医学研究所・主任研究員 アンドリュー・ギセコ

3. サルモネラ・エンテロトキシンの多型と下痢原性発現機構の解明

長崎大学熱帯医学研究所・教授 ◎平山 壽哉
帯広畜産大学畜産学部獣医学科・教授 倉園 久生
千葉大学大学院医学研究院・教授 野田 公俊
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科・教授 山崎 伸二
長崎大学工学部・教授 畠山 智充
マヒドール大学熱帯医学部・教授 マナス・コンサヌアン
弘前大学農学生命科学部・教授 片方 陽太郎
帯広畜産大学畜産学部獣医学科・助教 山崎 英樹

4. 三日熱マラリア原虫が感染した赤血球表面抗原の抗原性とロゼット形成への関与

長崎大学熱帯医学研究所・教授 ◎金子 修
中国医科大学免疫学教室・教授 曹 雅明
在タイ米国陸軍医学研究所・主任研究員 ジェットサモン・サタボンコット
マヒドン大学熱帯医学部・准教授 ケサニー・チョティバニッチ
長崎大学熱帯医学研究所・助教 矢幡 一英
長崎大学熱帯医学研究所・助教 カレトン・リチャード・レイトン
長崎大学熱帯医学研究所・大学院生 朱 暁彤
長崎大学熱帯医学研究所・客員研究員 ティッパワン・スンカポン

5. Identifying Protective Antigens of the Pre-Erythrocytic Stages of Malaria Parasites

長崎大学熱帯医学研究所・助教 ◎カレトン・リチャード・レイトン
エジンバラ大学免疫・感染症研究所・上級ポスドク研究員
チースマン・サンドラ

6. マラリア原虫における遺伝子発現機構の解析

長崎大学熱帯医学研究所・助教 ◎矢幡 一英
国立遺伝学研究所構造遺伝学研究センター・教授 前島 一博
愛媛大学無細胞生命科学光学研究センター・教授 坪井 敬文
長崎大学熱帯医学研究所・教授 金子 修

7. 遺伝子から見たHTLV-1と日本人のかかわり

～HTLV-1がいつ、どこから日本に来て、どのように広まったのか～

長崎大学熱帯医学研究所・COE特任助教 ◎江口 克之
大分大学医学部・准教授 伊波 秀克
長崎大学熱帯医学研究所・教授 山本 太郎
長崎大学熱帯医学研究所・技能補佐員 藤井 秀文

8. ヘリコバクター・ピロリ感染による胃粘膜microRNA発現の変動とその意義

長崎大学熱帯医学研究所・教授 ◎平山 壽哉
帯広畜産大学畜産学部・教授 磯本 一
千葉大学大学院医学研究院・准教授 八尋 錦之助
神戸大学大学院医学研究科・教授 東 健

9. 開発途上国の健康開発における栄養学的アプローチ

長崎大学熱帯医学研究所・助教	◎依田 健志
女子栄養大学・教授	金子 嘉徳
岡山大学大学院・准教授	山本 秀樹
順天堂大学医学部・助教	野村 真利香
順天堂大学医学部・助教	馬場 征一
長崎大学熱帯医学研究所・教授	溝田 勉
長崎大学熱帯医学研究所・教授	山本 太郎
長崎大学熱帯医学研究所・助教	後藤 健介
長崎大学大学院・大学院生	峰松 和夫

10. アジアにおける熱帯感染症の臨床研究

長崎大学熱帯医学研究所・助教	◎宮城 啓
バックマイ病院感染症科	トリン・ティ・ゴック
サンラザロ病院感染症科	シェーン・ディリロ・マルテ
長崎大学熱帯医学研究所・COE研究員	氏家 無限

11. 熱帯熱マラリア原虫のガメトサイト感染赤血球のC32細胞への接着能とガメトサイトの産生頻度との関連の研究

長崎大学熱帯医学研究所・助教	◎中澤 秀介
ビーエル基礎研究所・所長	鈴木 隆
藤田保健衛生大学医学部・准教授	前野 芳正

12. 感染症サーベイランスに資する地理空間情報データの活用

長崎大学熱帯医学研究所・助教	◎後藤 健介
国立感染症研究所・客員研究員	二瓶 直子
総合地球環境学研究所・教授	門司 和彦
総合地球環境学研究所・プロジェクト研究員	東城 文柄
兵庫医科大学・講師	谷村 晋
長崎大学熱帯医学研究所・教授	溝田 勉
長崎大学大学院・大学院生	峰松 和夫
長崎大学大学院国際健康開発研究科	吉岡 浩太

13. マラリア原虫赤血球侵入関連分子RON5の解析

長崎大学熱帯医学研究所・教授 ◎金子 修
愛媛大学無細胞生命科学工学研究センター・教授 坪井 敬文
長崎大学熱帯医学研究所・助教 矢幡 一英
長崎大学熱帯医学研究所・助教 カレトン・リチャード・レイトン
長崎大学熱帯医学研究所・大学院生 モラコット・カエタマゾーン
長崎大学熱帯医学研究所・大学院生 サンサヤラート・フォンパディット

14. トリパノソーマ原虫の宿主細胞侵入と細胞内増殖：トランスシアリダーゼの役割と宿主細胞の細胞内シグナル応答

長崎大学熱帯医学研究所・講師 ◎上村 春樹
関西医科大学医学部・教授 藤井 茂

15. トリパノソーマ科原虫14-3-3タンパクの生化学的特徴を基盤にした新規スクリーニング方法を用いたdrug-screening法の実施

久留米大学医学部・教授 ◎井上 雅広
長崎大学熱帯医学研究所・講師 上村 春樹

16. デング熱の病態発現におけるマスト細胞由来血管内皮増殖因子

東京慈恵会医科大学・教授 ◎渡辺 直熙
東京大学医科学研究所・助教 古田 隆久
長崎大学熱帯医学研究所・教授 平山 謙二
長崎大学熱帯医学研究所・講師 菊池 三穂子
長崎大学熱帯医学研究所・助教 グエン・フイ・ティエン
長崎大学熱帯医学研究所・助教 シュアイブ・モハammad・ナシル

3. 2 研究集会

1. 医学研究における倫理に関する国際セミナー

開催日：平成21年6月29日～平成21年7月1日

場 所：長崎大学医学部ポンペ会館

代表者：免疫遺伝学分野 平山 謙二

コースディレクター：ライダー・リー（NIH／ベルゲン大学）

松井 健志（東京大学）

平山 謙二（長崎大学）

発表者：(1) 研究倫理の歴史と基本的な考え方

NIH／ベルゲン大学 主任研究員／教授 ライダー・リー

(2) インフォームド・コンセント

東京大学

特任講師 松井 健志

(3) コミュニティを対象とする研究の倫理

長崎大学

教 授 平山 謙二

(4) 研究と治療の区別，革新的治療の倫理的問題

東京大学大学院

特任助教 田代 志門

(5) プラセボ対照試験の倫理

東京大学大学院

客員教授 津谷 喜一郎

(6) リスク・ベネフィット評価

NIH／ベルゲン大学

主任研究員／教授 ライダー・リー

(7) 子どもを対象とする研究の倫理

国立成育医療センター

治験管理室長 中村 秀文

(8) 既存資料の研究利用

東京大学

特任講師 松井 健志

(9) 倫理委員会の構成と役割

昭和大学医学部

教 授 内田 英二

(10) 国際共同研究における倫理問題

NIH／ベルゲン大学

主任研究員／教授 ライダー・リー

(11) 模擬倫理委員会の事例紹介

NIH／ベルゲン大学

主任研究員／教授 ライダー・リー

2. 見捨てられた病気のための医薬品開発研究会

開催日：平成21年10月27日～平成21年10月28日

場 所：長崎大学熱帯医学研究所

代表者：免疫遺伝学分野 池田正行

参加者：東京大学大学院医学系研究科教授 北 潔

万有製薬株式会社シニア・ディレクター 大澤 健一

グラクソ・スミスクライン株式会社部長 野呂 信弘

東北大学未来医工学治療開発センター准教授 嶋澤 るみ子

大塚製薬株式会社課長 石川 廣

内 容：臨床治験の国際連携について討議し、混沌とした製薬企業の開発戦略について現状を理解してもらい、さらに世界的な治験の流れを遅滞なく伝えることが必要である旨確認し、今後のカリキュラム作成に反映させることとした。

4 研究活動

4. 1 ウイルス学分野

I. 熱帯ウイルス病の疫学研究

- 1) デングウイルスが媒介蚊によってヒトの体内に侵入後、最初の標的細胞となるのは樹状細胞であることが報告されている。しかし、樹状細胞に感染した後、ウイルスがどのように体内を移動し、どのような細胞を増殖の場としているのかはほとんど解析されていない。そこで、我々はフィリピンの St. Luke's Medical Center 及びベトナムのホーチミン・パスツール研究所との共同研究としてフローサイトメトリーを用いてデング患者の血液細胞の解析を行い、分離ウイルス株の細胞向性について検討を行った。臨床症状からデング熱／デング出血熱と診断された患者から採血し、RT-PCR法によってデングの確定診断を行った。デング陽性患者の血液は、各種細胞表面マーカー (CD3, CD14, CD16, CD19) に対する PE 標識抗体と反応させた後、固定・細胞膜透過処理を行い Alexa 標識-抗デングウイルス特異抗体による二重染色法によって解析した。また、異なる培養細胞を用いてウイルス分離を行い、分離ウイルスの細胞結合能や感染性について比較解析を行った。デングウイルス 1 型、2 型及び 3 型感染患者の血液で B 細胞がデングウイルスの標的となっていることを確認した。同じデング患者から C6/36 細胞と K562 細胞でデングウイルス 2 型が分離された。K562 細胞で分離されたウイルス株は形質細胞系の B リンパ細胞株に強い結合性を示し、且つ、感染増殖したが、C6/36 細胞で分離されたウイルス株は B リンパ細胞株に対し結合性も感染性も示さなかった。B リンパ球は患者体内でのデングウイルスの増殖及び動態に重要な役割を持つことが示唆された。(Kinoshita H, et al. Jpn J Inect Dis. 2009 Sep; 62(5):343-50.)
- 2) 平成21年にベトナムにおいてデングウイルス 1 型 (DEN1) の大流行が発生した。特にハノイでは例年の10倍 (2 万人を超す) のデング患者が報告された。そこで、2007年から2009年にベトナム南部 (ホーチミン)、中部 (バンメトート)、北部 (ハノイ) で分離された DEN1 分離株のエンベロップ蛋白をコードする遺伝子領域の解析をおこなった。系統樹解析により今回シーケンスを行った分離株は全て遺伝子型が I 型であったが、2009年にハノイで分離された DEN1 株には特有なアミノ酸の置換が 2 ヶ所確認された。
- 3) 毎年約 5 万人の日本脳炎患者がアジア地域で発生し、また、2005 年以降、チクングンヤ熱が世界的に急速に拡大し続けている。近年、我々は Nidovirus 目に属する新種のウイルス (Nam Dinh virus) と Reovirus 科、Seadornavirus 属に分類される Banna virus をベトナムで採集された蚊から分離している。しかし、このようなアルボウイルスの疫学においてコ

ウモリがどのような役割をもつのかほとんどわかっていない。そこで我々は、ベトナム北部及び中部で採取したコウモリ血清を用いて、これらアルボウイルスに対する特異抗体の分布状況について解析を行った。2006年から2008年にかけてベトナム北部(Bac Giang省, Hoa Binh省, Tuyen Quang省, Quang Binh省)及びベトナム中部(Dak Lak省, Dak Nong省)で捕獲されたコウモリから採取した血清について、日本脳炎ウイルス、チクングンヤウイルス、Banna virus 及び Nam Dinh virusを接種したC6/36細胞培養上清から精製した不活化ウイルス粒子を抗原として用いた間接 IgGELISA 法によりコウモリ血清中の各種ウイルスに対する特異的抗体価の測定を行った。日本脳炎ウイルスとチクングンヤウイルスに対する特異抗体は *Rousettus leschenaultia* のみに検出され、陽性率はそれぞれ23.1%と65.4%と非常に高い値であった。今回ベトナムで新たに分離された Nam Dinh virusとBanna virusにおいても *Rousettus leschenaultia* は高い陽性率を示し、それぞれ20.7%と55.2%であった。また、Nam Dinh virusとBanna virus に対する特異抗体は数種の小コウモリ種にも検出された。

- 4) ベトナムの中央高地(Dak Lak省, Dak Nong省)においてコウモリを対象にELISA法によるSARSコロナウイルスとニパウイルスの血清調査を行った。2008年3月にDak Lak省で採取したコバナフルーツコウモリ29頭中2頭(6.9%)がSARSコロナウイルス陽性、3頭(10.3%)でニパウイルスに対する抗体が陽性であった。71頭のオヒキコウモリは全て陰性であった。2008年7月に採取したコバナフルーツコウモリ66頭、ルーセットコウモリ2頭、未同定の小コウモリ種8頭は全て陰性という結果であった。3月に捕獲したコウモリにだけ抗体陽性例がみつかったことから、コウモリ採取を継続的にを行い、季節的消長を検討する必要があると考えられる。
- 5) ベトナムの中央高地(Dak Lak省, Dak Nong省)においてTay Nguyen Institute of Hygiene and Epidemiology (TIHE)の協力を得て地域住民を対象にSARSコロナウイルスとニパウイルス感染の血清疫学調査を行った。Dak Lak省のTour村の住民159人、Dak Nong省ではEatling村の住民132人、及び、Cu Jut診療所の職員23名から聴き取り調査を行い、Tour村で33人(20.8%)がEatling村とCu Jut診療所では20人(12.9%)がコウモリを食したことがあることが判明した。コウモリを食したことがあるヒト53人中50人(94.3%)がコウモリの食材を使って調理をしたことがあり、13人(24.5%)がコウモリの血液を飲んだことがあると回答しており、コウモリの体液を介した感染のリスクに暴露されていることが推測された。同住民を対象としたSARSコロナウイルスとニパウイルスの抗体調査を行った結果、それぞれの地域で両ウイルスに対する抗体陽性者が確認された。これら組み換えウイルス蛋白を用いたELISA陽性検体について中和試験による確認を行う予定である。
- 6) 平成20年に新種のレオウイルスに感染し呼吸器症状を呈した日本人海外旅行者が見つかった。

たことが報告された。この新種のレオウイルスのS2遺伝子とS4遺伝子を標的としたプライマーを設計し、RT-PCR法による診断系を作成した。陽性コントロールとして国立感染症研究所で分離されたウイルスのRNAの提供を受け、これを使用した。ベトナムのハノイにある国立衛生疫学研究所 (NIHE) との共同研究として、同研究所に保管されているH5N1診断陰性検体(咽頭拭い液)143検体について新種のレオウイルスのRT-PCR診断を行った。診断結果は全て陰性という結果であったが、類似したウイルスに **Melaka virus** がありマレーシアでの流行が報告されている。今回作成した診断系は **Melaka virus** の検出にも有効であり、原因不明の呼吸器感染症の診断に有用と思われる

- 7) アルボウイルスは、デングウイルス、日本脳炎ウイルス、チクングニヤウイルスなど、病原性ウイルスを数多く含む。しかし、アルボウイルスには550を超える候補が存在しており、その同定は困難である。そこで、本研究では、迅速的網羅的なウイルスの検出・同定法の開発を行った。超遠心を用いたサンプルの簡易精製とLC/ESI/MS/MSを用い、微量な感染細胞上清からの網羅的ウイルス同定法を確立した。この方法を用いて、海外から得られた不明ウイルスの同定を試みたところ、報告例の少ない **Banna virus** や **Yunnan orbivirus** を同定することに成功し、本方法が予期されていないウイルスの簡便な検出・同定に使用できることを示した。(Okamoto, et. al., *J Virol Methods* 2010)

II. ウイルス学的研究

- 1) フラビウイルス複製において、ウイルスおよび宿主の果たす役割とお互いの関係について研究した。第一の目的は、非構造的タンパク質NS1の役割を明らかにすること、さらに第二の目的は、フラビウイルス感染時のウイルス-宿主の間の相互作用を調べることである。第一の点については、日本脳炎ウイルスとデングウイルスNS1が細胞内局在をしており、それゆえ、異なって処理されている、或いは異なった機能を持つのではないかという示唆が得られた。第二の点については、LLCMK2細胞系の病巣形成について日本脳炎とデングウイルスとは対照的な性質を持つことが明らかになった。デングウイルスが大きな病巣を形成するのに対し、日本脳炎ウイルスはこの細胞系での病巣形成は限定的であった。
- 2) K562細胞系クローンからのデングウイルス2型の感受性レセプターの同定を行い、数個の関連分子を同定した。
- 3) 日本脳炎ウイルス JaOArS982 株の全長遺伝子をプラスミドに組み込み、感染性 cDNA クローンを作製した。さらに部位特異的に変異を導入し解析を行った。
- 4) ヒトおよびブタ由来細胞を用いて日本脳炎ウイルス、デングウイルスの Type-I Interferon 応答を解析した。その結果、ヒト由来細胞にくらべブタ由来細胞では Interferon 応答が遅れ、ウイルス増殖がより上がることを明らかにした。

- 5) マウスモデルを用いた解析により、日本脳炎ウイルス感染における重症化には神経組織へのウイルス感染に加え、TNF alpha およびIL-10応答に関係した全身性の免疫およびストレス応答が関与していることを示した。
- 6) マウスモデルを用いた解析により、ダニ媒介性脳炎ウイルスの脳内接種ではウイルスの中枢神経感染の程度が直接関わる早い時期の致死性の原因となるが、末梢接種では神経組織へのウイルス感染に加え、全身性の免疫およびストレス応答が関与していることを示した (Hayasaka, et. al., *J Vet Med Sci* 2010)。

Ⅲ. WHO協力センターとしての活動

- 1) 2005年2月に始まった、独立行政法人国際協力機構 (JICA) の大洋州諸国の予防接種強化事業である、「Japanese support to the Pacific Immunization Programme Strengthening (J-PIPS)」における技術実施機関としてWHOと協力しており、このプロジェクトにおいて当研究分野の森田公一教授はチーフ・アドバイザーを勤め、定期的に現地を訪れてプロジェクトの進行に積極的に関与した。
- 2) 2009年4月16日から17日まで、スイス・ジュネーブのWHO本部において、Global Outbreak Alert and Response Network (GOARN) Partners会議が開かれ、森田公一教授が WHO Temporary Advisorとして参加した。
- 3) 2009年10月19日から20日まで、中国・北京でWHO西太平洋地域の GOARN Partners 会議が開かれ、森田公一教授が参加した。
- 4) 2009年12月14日から16日まで、スイス・ジュネーブのWHO本部において、GOARN Diagnostics Working Group 会議が開かれ、森田公一教授が WHO Temporary Adviserとして参加した。
- 5) 2010年3月22日から26日まで、カンボジアで WHO 西太平洋地域の GOARN 地域会議が開かれ、森田公一教授が参加した。

4. 2 細菌学分野

細菌学分野は熱帯地に蔓延または熱帯地から伝播される細菌感染症とその原因細菌に関する研究、とくに感染成立に関与する種々の病原因子の研究を展開している。

- 1) ヘリコバクター・ピロリは消化性潰瘍、MALTリンパ腫、胃癌などの原因細菌であり、熱帯地域を含む発展途上国においては20歳前に約80%のヒトが感染している。本菌の病原性について、空胞化毒素VacAおよび4型分泌装置で宿主に注入されるエフェクター分子、

CagAの感染における役割を解析している。

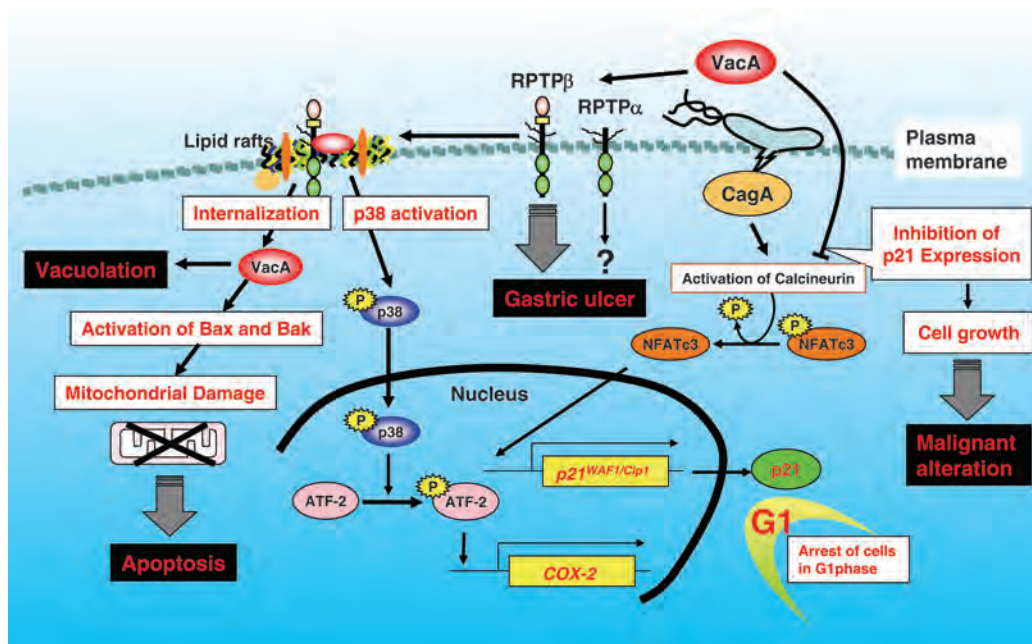
VacAは空胞変性のみならずミトコンドリア障害(1)によるアポトーシス(2)など多様な毒性を発揮する。とくに細胞接着に重要な Git1のリン酸化(3)および p38MAP キナーゼ／ATF-2 経路の活性化は空胞変性とは関係しない(4)。VacAの宿主受容体蛋白は2種の受容体型チロシンフォスファターゼ (RPTP α と RPTP β) である事を明らかにした(5, 6, 7)。興味深いことにVacAが胃炎や胃潰瘍などの胃粘膜障害を引き起こすためにはRPTP との結合が必須である(3)。VacAが上記の毒性を発現するためには受容体との結合を介して脂質ラフトに集積することが必要であること(8)、VacAによるp38MAPキナーゼ／ATF-2経路の活性化はCOX-2の発現を促しPGE2の産生を促進することが判明した(9)。また、本菌感染局所には多くの炎症細胞の浸潤や活性化が認められる。VacAが宿主細胞からの IL-8産生を促す可能性とその産生機構の詳細を究明した結果、末梢血CD14⁺細胞のみならず、単球系株化細胞 U937 細胞などの細胞で IL-8の産生誘導が著明に認められた。この IL-8産生誘導機構の詳細を明らかにした(10)。

加えて、本菌感染時に、VacAおよび CagA が宿主転写因子 (ATF-2やNFAT) の本来の機能を攪乱することが分かっている(11)ので、これら病原因子の相互作用を他施設との協同で調べている。

(参考文献：(1) Microb. Pathog. 31:29-36, 2001, (2) J. Biol. Chem. 281:11250-11259, 2006, (3) Nat. Genet. 33::75-381, 2003, (4) J. Biol. Chem. 279:7024-7028, 2004, (5) J. Biol. Chem. 278:19183-19189, 2003, (6) J. Biol. Chem. 279:51013-51021, 2004, (7) Cell Microbiol 7:1285-293, 2005, (8) Infect Immun. 74:6571-6580, 2006, (9) Infect Immun. 75:4472-4481, 2007, (10) J Immunol. 180:017-5027, 2008. (11) Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 102:9661-9666, 2005.)

2) GCOE研究課題であるサルモネラStnの持つ病原的意義の究明が、平成21年4月着任した中野助教を中心に勧められている。

3) コレラ菌線毛がワクチンとして有効であるかを調べている。



ヘリコバクター・ピロリが産生するVacA毒素の毒性発現

4. 3 原虫学分野

4月に朱晓彤, パンパディット・サンサヤラート, 井上愛美, 佐倉孝哉が大学院博士課程に入学した。また, 坂口美亜子を助教として採用した。津守陽子の指導教員が臨床医学分野の有吉教授に変更となった。6月末にティップワン・スンカポンは一時帰国し, 10-11月の期間および平成22年2月に来日し研究を行っている。昨年に引き続き, 熱帯医学修士課程学生の河越なぎさが11月に教室に配属された。10月28日に中国医科大学から王各各が研究協力員として, 12月に吉林大学から姜寧(客員研究員), 北京協和医科大学から藺亞暉(研究協力員), 1月に南京大学から唐建霞, ポルトガルのマラリア研究所からソフィア・ボルゲスが客員研究員として来日した。11月26-27日に開催された感染症GCOEシンポジウムを機会に, 中国医科大学の曹雅明博士, 在タイ米国陸軍医学研究所のJetsumon Sattabongkot博士, マヒドン大学熱帯医学部のKesinee Chotivanich博士, ペンシルベニア州立大学のLiwang Cui博士, ベルンハルト・ノッホ熱帯医学研究所のTim Gilberger博士, スイス熱帯医学研究所のTill Voss博士らを招待した。

I. マラリアに関する研究

1) マラリア原虫の赤血球侵入分子機構

三日熱マラリア原虫の実験室レベルでのモデルとして, ネズミマラリア原虫 *Plasmodium yoelii* に着目して赤血球認識リガンドPyEBLの解析を進め, この分子の非致死株と致死株

との間で見られる一塩基置換により、細胞内での局在および病勢の差が規定されていることを遺伝子改変手技にて証明した(PNAS 106:7167-72. 2009/Apr)。一方、カレトン助教は、遺伝学的手法を用いて、原虫の増殖速度および病勢を決定する因子が存在するゲノム領域を同定し、そこにPyEBL遺伝子座があることを見出した(PNAS 106:7161-6. 2009/Apr)。三日熱マラリア原虫は幼弱赤血球にのみ侵入するため病原性が低いですが、本研究で見出されたようなアミノ酸置換が起きた場合、ネズミマラリア原虫と同様に病原性が増す可能性が否定できないため、PvDBPを標的とするワクチン開発は注意を要すると提唱できた。また、熱帯熱マラリア原虫ガメトサイト期の遺伝子を網羅的にクローニングしていた際に、選択的スプライシングを受けている遺伝子を多数見出し、ガメトサイト期には転写制御の厳密性が低下しているのではないかと提唱した(Parasitol Int 58:196-9. 2009/Jun)。矢幡は、マラリア原虫の蛍光ライブイメージング解析を念頭に、ベルンハルト・ノッホ熱帯医学研究所で熱帯熱マラリア原虫を用いた赤血球侵入のライブイメージング技術を研鑽し、長崎大学において遺伝子改変が容易と言った利点を持つが、赤血球侵入ライブイメージングの系が確立していないネズミマラリア原虫について、その開発に着手した。

2)新規マラリア原虫赤血球認識分子(候補)の集団遺伝学的解析

カエタマソーンが熱帯熱マラリア原虫のSURFIN_{4.2}について、サンサヤラートが熱帯熱マラリア原虫のSURFIN_{4.1}について、朱が三日熱マラリア原虫のPvSTP1について、アレキサンダーが熱帯熱マラリア原虫のRhopH1/Clagについて解析をさらに深め、それぞれ多型性と選択圧について、10月に沖縄にて開催された第50回日本熱帯医学会大会にて発表した。

3)三日熱マラリア培養株の樹立

実用的な培養系が確立していない三日熱マラリア原虫の培養系の確立に関するプロジェクトをタイの研究者とともに継続して行った。在タイ米国陸軍医学研究所のWachira Suk-tawonjaroenponを6月1日から7月13日まで招へいし、プラスミドの構築を行った。

4)マラリア原虫の転写制御の分子基盤

矢幡はインスレーターと呼ばれる領域に着目し、マラリアにおける転写制御の一端を明らかにすることを目的として研究を行い、マラリア原虫のインスレーターがユニークな構造を持つことを示唆した。また、マラリア原虫のインスレーター候補として、コヒーシ関連タンパク質のクローニングを開始した。

5)アフリカにおける三日熱マラリア原虫の研究

カレトン、コンゴ共和国の住民の10%強が、三日熱マラリア原虫の赤外期ステージ原虫に対する抗体を保有することを見出し、報告した(J Infect Dis 200:1465-9. 2009/11)。

6)異なるマラリア原虫種間の相互作用

井上とカレトン、赤外期マラリア感染に対する種特異的獲得防御免疫モデルを*P. yoelii*

と *P. vinckei* を用いて構築することに成功し、成果を2010年2月に開催された第8回感染症沖縄フォーラム等で発表した。

7) マラリア原虫の薬剤治療と再燃

中澤は、マラリア原虫の薬剤治療によるreduction rateを検討した。さらに、そのreduction rateに相当する原虫数のマラリア原虫が薬剤治療の延長によって根絶するか否か調べた。

8) 人獣共通感染症サルマラリアのヒトとサルでの感染ダイナミクス

中澤は、ベトナムで採集したマラリア媒介蚊に、ヒトマラリア原虫とサルマラリア原虫が同時に感染していることを見出し、ベトナムでは、ヒトからヒトへサルマラリア原虫が感染している可能性を提唱した (Int J Parasitol 39:1533-7. 2009/12)。

9) 熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の研究

五十棲, 上村, 中澤は、ベトナムで流行している熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性に関する遺伝子を2001年から2007年にかけて調査し、原虫集団における抵抗性遺伝子の頻度分布が経年的に変化していることを見出した (J Clin Microbiol 48:70-7. 2010)。

II. リーシュマニアに関する研究

パンディーと金子らは、ネパールで見出した、リーシュマニアのMiltefosine耐性症例を報告した。(Am J Trop Med Hyg 80:580-2. 2009/Apr)。

III. アメリカ・トリパノソーマ原虫に関する研究

上村は *Trypanosoma cruzi* のトランスシアリダーゼは、原虫の哺乳動物細胞への侵入後、寄生胞から脱出する際に重要な役割を果たすことを示してきた。その実験過程でトランスシアリダーゼが原虫の細胞侵入そのものにも重要な役割を果たしていることを示唆する結果を得た。そこで、この点を遺伝子導入の手法を用いてさらに詳細に検討するための予備実験として、幾つかの原虫株でトランスシアリダーゼ活性を比較したところ、株間で100倍以上の活性の違いがあることがわかった。

IV. 海外における研究活動

上村は熱研のケニア拠点を、中澤はベトナム拠点を利用しマラリアに関する海外共同研究を行った。金子はタイのマヒドン大学や在タイ米国陸軍医学研究所、中国の中国医科大学、江蘇省血住虫研究所、シンガポールのナンヤン工科大学、ドイツのベルンハルト・ノッホ熱帯医学研究所等といった種々の国外研究機関とマラリアに関する共同研究を継続している。矢幡は9月24日-10月23日の間、ベルンハルト・ノッホ熱帯医学研究所に出張して研究を行った。金子は5月にはパナマで開催された第3回三日熱マラリア会議に招待され発表を行った。6月12日

にスペインのバルセロナ大学にてセミナーを行い、10月25日には中国・西安で開催された中国第三次国際寄生虫学学術検討会にてPlenary Speechを行った。金子とカレトンは8月13日に中国医科大学でセミナーを行った。

4. 4 寄生虫学分野

平成21年3月31日付で青木克己教授が定年退職し、5月1日付で濱野真二郎が九州大学から教授として着任した。6月から原史絵が技能補佐員として当分野に参加し、10月に下川周子が九州大学より本学大学院博士課程に転入学した。着任から8月までは研究室のセットアップに費やし、秋以降、研究が本格的に始動した。

本分野では世界的に重要な糸状虫症・住血吸虫症ならびに腸管寄生虫症などの蠕虫疾患、多くの人々を苦しめているにもかかわらず顧みられることの少ない赤痢アメーバ症・リーシュマニア症・トリパノソーマ症などの原虫疾患に対してフィールド・ラボ双方向からのアプローチを試みている。

I. フィラリア症ならびにその他の蠕虫疾患に関する研究

フィラリアの生活環維持を目的としたミロフィラリアの凍結保存法の改良を進めた。また、ネズミ糞線虫の排虫に重要なマスト細胞からの脱顆粒がFcεRI非依存性に起こることを示した。(Watanabe, K., Hamano, S. et al. Parasite 2009)。さらに、線虫 *Heligmosomoides polygyrus* の小腸寄生がネズミマラリア *Plasmodium yoelii* に対する感染防御に対して負に働くことを示した(Tetsutani, K., Hamano, S. et al. Eur. J. Immunol. 2009)。

II. 住血吸虫（症）に関する研究

マンソン住血吸虫に対して抗マラリア剤であるアルテスネートが有効であることを示した(Mitsui, Y., Aoki, Y. et al. J Helminthol. 2009)。また、マンソン住血吸虫慢性感染モデル（感染20W）において、巨大脾腫と重篤な繊維化を呈するマウスでは制御性T細胞：活性化T細胞比が高くIFN-γ産生が低いことを明らかにした(Watanabe, K. et al. Parasite Immunol. 2009)。プロテオーム解析によって日本住血吸虫のワクチン候補抗原をスクリーニングをした(Watanabe, K., Aoki, Y. et al. Parasitol. Int. 2009)。さらに、共用の水道が住民の水利用ならびにビルハルツ住血吸虫伝搬に及ぼす影響を調べた(Abe, M., Aoki, Y. Trop. Med. Health 2009)。

III. フィールド研究

バングラディシュで赤痢アメーバ症ならびにリーシュマニア症のフィールド研究を継続した。またケニアでのフィールド研究に先立ち、ケニア拠点(ナイロビ・ビタ・クワレ)を視察した。

4. 5 分子疫学分野－外国人客員

熱帯地で約8割の感染者が報じられているヘリコバクター・ピロリ (*H.pylori*) の病原性因子の研究において、特にCagAとVacAが胃粘膜障害や胃癌の発症に密接に関連することが明らかになっている。CagAはCag 病原性遺伝子群 (PAI) にコードされた炎症や発癌の一因となるエフェクター分子である。一方、VacAはその名称の由来の基盤となった空胞変性を齎すサイトトキシンであり、細胞内輸送系の攪乱や免疫系の抑制、ミトコンドリア機能障害による細胞死 (アポトーシス) を引き起こす。こうしたVacAの毒性は、VacA産生性の臨床分離株によって大きな差があり、その差異は主として *vacA* 遺伝子構造の違いに因ることが示唆されている。とくにシグナル領域 (signal : s), 中間領域 (intermediate : i), 中央領域 (middle : m) にそれぞれ認められる違い (s1/2, m1/2, i1/2) の組み合わせによる遺伝子多型が存在する。分類の結果から s2/m1VacA 産生株は極めて稀で、cagA 陽性菌はほぼ全例でs1, 陰性菌はほぼ s2/m2 である。s1/m1株はi1, s2/m2株はi2を持つことが報告されている。興味深いことに1) s, m, i領域のタイピング, 2) 宿主細胞, 3) 地域差によりVacAの毒性に差異がみられる。すなわち, 1) s1/m1株は強毒性, s2/m2株は弱毒性とされる。また, i1は強毒株とする報告が多い。胃粘膜組織所見との検討では, s1は好中球・リンパ球浸潤, m1は上皮変性や粘膜剥落, 微小びらんに関連があると報告されている。2) 宿主細胞株種によりm1, m2間の毒性活性に差異があったことから, 細胞接着能が宿主細胞種により異なることが示唆された。m1とm2とでは55%程度の相同性に過ぎず, 細胞接着部位はm1では460~496番目のアミノ酸に位置しており, m2では475番目のアミノ酸に23残基の挿入が見られる。3) 欧米ではs1やm1が消化性潰瘍, 胃癌との関連を報告されている。東アジアではs1が殆どであるが, m領域は東アジア北部でm1が多く, 南部に行くにつれてm2が多くなる。これが胃癌の好発地域と一致することから, 東アジアでは疾患の地域差はm領域との関与が考えられている。i領域の相違もまた, 疾患多様性に寄与すると報告され, イランでは胃癌と, イラクやイタリアでは消化性潰瘍との関連性が示唆された。一方, 東~東南アジアではi領域と疾患には関連がみられなかったが, i領域においてはまだ不明な点が多い。

こうした背景をもとに, 強毒性を示すs1/m1 VacA産生株の解析を細菌学分野と共に行っている。とくにアポトーシスや発癌と密接に関連するERK, Akt, Wnt経路とVacAとの関連を研究している。またi1VacAがmTORシグナル伝達に関係しているかもしれないとする報告もあり,

VacAとmTORシグナル伝達経路についても実験が進行中である。

4. 6 臨床医学分野（熱研内科）

当分野では、熱帯地および国内の臨床現場へ研究成果を還元することを目標に、実験科学あるいはフィールド疫学を連携させた学際的臨床医学研究を展開している。主な研究課題は、呼吸器感染症、エイズおよびその他熱帯感染症であり、これらの伝播様式や発生機序、病態生理を解明し、新たな予防治療戦略の構築をめざしている。

I. 呼吸器感染症・呼吸器病原体に関する研究

国内外において従来から一貫して呼吸器感染症における研究を継続している。

平成19年より本格化したベトナム中部の都市ニャチャンにおいては、7万6千世帯・35万人の住民を対象にした呼吸器感染症の疫学研究が進行中であり、平成21年度には、同居している成人の喫煙と小児の呼吸器感染症による入院症例発生との相関を定量的に示した論文を発表した(Suzuki et al., 2009)。この研究によりベトナム成人が禁煙することにより年間約44万症例の5歳以下の小児呼吸器感染症による入院が予防できるという公衆衛生学的メッセージを得るに至った。また、同地域唯一の総合病院であるカンホア県病院へ入院した全小児重症呼吸器感染症患者の臨床情報を網羅的に収集する前向き調査を平成19年より開始し、同時に新たに開発した13種類の呼吸器ウイルス病原体を同時検出できるMultiplex PCR（現在特許申請中）を適応した結果、小児呼吸器感染入院症例のうち6～7割で何らかのウイルス感染が検出されること、またベトナムにおけるRSV・インフルエンザの季節変動が判明した(Yoshida et al., 2010)

国内の呼吸器感染症においては、マクロライド耐性マイコプラズマによる成人市中肺炎の症例をIsozumiらが初めて報告した(Isozumi et al., 2009)。また基礎疾患を有する成人の呼吸器感染症起炎菌として重要な*Moraxella catarrhalis*の医療従事者をも含む院内伝播の可能性について、パルスフィールドを用いて示唆した(Qin et al., 2009)。また同様の手法を用いて、バイオフィルム形成が可能な*Bacillus cereus*と*B. thuringiensis*が病院内環境において定着しときに多数の患者のカテーテルを介した血流感染の原因となっていることを示した(Kuroki et al., 2009)。

またStreptococcus Sanguinisの培養遠心上清に、多剤耐性緑膿菌に対する殺菌効果が見られることを見だし、同菌の治療、コントロールにおける新しい戦略となる可能性を示唆した。(Watanabe et al., 2009)。

II. 呼吸器病学における研究

その有病率の上昇から将来にわたって我が国や発展途上国において重要な保健上の問題となると予想されている慢性閉塞性肺疾患において、従来のスケールでは測りにくい患者の日常生活活動度について、Yozaらは新しく簡便なスケール（ADL-D）を作成し、呼吸困難感を伴う国内のCOPD患者を対象としてその有用性を試した。結果ADL-Dは臨床的呼吸困難感の強さとの良好な相関を有し、このスケールの臨床応用の可能性を示した(Yoza et al., 2009)。

また、基礎研究の分野では、TNF-alphaが肺胞マクロファージのアポトーシス細胞の貪食に抑制的に働き、炎症性サイトカインの産生や炎症細胞の遊走を誘導することを示した(Borges et al., 2009)。

Ⅲ. HIV/エイズに関する研究

当教室は、北タイランパン病院における1000人を超える規模のHIV感染者コホート研究をタイ国立衛生研究所と共同で運営・維持し、このコホートを柱とした各種国際共同研究が進行中だが、平成21年度には特記すべき論文発表はない。

Ⅳ. その他の熱帯感染症に関する研究

デング熱の血小板減少の機序については依然不明な点が多く、当教室でも研究を続けてきたが、本田らは、デング出血熱急性期の患者血小板は、回復期においてより有意にTHP-1細胞(ヒト単球)に貪食されやすいことをflow cytometerを用いて示した。これにより、マクロファージにより積極的に貪食されることが同疾患における血小板減少の1つの要因であることを証明した(Honda et al., 2009)。

また、平成21年度には新たに国境なき医師団の難民キャンプをフィールドとした研究を展開し、タイにあるラオス難民キャンプで発生した水痘症アウトブレイクでは成人に重症例が多かったことを報告し、難民医療における水痘症対策の重要性を示唆する論文を発表した(Shimakawa Y 2010)。

4. 7 免疫遺伝学分野

住血吸虫症、マラリア、シャーガス病、デング熱の免疫遺伝学的な研究を各グループに分かれて推進した。

- 1) 住血吸虫症グループは、ミニブタモデルの免疫抵抗性に関与する抗原たんぱくの解析を進め、網羅的なプロテオーム解析により同定した不活化セルカリアワクチンの重要な抗原分子候補4種類の組み換えタンパクのマウスモデルでのワクチン効果を調べたが、全

く防御効果が見られなかった。プロテオーム解析の重要な問題は根拠となるゲノム情報の信頼性にあるが、これまでの研究によればタンパク情報との乖離が非常に大きいため、この信頼性に大きな疑問があると考えざるをえない。その他、独協大学の寄生虫学グループおよびフィリピン大学の公衆衛生学部の寄生虫グループとの共同研究として、フィリピンの高度流行地での病態とHLAとの関連について調べ学会に報告した（論文準備中）。

- 2) マラリア研究グループは、マウスマラリアであるP.bergei ANKAの頻回感染治療繰り返しによる不完全免疫モデルマウスを用いて、純系マウスの系統差を観察し、Balb/Cにおいては、CBAなどと比較して、非感染赤血球の破壊の程度が明らかに高いことが明らかとなった。しかし最終的に死亡率が高いのはCBAなどであり、その大きな要因が骨髄による赤芽球産生能の違いにあることも示唆された。

Helegbe GK, Nguyen TH, Yanagi T, Shuaibu MN, Yamazaki A, Kikuchi M, Yasunami M, Hirayama K. Rate of red blood cell destruction varies in different strains of mice infected with Plasmodium berghei-ANKA after chronic exposure. Malaria Journal 2009, 8:91 doi:10.1186/1475-2875-8-91

マラリア患者の末梢血リンパ球中の赤外期マラリア抗原に特異的なCTLの頻度とその主要抗原エピトープを検出する目的で、CSやLSA-1抗原のHLA-A*2402適合性ペプチドをアルゴリズムよりデザインして作製し、HLA型の一致する患者の末梢血リンパ球をこれらのペプチドと24時間共培養してこのペプチドにより活性化しγIFNを産生するT細胞の頻度をELISPOT法により検出した。その結果、数種の主要なエピトープを決定することができた。

Tippawangkosol P, Duangchanda T, Ubalee R, Ruengweerayut R, Hirayama K, Na-Bangchang K. Identification of HLA-A24 restricted pre-erythrocytic stage specific T-cell epitopes using Plasmodium falciparum synthetic peptides : a preliminary study. Southeast Asian J Trop Med Public Health. 2009 Jan;40(1):10-7.

- 3) シャーガス病研究グループは昨年に引き続き、ボリビアでの3つの臨床型である心臓シャーガス、消化管シャーガス、無症候性シャーガスの患者各100名から血液を採取し、染色体DNAを抽出し、そこに含まれる原虫由来のミニサークルDNAをPCRにより増幅し遺伝的な系統解析を行った。その結果地域に分布する数種の系統や亜系統によって慢性シャーガスの病原性に影響するものはなく、いずれの系統も等しくすべての病型を誘導することを見出した（論文準備中）。また同じキネトプラスチドの原虫であるリーシュマニア症がネパールにも存在するが、内臓型の治療薬であるミルテフォシン治療後の再発例を見出し報告した。Pandey BD, Pandey K, Kaneko O, Yanagi T, Hirayama K. Relapse of visceral leishmaniasis after miltefosine treatment in a Nepalese patient. Am J Trop Med Hyg. 2009

Apr;80(4):580-2.

- 4) デング熱研究グループはベトナムのホーチミン市の市立病院での小児患者に特殊なショック症候群を見出し、同様な例がこれまでにを行った約500例の症例中に含まれていなかったかどうかについて後ろ向き研究を開始した。また同じホーチミングループを共同でB型肝炎のワクチンと抗ウイルス剤の組み合わせ臨床試験を行った。

Hoa PT, Huy NT, Thu le T, Nga CN, Nakao K, Eguchi K, Chi NH, Hoang BH, Hirayama K. Randomized controlled study investigating viral suppression and serological response following pre-S1/pre-S2/S vaccine therapy combined with lamivudine treatment in HBeAg-positive patients with chronic hepatitis B. Antimicrob Agents Chemother. 2009 Dec;53(12):5134-40. Epub 2009 Sep 21

4. 8 感染生化学分野

食細胞NADPH oxidase の遺伝子発現機構を研究する過程で偶然に発見した新規なG/TミスマッチDNA 結合タンパク質(nGTBP)が、転写因子FOXK2である事を明らかにし、論文としてまとめて報告した (J. Biochem. 2010; 147(5)705-709)。FOXK2はG/TミスマッチDNAに特異的かつ高い親和性を持って結合する。また、A/Tおよび G/Cの脱アミノ化により生成するhypoxanthine/TおよびG/uracilにもG/Tと同等に結合する。高い選択性と親和性は、生物学的意義を強く示唆する。G/TミスマッチDNAおよび脱アミノ化DNAはポリメラーゼのエラーやさまざまなストレスにより高率に起きる変異であり、DNAの恒常性を維持するために修復機構により修復されなければならない。FOXK2が変異DNAの存在を示すセンサーとして働き、修復の起点となると予想される。転写因子はDNA結合ドメインを含むタンパク質であり、転写制御を行う傍ら同時に変異DNAを探すセンサーとして働くとすれば、合理的であり、これまでにない全く新しいDNA修復機構を提唱できる。そこでFOXK2による修復メカニズムの解明を進めた。

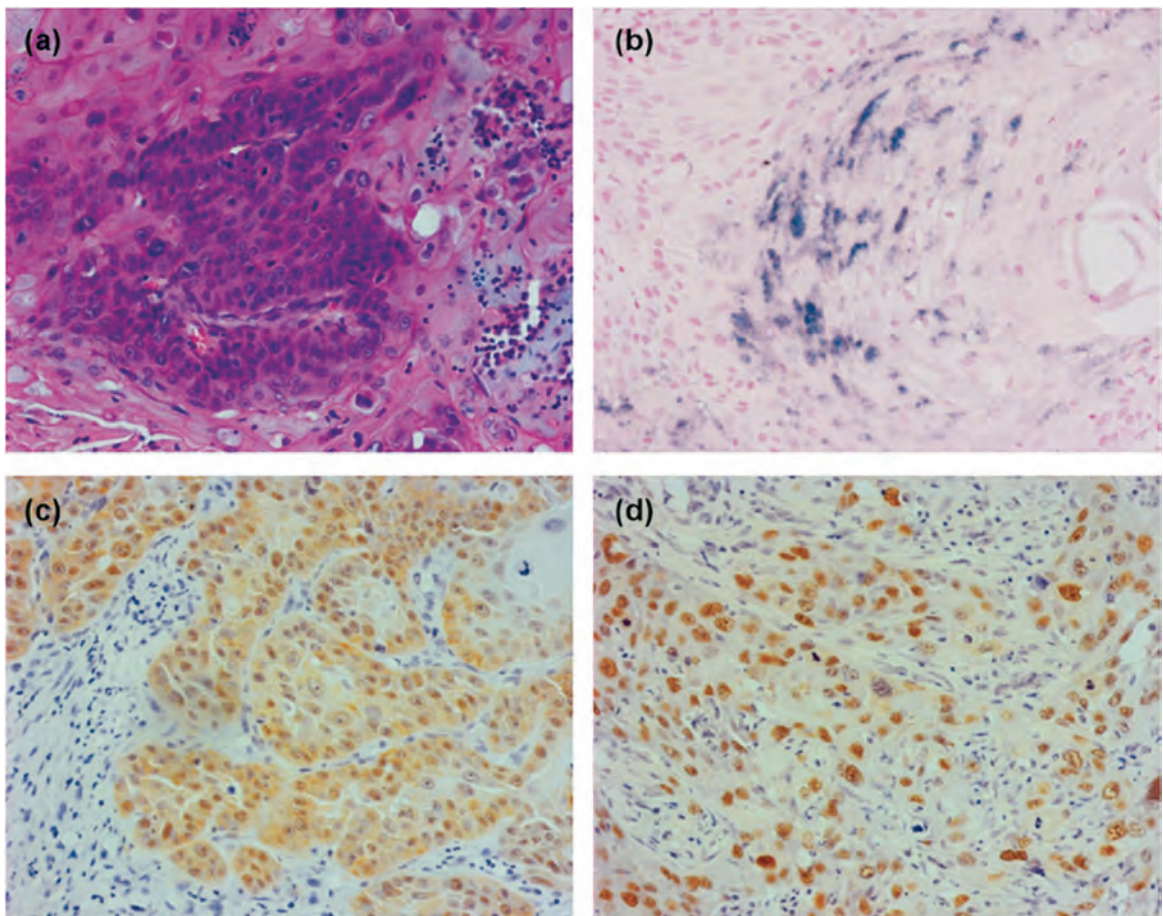
これまで転写因子によるミスマッチDNA認識についての報告がいくつかありながら、詳細な検討が進んでいない。その原因は修復系が複雑であり、かつ感度の良い実験系が必要なため、その証明が難しいためであろう。さらに、ミスマッチを含むDNAから網羅的に結合配列を選択する実験系が存在しないために効率の良い実験ができない事も、進まない一因であると考えられる。そこで、ミスマッチを含む多様なDNAから結合配列を同定する方法を考案し、基礎検討を進めた。

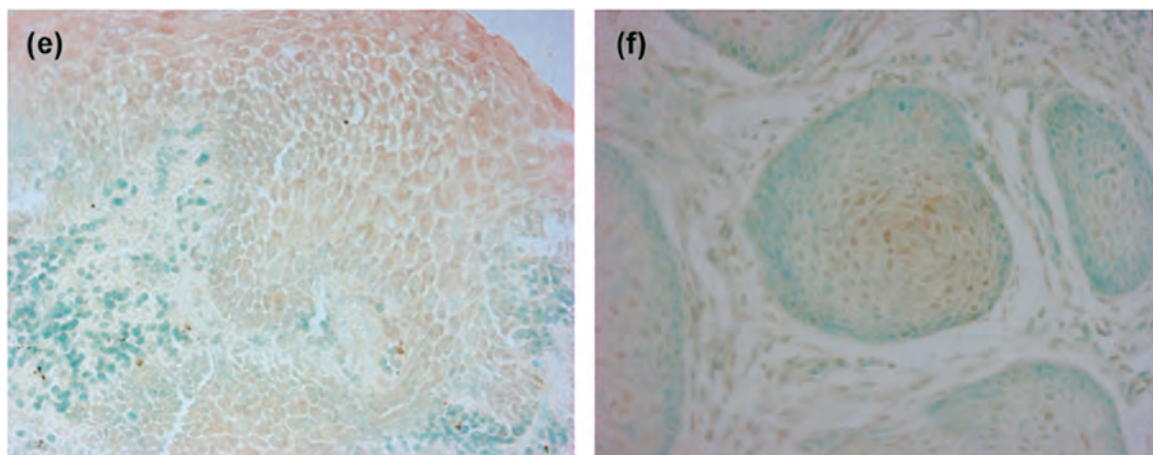
4. 9 病理学分野

I. ケニヤ国の陰茎癌におけるヒトパピローマウイルス感染と細胞調節蛋白質p53, p16^{INK4a}とNF- κ Bの関連性

ヒトパピローマウイルス (HPV) E6とE7遺伝子産物は、いくつかの細胞調節蛋白質 (例えば p53, p16^{INK4a}と核因子 κ B (NF- κ B)) と相互に作用することによって、良性の増殖と悪性転換の誘導において、中心的な役割を果たしている。

この研究において、HPV-DNAは、ケニヤでの22の陰茎癌症例で、インサイツ・ハイブリダイゼーション (ISH) によるHPVの同定、また免疫染色によりp53, p16^{INK4a}およびNF- κ Bを検出した。HPV-DNAは、症例の68.2%で見つかった。p53-とp16^{INK4a}-陽性の症例は、HPV-DNA陽性とHPV-DNA陰性ケースに差がなかった。HPV-DNA陽性症例において、核、細胞質のそれぞれ、および核と細胞質の両方にNF- κ B陽性は73.3%, 93.3%と100%認められた。HPV-DNA陰性の症例においては、核および細胞質の中に28.7%のNF- κ B陽性が認められた。陰茎癌で、HPV-DNA陽性の症例では、HPV-DNA陰性の症例と比較してNF- κ Bがより強く発現すると結論できる。



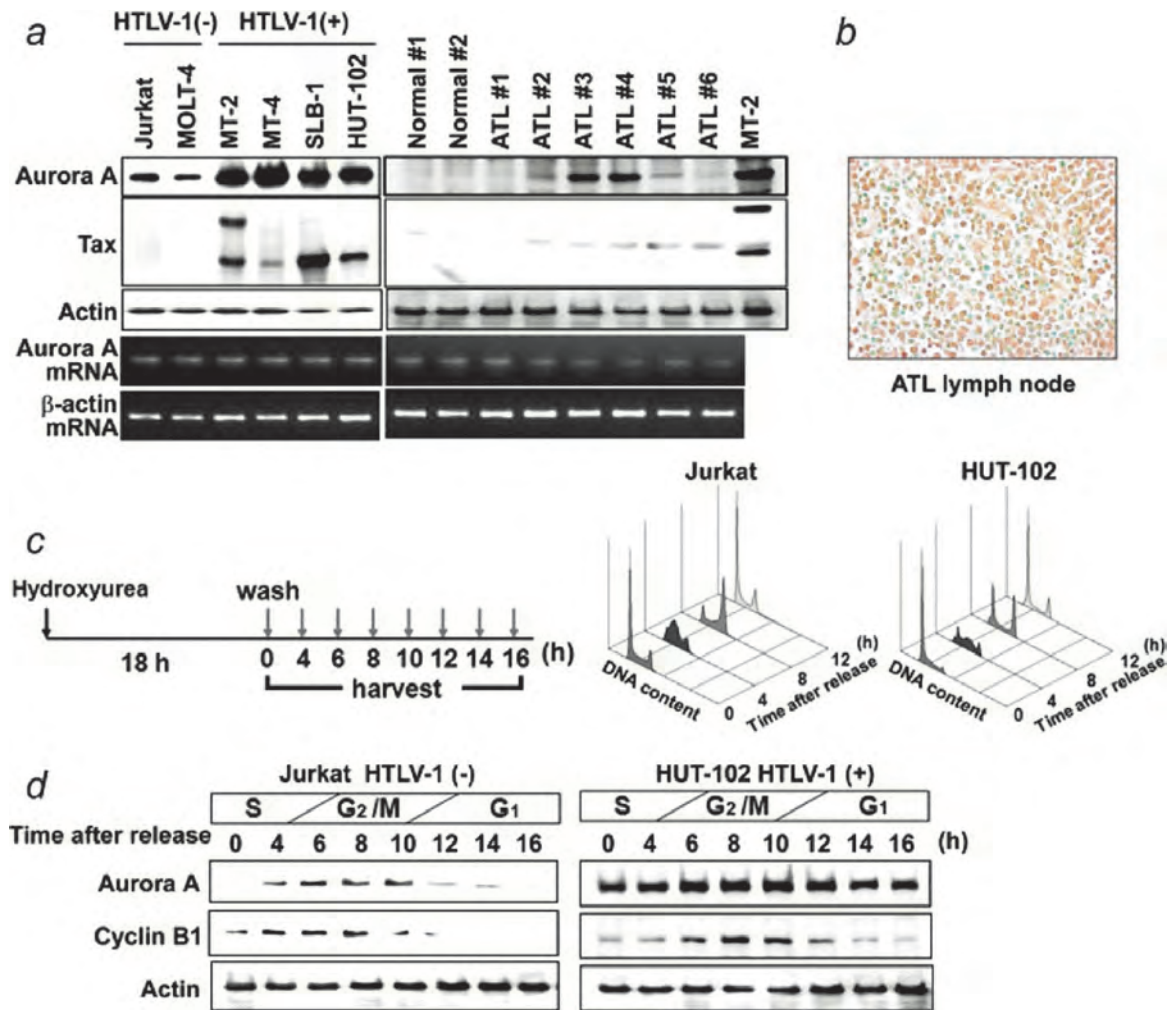


(a) 陰茎癌，ヘマトキシリン・エオジン染色 (b) 陰茎癌の中に見られるヒトパピローマウイルス，in situ hybridization 法 (c) 陰茎癌の中に見られる $p16^{INK4a}$ (d) 陰茎癌の中に見られる $p53$ (e) 陰茎癌の細胞質に発現している $\text{NF-}\kappa\text{B}$ (f) 陰茎癌の核に発現している $\text{NF-}\kappa\text{B}$

(文献：Senba M, Buziba N, Mori N, Wada A, Irie S, Toriyama K. Detection of human papillomavirus and cellular regulators $p16^{INK4a}$, $p53$, and $\text{NF-}\kappa\text{B}$ in penile cancer cases in Kenya. *Acta Virol.* 2009; 53 (1) : 43-48.) IF: 0.810

II. CHFR遺伝子発現の損失によるオーロラAの過剰発現は，強化された $\text{NF-}\kappa\text{B}$ 活性を通して，HTLV-1感染したT細胞の成長と生存を増加させる

ヒトT細胞白血病ウイルス1型 (HTLV-1) は，成人T細胞白血病 (ATL) の病原体である。オーロラA (有糸分裂チェックポイント・タンパク質) は，人間の癌細胞で過剰発現する。オーロラAの細胞サイクル依存交代は，E3ユビキチン・リガーゼとCHFRによって調整される。ここで，我々はオーロラA蛋白質の過剰発現をHTLV-1感染したT細胞株および本来のATL細胞で見出した。CHFR mRNAの発現は，CHFRプロモーター領域の異常なメチル化によって，これらの細胞で減少した。小さい干渉のRNAを使用しているオーロラAのノックダウンは，HTLV-1に感染したT細胞株の成長を抑制した。オーロラA発現プラスミドのトランスフェクションは，Taxによって誘発された核因子- κB ($\text{NF-}\kappa\text{B}$) リポーター活動を強化した。HTLV-1に感染したT細胞株へのCHFR発現プラスミドのトランスフェクションは，細胞成長，オーロラA蛋白質レベルと構成する $\text{NF-}\kappa\text{B}$ の運搬活動を減らした。オーロラ・キナーゼ抑制薬は，HTLV-1に感染したT細胞株および本来のATL細胞の成長と生存を抑制した。 $\text{I}\kappa\text{B}$ キナーゼbリン酸エステル化と抗アポトーシスのタンパク質survivinの発現を減らすことによって，HTLV-1に感染したT細胞株で，構成する $\text{NF-}\kappa\text{B}$ 活性も減少した。我々の結果は，CHFR発現の損失がオーロラAを蓄積して， $\text{NF-}\kappa\text{B}$ 活性を増加させた。これらの所見はHTLV-1に感染したT細胞でオーロラAの重要な役割を強調する。さらに，この分子が将来ATLの治療の適切な指標になることが期待される。



HTLV-1に感染したT細胞株と本来のATL細胞のオーロラAの過剰発現。HTLV-1に感染したT細胞株[HTLV-1(1)], 感染していないT細胞株[HTLV-1(2)], ATL(ATL 1-6)を有する患者からのPBMCsと健常な提供者(正常1と2)からの(a)オーロラAとTaxタンパク質発現は, ウェスタンブロット法によって分析された。アクチン発現は, コントロールとして用いられた。オーロラA mRNA発現はRT-PCR(一番下からの2枚目のパネル)によって分析された。ATLの患者のリンパ節のオーロラAの(b) Immunohistochemical染色。(c) JurkatとHUT-102細胞は, 初期のS期でヒドロキシウレア(1mM(18時間の))と同時に, 停止(左のパネル)から解放された後に集められた。細胞周期停止からの解放された後の細胞周期同期は, 流動細胞計測法(正常なパネル)によって確認された。JurkatのオーロラAと細胞周期停止から解放された後のHUT-102細胞(d)発現は, ウェスタンブロットによって測定された。サイクリンB1は, G2/M期の標識である。

(文献: Tomita M, Toyota M, Ishikawa C, Nakazato T, Okudaira T, Matsuda T, Uchihara JN, Taira N, Ohshiro K, Senba M, Tanaka Y, Ohshima K, Saya H, Tokino T, Mori N. Overexpression of aurora A by

loss of CHFR gene expression increases the growth and survival of HTLV-1-infected T cells through enhanced NF- κ B activity. Int J Cancer. 2009 Jun 1; 124(11): 2607-2615.) IF: 4.555

4. 10 エイズ・感染防御分野

当分野では、エイズの原因ウイルスであるヒト免疫不全症ウイルス1型(HIV-1)の感染に関与する新規宿主因子の同定と、その作用機序に関する研究を行っている。加えて、最近、ヒトにも伝搬しており、前立腺癌や慢性疲労症候群と関連している可能性が示された、HIV-1と同じレトロウイルスに属するマウス白血病ウイルス(MLV)の感染機構の研究も行っている。平成21年度の研究内容は以下の通りである。

I. 宿主細胞膜のラフト領域にCXCR4が存在することがHIV-1感染に重要である

細胞膜にはコレステロールや糖脂質に富んだ、「ラフト」と呼ばれる領域が存在する。コレステロールを細胞膜から抽出するmethyl- β -cyclodextrinがHIV-1感染を抑制することから、HIV-1感染にラフトが重要であることが知られていた。加えて、HIV-1のリセプターであるCD4はラフト特異的に存在するが、コリセプターであるCXCR4はラフトに存在しないこと、ラフトに存在出来ないように改変したCD4変異体はHIV-1のリセプターとして機能しないことから、CD4のラフト局在がHIV-1感染に重要であると考えられてきた。しかし、最近、ラフトに存在出来ない別のCD4変異体が、HIV-1のリセプターとして機能することが示され、HIV-1感染におけるラフトの役割は、議論的となった。

我々は、methyl- β -cyclodextrinが、CD4を必要とせずCXCR4のみを介するHIV-1感染を抑制すること、methyl- β -cyclodextrinが、ラフトに存在できないCD4変異体によって誘導されたHIV-1感染も抑制することを発見し、CD4ではなくコリセプターであるCXCR4のラフト局在がHIV-1感染に重要であることを示した。この研究により、HIV-1感染におけるラフトの役割に関し、長年、論争されていた問題に終止符が打たれた。H. Kamiyama et al. Virology 386:23-31 (2009)。また、糖脂質の合成に影響する物質がHIV-1感染を効率よく抑制することを見つけた(特許出願中)。

II. カテプシンLはMLV感染に重要である

MLV感染は、インフルエンザウイルスと同様に、エンドソーム酸性化阻害剤によって抑制されることから、これらのウイルス感染はエンドソームの酸性化を必要とする。インフルエンザウイルスの酸性処理は、細胞内侵入活性を活性化するが、MLVの酸性処理は活性化しない。こ

の結果から、MLV感染には、酸性エンドソーム内に存在する細胞因子が関わっていることが示唆されていた。我々は、酸性エンドソームに存在するカテプシン蛋白質分解酵素がMLV感染に関わっているかどうか解析した。その結果、カテプシンB阻害剤が、MLV感染を抑制することから、MLV感染にはカテプシンBが必須であることがわかった。残念ながら、Albrittonらの研究グループが、我々よりも先に、同じ結果を発表してしまった。しかし、我々は、この研究において、カテプシンBを発現していない細胞もMLV感染に対して感受性であることに気付いた。そのような細胞では、カテプシンL阻害剤がMLV感染を抑制することから、カテプシンLもMLV感染に必須であることを明らかにした。H. Yoshii et al. *Virology* 394:227-234 (2009)。

4. 11 生態疫学分野

平成19 (2007) 年度末を以て熱帯感染症研究センターは解体され、生態疫学分野がその一部を受け継いだ。しかし、平成21 (2009) 年度においては、生態疫学分野に所属する研究者はいずれもケニア拠点または熱帯医学ミュージアムの活動(ケニア拠点支援も含む)に専念しており、日本国内には研究室も無く、部門としての実態はなかった。従って、活動の詳細は本年次要覧の「ケニアプロジェクト拠点」ならびに「熱帯医学ミュージアム」の項でも報告する。

【研究活動】

I. Demographic Surveillance System (DSS) の構築と運用および疫学的研究への応用

1) 西ケニア, Mbita

平成18(2006)年8月に開発と同時に稼働させていたDemographic Surveillance System(DSS)の問題点を洗い出し、修正、追加開発したシステム、すなわちPDA(Personal Digital assistance: ハンディ・コンピュータ)を用いたデータ収集システムとグローバル・ポジショニング・システム(GPS)を連動させ家屋の緯度経度を自動記録するシステム、を活用し、人口動態・静態に加えていくつかの調査を開始した。

平成20 (2008) 年度に開発した、疾病罹患・死亡のリスクファクターに関するいくつかの調査内容をPDAによる通常調査に追加して自動的に立ち上げるシステムを平成21(2009)年1月から稼働させ、水源・水の利用調査、蚊帳の利用状況調査、医療受動行動調査を継続した。

本DSSサイトは平成21 (2009) 年10月、INDEPTHに、日本が行うHDSSとしては初めて加入が認められた。INDEPTHとは世界38カ所で行われているビルゲイツ財団も認めるDSS実施機関の国際コンソーシアムである。

2) ラオス, サバナケット県, Lahanam

平成22 (2010) 年 2 月から, ケニアで開発した上記システムの移植を行い, 8,000名の登録を行った。(地球研との共同研究)

II. 熱帯地における下痢原因菌の病因および疫学的研究

平成21 (2009) 年度も現地スタッフの養成を行いながら, 細菌, ウイルスなどの検査機能の向上, ラボの整備を行なった。

ケニアにおける小児下痢症の実態を把握するために整備したP2の細菌検査室と遺伝子検査のための実験室, また平成20 (2008) 年後半から実際に運用を開始した血液検査およびウイルス学研究のためのP3実験室に関し, African Biological Safety Association主催の第一回バイオセーフティー会議 (ナイロビ) で報告を行った。

平成20 (2008) 年 8 月から約一年間実施した小児下痢症の実態調査では, 下痢便検体採取と同時に無症状のコントロールからも採便を行った。この結果, 下痢原性細菌として, 赤痢菌, サルモネラ, コレラ菌は検出されなかったが, キャンピロバクターは少数検出された。しかし大半は病原大腸菌およびロタウイルスが検出された。また病原大腸菌については下痢症患者, コントロールからの分離率には差がなく, その病原的意義は低いことが示唆された。現在, 赤痢菌, コレラ菌, サルモネラ菌をターゲットとして, PCR法を用いた菌の分離精度についての検討を行っている。

一方, 20数回にわたるコレラ流行調査活動を通じて分離してきた約150株コレラ菌株について疫学的解析を進めている。また迅速診断法 (LAMP法) のフィールドでの応用に関する検証を行い, 十分応用可能であることが示唆された。また分離されたコレラ菌株の病原性等に関わる遺伝的背景の検討を行い, モザンビークなどの報告同様, 生物型はクラシック, エルトールのハイブリッド型であること, 薬剤耐性についてはベトナムで見られた新たなテトラサイクリン遺伝子は検出されていないものの, アジアで見られる通常の耐性遺伝子であることなどの知見が得られている。更に分離された毒素原性大腸菌のEntプラスミドに関する報告を行った。

III. アフリカにおける「顧みられない熱帯病 (NTD)」対策に資する多重感染症の一括診断法の開発

平成21 (2009) 年度から開始した, 新規のJST振興調整費による研究である。

複数の病原体に対する抗原精製系の確立と新技術であるMultiplex法を用いた単体の病原体診断とこれまでの診断方法の比較と評価を行い, Multiplex法による複数病原体を組み合わせた同時診断の検討を開始した。また, ケニア国内における診断拠点をケニア中央医学研究所内に確保し, 2 年目からの活動に備えた準備を行った。

これまで抗原の精製に取りかかったもしくは精製もしくは入手が終了した病原体は、西ナイル熱などのアルボウィルス系のいくつかとHIV、コレラ菌、結核菌、マラリア原虫、赤痢アメーバ、フィラリア、住血吸虫である。

上記病原体抗原を用いた診断をMultiplex法とこれまでの方法による診断とを比較し、同じ精度で診断を得る事が出来るかどうかの検討、さらには、精製したマイクロビーズ(Multiplex法で用いる病原体と調整した診断用ビーズ)の保存期間の検討も行った。

ケニアにおいては、ナイロビに設置するMultiplex機器の設置場所の確保とケニア政府に対する研究計画書承認の準備を行った。

なお、この他外部資金による研究として、gCOE「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」に参画、科研費基盤研究(B)「熱帯地における下痢原因菌の病因論とその疫学的研究」を実施した。

【教育活動・社会貢献】

平成21(2009)年度から、ケニア拠点には国際健康開発研究科学生が派遣されるようになった。これら学生の実質的指導を行った。また、社会活動として、JICA草の根技術協力事業(草の根パートナー型)を継続実施した。

教育活動・社会貢献の詳細については、「ケニア拠点」ならびに「熱帯医学ミュージアム」の項を参照のこと。

(文責：嶋田雅暁)

4. 12 国際保健学分野

I. 病原体の分子進化，感染自然史

1) 東アジアにおけるHTLV-1の地域偏在性の系統地理学的背景

東アジアのHTLV-1の空間的広がりとは系統分化の過程の解明に取り組んでいる。岩手、高知、平戸(長崎)、熊本、加計呂麻島(奄美群島)、そして沖縄本島由来のHTLV-1約200株についてenv領域のRFLP解析およびLTR領域塩基配列に基づく系統解析を行った。日本列島内では中心部から周縁部に向けて、HTLV-1フリーの地域、JPN系統流行地域、JPN系統とTC系統が共存する地域という分布構造が見られた。また、系統解析からは広域に分布しているTCの内群としてJPNが分岐したという関係は示されなかった。これらの結果は、JPN系統が日本で起源し、本土を中心に広まったというよりは、TC系統とJPN系統の分化

が大陸で起こり、それぞれの陽性ヒト集団が異なる時代に日本に渡来したと考えるほうが妥当であることを示している。

2) STLV-1の感染自然史

HTLV-1に近縁なサルT細胞白血病ウイルス (STLV-1) の感染自然史の解明を目指している。これまでに得られた疫学情報の分析から、群によっては陽性率がしばしば50%を超えることが明らかとなり、さらに、HTLV-1とは異なり、母子感染よりも性成熟以降の水平感染によって高い陽性率が維持されている可能性が示唆された。

Eguchi K, Ohsawa K, Fuse M (kiyono), Suzuki J, Kurokawa K, Yamamoto T. Epidemiological Evidence that Simian T-lymphotropic Virus Type 1 in *Macaca fuscata* has an Alternative Transmission Route to Maternal Infection. *AIDS Research and Human Retroviruses*. 2010. (in press).

II. 環境や気候変動と感染症

1) バングラデシュにおける気象と下痢症および総死亡

地球温暖化がコレラなど下痢症に対して及ぼす影響を明らかにするため、過去20年間の降雨量および気温と患者数のデータを用い時系列統計解析を行った。週平均降雨量の増加によりコレラ患者数は14%増加し、コレラ以外の下痢症は5%増加することが明らかとなった。逆に、平均降雨量が減少してもコレラ患者数が増加することも明らかとなった。

2) 東アフリカ高地における気象とマラリア流行

90年代に東アフリカ高地で起きたマラリア流行は、従来エルニーニョが原因と考えられていたが、インド洋の東西で海面水温の極端な差が生じる「インド洋ダイポールモード現象」と関連があることを、マラリア患者数の時系列データを統計解析することにより示した。

III. 感染症流行の生態学的解析

1) マラリア伝播における微小スケールでの空間構造の重要性

マラリアは、媒介蚊であるハマダラカが人を探索して吸血し水たまりへ戻って産卵するというサイクルを繰り返すことで伝播することから、流行の動態や維持機構を明らかにするためには媒介蚊の行動を理解することが不可欠である。マラリア流行地で観察された蚊の分布から、媒介蚊に吸血されるリスクはひとつの村の中でさえ大きく変動し、それは蚊の発生源からの距離と家の周辺数百メートル以内の人口から予測できることが明らかになった。このような蚊の分布と行動を考慮した数理モデルを用いた解析により、マラリアを無くすために最も効率のよいコントロールの重点ターゲットの特定を試みている(論文準備中)。

2) デング熱およびデング出血熱の大流行の早期予測システムの開発

デング熱およびデング出血熱は主にネッタイシマカによって媒介されるウィルス疾患で、熱帯地域において近年増加している。多くの流行地で患者の発生に季節的な周期が見られるとともに数年に一度の不規則な間隔で大流行が発生する。大流行の可能性を事前に知ることが出来れば医療体制の整備や大規模な予防キャンペーンの可能性が開けるため、デング大流行の早期予測システムの実現が望まれている。我々は過去数年間のデング熱およびデング出血熱の月別患者数と気象データから、流行の動態を左右するパラメータを決定し、流行のごく初期にその年の流行の規模を予測する数理モデルの開発を試みている。このモデルにより患者数の予測のみならず殺虫剤噴霧やワクチンなどのコントロールの有効性についても評価が可能になる（論文準備中）。

IV. 途上国におけるエイズ発生動向と介入に関する研究

1) エイズ流行の社会的要因

血液媒介性の感染症は医療現場での感染リスクが高く、より確実な予防策が望まれている。中国の医学生を対象にHIV感染リスクの知識調査と、無作為化試験による短期間の教育的介入の評価を行った。医学生の知識は概ね良好だったが、感染経路や外傷の対処方法など一部正答率の低い問題もあった。1回の講習によって有意な知識レベルの上昇は見られず、長期的な教育的介入の必要性が示唆された。

2) エイズ流行の社会的要因

目下、中国では南部国境付近にHIV感染が局在しており、今後、人口流動にともない中国全土に急速に拡大していくことが懸念されている。この感染拡大阻止のためには南部国境付近の省における早急な現状把握が必要であるが、感染者の多くがヘロインなどの違法薬物依存者や性産業従事者等であるため、感染実態把握が困難な状況である。流行地での社会構造とHIV伝播の実態把握による感染拡大阻止を目的として現地での調査を実施している。

4. 13 国際健康開発政策学分野

広範囲にわたる的確な知識と経験によって対処しなければならない感染症の問題は、もはや保健・医療分野だけではなく、地球環境や国際平和といった「人間の安全保障」にかかる的確な知識と経験も重要となる。当分野では、熱帯地域を中心とする開発途上諸国・地域のさまざまな社会環境が、いかに保健・医療や民生福祉の問題に関わり、どのような問題を生み、ある

いはどのような影響を与えているか、について社会科学および人文科学を含む学際的接近を図る研究を行い、政策立案に供している。

また、開発途上国を対象とした国際協力の手法が、二国間および各国間を問わず、いかに研究所全体における各分野の有機的つながりに寄与し得るかについても、学術交流協定等を介し種々の取り組みを実施している。とりわけ行政機関や国連関連の地域研究センターを通じた情報・資料の集積や活用および、それらに対する専門的解析や対応が中心である。

I. 研究活動概要

当分野においては、地域保健・医療領域におけるPHCや国際保健の向上に資するさまざまな研究活動がなされてきた。具体的には以下に掲げる諸テーマのもとに、基礎研究および応用研究がなされ、現在それぞれに関する種々のケーススタディと、そのフォロー・アップを行っている。

- 1) 熱帯における疾病の出現頻度、範囲、組み合わせなどを規定する社会的背景に関する解析研究
- 2) 熱帯地域における人間社会環境による疾病への影響及び効果的予防法の究明
- 3) 「人間の安全保障」に関する栄養、経済コスト、教育、環境の視点からの尺度、標準化
- 4) 地域医療および国際保健事業の実施面からみた感染症対策に関する研究
- 5) 日本政府ODAにおける医療サービス事業の量的、質的特徴に関する研究
- 6) 熱帯医学に関する情報集積システムの開発（地域別、疾病別、行政形態別）
- 7) 危機管理を含む熱帯地域派遣者のための医学研修プログラムの改善に関する調査・検討
- 8) 熱帯アジアにおける感染症の疫学と行政対応の比較研究（SARSおよび鳥インフルエンザを例として）
- 9) 衛星データを用いたリモートセンシング、および簡易GIS手法による環境変動と感染症との関係に関する研究

特に、リモートセンシングとGISを用いた研究では、先端技術を用いた、疫学的、人文学的調査・解析を行っている。例えば、リモートセンシングによる研究では、ベトナムにおける衛星データを用いた土地被覆分類、植生指標や温度分布などの環境指標解析による疾病対策の検討など、新しい技術の保健・医療分野への応用研究を積極的に行っている。

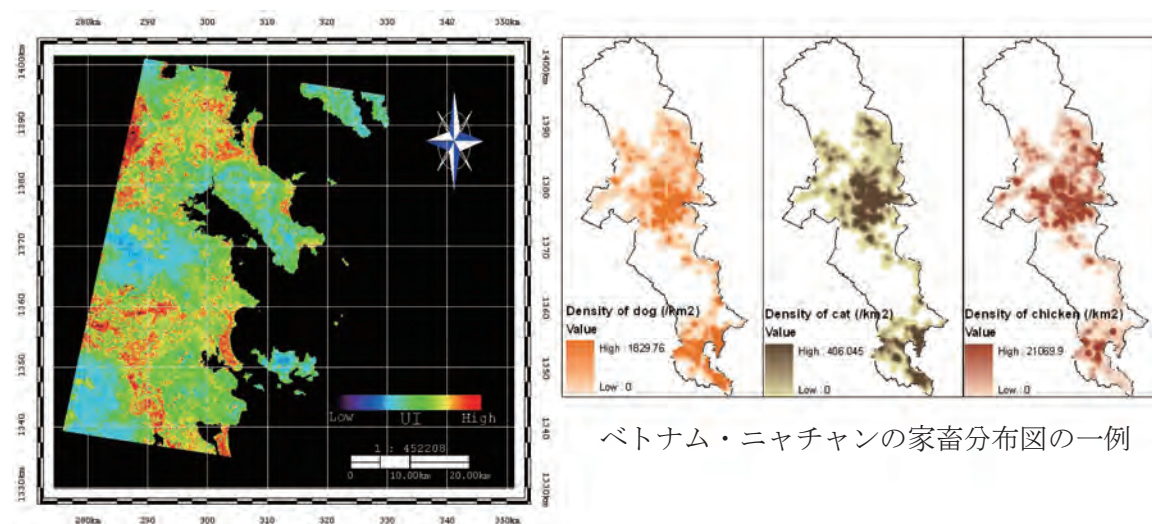
II. 共同研究

当分野は、社会環境や国際保健医療などの幅広い分野を網羅している分野であり、様々な研究分野の研究者とともに共同研究を進めている。特に、GISやリモートセンシングを適用した新しい解析手法や研究成果について、他分野の専門家などと意見や情報の交換を行いながら、

保健・医療分野への応用研究を進めている。

例えば、疾病は人々が生活している空間で発生し、その疾病対策を考えるためには、疾病と社会環境の変化との関係を知ることが重要となるが、生活空間の広がりであり、かつ疾病と関わる生物との関係を大きく変化させる都市化を数値化することは難しく、特に発展途上国などの地図がない国や、ベトナムのような経済発展が著しい国においては、都市化を定量的に調べることは大変困難である。そこで、都市化を容易に定量的に算出することを目的として、衛星データから都市化の指標を算出できる都市化指標UI (Urban Index) の有用性や問題点などについて調査している。

また、ベトナムにおいて、家畜と疾病との関連について、GISを用いて研究解析を進めている。この研究では、家屋レベルで家畜情報（種類、飼育数など）を収集し、そのデータを疾病情報や人口密度などを含むGISデータとリンクさせ、家畜と小児下痢症や小児肺炎などの疾病データとの関連性について空間解析を主体として調べている。



衛星データによるベトナム・ニャチャンの
都市化分布図

ベトナム・ニャチャンの家畜分布図の一例

4. 14 病害動物学分野

当分野は、蚊を中心とした病害昆虫の生理、生態、防除及び分類と、昆虫媒介性疾患の疫学について、臨地研究を重視した基礎的及び応用的研究を行っている。現在、ケニアではマラリア媒介蚊、東南アジアではベトナムを中心にデング熱媒介蚊の研究を行っている。

I. ケニアにおけるマラリア媒介蚊研究

1) 生態研究

ケニア共和国ビクトリア湖畔にあるビタ地区においてビタ地区にある村の家屋から2006年より媒介蚊の定期採集と一部の村で繁殖地の調査を実施している。また、雨量やビクトリア湖の水位なども継続的に観測している。採集した蚊は、ナイロビに設置したラボでPCR法を用いて種を同定するとともに、エライザ法により原虫の有無を調べている。これまでの研究で、1990年代後半に比べて蚊の密度が激減していることが明らかになり、種構成は一部の島を除き、ガンビエ (*Anopheles gambiae*) がアラビエンシス (*An. arabiensis*) に置き換わりつつあることが明らかになった。また、湖岸沿いの一部の村では、フネスタス (*An. funestus*) が増加している。密度の減少と種構成の変化は、蚊帳の普及に関与しているとも考えられ現在調査中である。また、フネスタスの増加は、湖の水位変化と関係あることが明らかになった。さらに、湖の中には媒介蚊は繁殖しないといわれていたが、フネスタスがホテイアオイがある湖水で繁殖しているのが確認された。5才以下の幼児感染率の調査も2008年より実施しており、フネスタスの多い村で感染率が高いことが明らかになった。

また、ケニア全土でマラリア媒介蚊の採集を実施し、分布図の作成を行っている。また、採集した蚊の集団を遺伝子レベルで比較を行い、蚊の分布にどのような要因が影響しているか分析を行っている。

2) 防除研究

4年前より普及し始めた殺虫剤つきの蚊帳の普及状況と使用状況を調査した。蚊帳の普及はほとんどの村で2人につき1枚というWHOの目標値を超えており、十分にあることが明らかになった。しかし、必ずしも全員が蚊帳を使用するとは限らず、5～15才の子供の使用は6割ぐらいにとどまった。これは、この年齢の子供は居間の床で寝ることが多く、蚊帳がわりにくい、つまり、寝る場所と家の構造で蚊帳の使用が影響されることが明らかになった。現在、蚊帳に変わる防除法の開発を行っている。

ケニアでは、ピレスロイド系に対する媒介蚊の抵抗性はこれまで見られなかったが、殺虫剤対の蚊帳の普及により抵抗性をもった蚊の出現が懸念されている。そこで、ビタ地区において採集された蚊の抵抗性および遺伝子(kdr)の有無を調査中である。また、ケニア全土で採集した媒介蚊においても遺伝子の有無を分析中である。

II. 東南アジアにおけるデング熱媒介蚊研究

1) 東南アジアにおけるデング熱媒介蚊の浸襲実態の精査

H17～H20年度にベトナムで実施した調査によって、全国調査法及び予測マップ作成法が確立された。予測マップによると、ベトナムのネッタイシマカとヒトスジシマカは人口密度と気温で分布が決定されていることが明らかになった。これは、デング熱媒介蚊が人間の活動と気象に大きく影響を受けていることを示唆している。これらの結果をふまえ、H21年度

は、さらに詳細な生態データ収集のため、タイとフィリピンにおいても同様な調査を行った。その結果、都市化から農村部にかけた環境傾斜とデング熱媒介蚊の浸襲度との関係(一般的に言われているネッタイシマカは都市部と多く、ヒトスジシマカは農村部が多い)は、採集国によって異なっていることが示唆された。デング熱媒介の分布は、前述のように気象や人間活動といった様々な環境要因の結果であり、その各要因の効果が国や地域によって異なるためと思われた。

2) デングウイルス媒介蚊の発生メカニズム解明および対策に関する研究

媒介蚊やその発生源の分布に影響を与える諸要因の相対的な重要性を明らかにすることは合理的なデング媒介蚊およびデング熱対策の実施を計画するために必要不可欠である。現在、個人・世帯・地域それぞれの階層における環境要因と媒介蚊発生およびデング熱流の関係を明らかにするためにベトナムをフィールドにした調査を実施している。H21年度はベトナム中部・南部の調査で、住民の保健行動(屋内の水がめ等の保水容器の蓋使用)はボウフラ発生数を低減する効果があるが住民のデングに関する知識は保健行動に影響していないこと、ボウフラ発生源として重要な水がめ等の容器を保有する家屋や構成員数が多い世帯では繰り返しボウフラ発生源家屋となるリスクが高いこと、都市部では発生源容器のほとんどが屋内やその周辺に存在するため降雨量の変化が直接に発生源容器数や媒介蚊発生数に与える影響は少ないが夏季の気温の上昇は媒介蚊のウイルス感染効率の上昇に影響を与えていること、などが示唆された。

また、平成21年よりハノイ市内の家屋からヤブカ属の蛹と成虫の定期採集を行っている。ネッタイシマカの蛹と成虫は冬に低密度になるが、一年中採集された。一方、ヒトスジシマカは冬の間ほとんど採集されなかった。温帯ではヒトスジシマカは卵で越冬する。ハノイ市内で採集したヒトスジシマカを室内において短日条件(明暗サイクル10時間:14時間)と長日条件(明暗サイクル14時間:10時間)で飼育した結果、長日条件においた卵は水につけると20日で50%が孵化するのに対し、短日条件においた卵では60日が経過しても孵化率は50%に達しなかった。これまで台湾以南のヒトスジシマカは非休眠系統とされてきたが、ハノイで採集されたヒトスジシマカでは少なくとも一部の個体群は休眠系統であることがわかった。

ベトナムにはヤブカ属が媒介する感染症としてデング熱があるが、最近、チクングニヤ熱が疑われる症例も出てきている。現在、イエカ属も含めてこれまでに採集した蚊から蚊媒介性のウイルスを分離する作業を行っている。

5 附属施設

5. 1 アジア・アフリカ感染症研究施設

平成20年度の改組に伴い、ベトナムハノイの国立衛生疫学研究所通称NIHE内の長崎大学感染症研究拠点、大洋州8カ国のJICA拡大ワクチンプロジェクトの受託によるフィジー拠点、さらにケニアナイロビ市のケニア中央医学研究所通称KEMRI内の感染症研究拠点の3拠点を包括して、熱帯医学研究所の附属施設として当施設を開設した。各拠点の活動に関してはそれぞれの活動報告を参照のこと。

5. 2 熱帯性病原体感染動物実験施設

- (1) 所内感染動物実験施設運営委員会：金子修前施設長から交代した濱野真二郎新施設長（平成21年9月1日付）が委員会を開催（平成22年3月30日）し、つぎの6点を報告し了承された。出席者は、早坂大輔（ウイルス学）、和田昭裕（細菌学）、中澤秀介（原虫学）、三井義則（寄生虫学）、渡邊貴和雄（臨床医学）、平山謙二（免疫遺伝学）、藤井仁人（感染生化学）、千馬正敬（病理学）、久保嘉直（エイズ・感染防御）、奥村順子（国際保健学）、後藤健介（国際健康開発政策学）、川田均（病害動物学）の各委員と委員以外の松尾真総務係長、柳哲雄（動物実験施設）であった。①平成21年度の施設経費（平成22年3月29日現在）の報告（総額1,578万円）。②平成20年度の長崎大学動物実験委員会が管轄する「自己点検・評価報告書」に関連して、平成20年度運営委員会が採決したスナネズミの微生物検査を民間に委託して実施し、腸管寄生原虫陽性の結果を得たため、施設長の命のもとにその個体群が処分された。平成20年度の自己点検調査では、動物の搬入・検疫以外に問題点はなかった。④平成21年11月から動物実験計画の申請がWeb申請になった。平成21年度中におこなわれた申請は新規が全学で91件（うち熱研が14件）、変更申請が全学で93件（うち熱研が13件）であった。⑤平成23年3月に竣工予定（本格運用は平成24年4月の予定）の先導生命科学研究支援センター増築棟の設計図面の説明をおこなった。⑥施設内の危機管理体制について委員から質疑があり、現在問題ないことを施設が回答した。
- (2) 定例作業と主要な新設備：給排気システム内、天井内とアイソレイター内のHEPAフィルターの交換（4月4日、10月17日、2月27日）とP3バイオハザード対策室の点検整備（2月4日から2週間）をおこなった。あらたに実験小動物用ガス麻酔システム1台を設置した。
- (3) 視察と監査：先導生命科学研究支援センター由井克之センター長と大沢一貴分野長による

視察（6月9日）、組換えDNA安全実験委員会所内委員会和田昭裕・上村春樹両委員による
視察（11月19日）と学内監査室本田秀史職員による監査があった。（1月6日）。

I. 研究内容

平成21年度の研究内容と利用状況

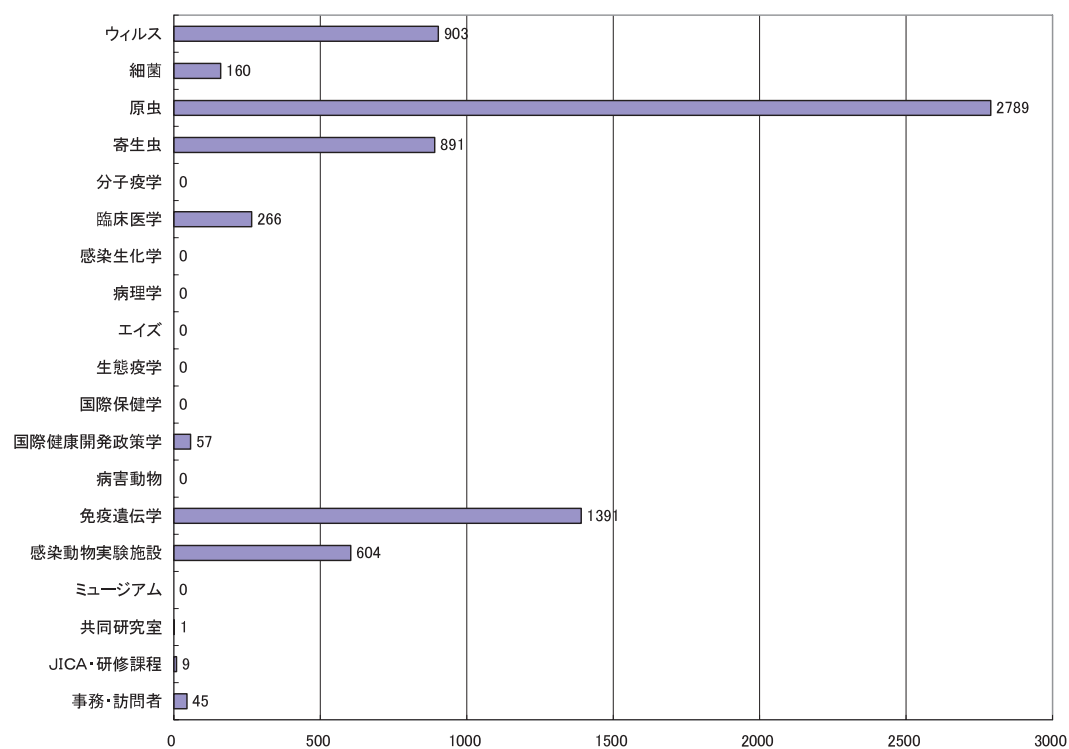
分 野 名	研 究 課 題
ウイルス学	・蚊媒介性ウイルスの免疫実験 ・蚊媒介性ウイルスの病原性実験 ・ノックアウトマウスを用いた節足動物媒介性ウイルス感染における宿主応答の解析
細菌学	・Fimbriate whole cell コレラワクチン効果判定に関する基礎的研究
原虫学	・Interactions between malaria parasite strains, sub-species and species, and the identification of genes controlling medically important phenotypes. ・マラリア慢性感染時の免疫状態 ・トキソプラズマ原虫の宿主細胞侵入関連因子の分子生物学的・細胞生物学的解析 ・ネズミマラリア原虫を用いた宿主細胞侵入関連因子の解析 ・変異型赤血球を保有する宿主におけるマラリア原虫の赤血球認識分子群の発現変化の網羅的解析 ・連鎖解析によるネズミマラリア原虫の致死性因子の同定 ・蚊ステージ・マラリア原虫の感染における宿主因子の役割
寄生虫学	・マンソン住血吸虫感染における樹状細胞の役割 ・宿主体内移行に伴い発現するネズミ糞線虫蛋白の同定 ・ネズミ糞線虫幼虫の温度感受性分子の同定 ・スナネズミの腹腔から得られた仔虫を用いての簡便な糸状虫(<i>Brugia pahangi</i>)の継代維持 ・住血吸虫幼虫の遊泳侵入行動制御機序 ・糸状虫感染幼虫の血清への走化性運動発現機序 ・寄生虫に対する感染防御機構の研究 ・免疫不全モデルマウスの維持と戻し交配
臨床医学	・肺気腫モデルマウスにおける肺泡マクロファージの障害肺修復能の評価 ・糖尿病モデルマウスにおける、細菌性肺炎の炎症終息機構に関する研究 ・マウス肺泡マクロファージにおけるアポトーシス細胞除去の評価
免疫遺伝学	・マウスマラリア感染によって発症するマラリア重症貧血症の解析 ・ネズミマラリア原虫の感染実験モデルを用いた脳マラリア発症機序の解析 ・ナノボールとDNAワクチンによる熱帯感染症に対するワクチン開発基礎研究

Ⅱ. 利用状況

(1) 職務別 利用者数（延べ数と実数）

区 分	身 分	延べ数	実 数
研究者等	教官・医員・研修医・技官教務員（所属大学・機関に限る）	2,192	22
	研究生，学生など(1)	1,547	24
	上記以外の研究者(2)	132	6
	小計	3,871	52
研究補助者	事務官	20	11
	教室雇用・アルバイトなど	3,186	15
	小計	3,206	26
合 計		7,077	78
	業務委託・業者・その他	39	19
総 計		7,116	97

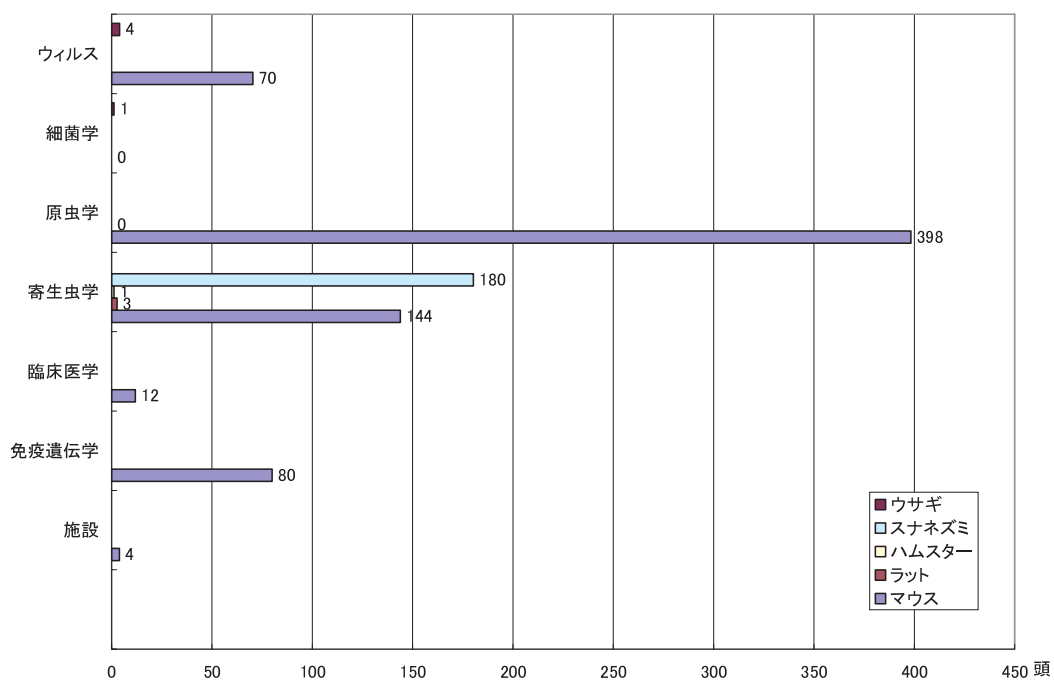
(2) 分野別 利用者数（延べ数）



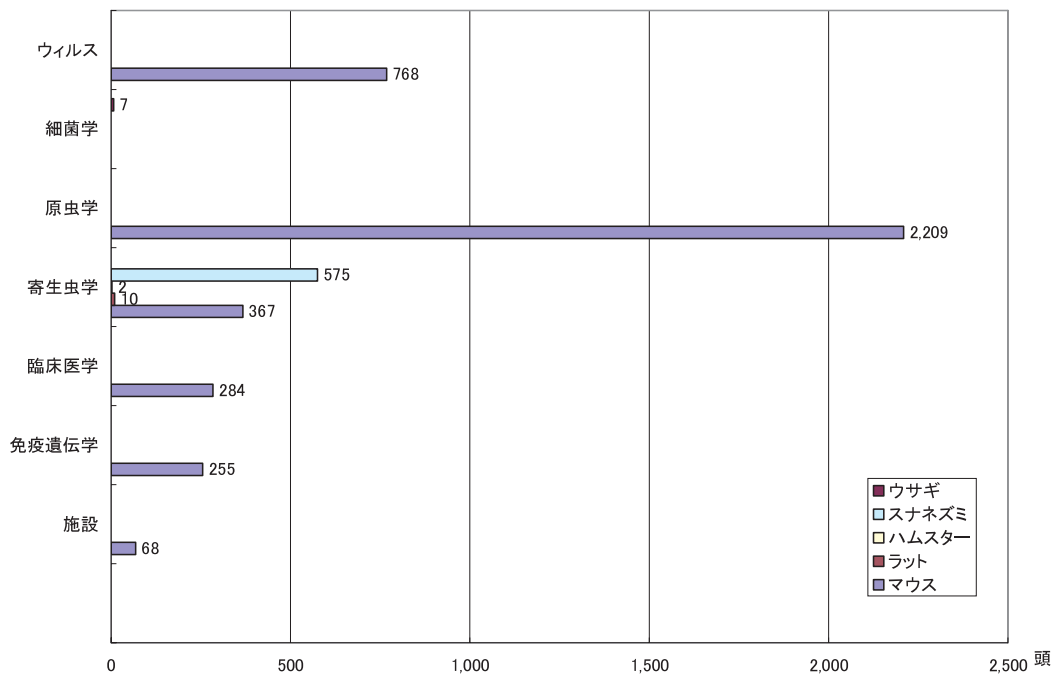
※ 利用者延べ数前年度比較

ウィルス学：78%増，原虫学：199%増，寄生虫学：13%増，免疫遺伝学：143%増

(3) 分野別 1日あたりの動物種別飼養頭数



(4) 分野別 実験に供した動物種別頭数



5. 3 熱帯医学ミュージアム

熱帯病に関する概説パネル、寄生虫、媒介昆虫、危険動物などの標本、貴重図書、映像資料を熱帯医学研究所1階の「熱帯医学館」に展示している。収集された資料は数千点におよび、少人数に対する視聴覚コーナー、録画用スタジオ・セットも設けている。

研究所と市民の間のリエゾン窓口として、熱帯病に関する研究や学校教育、社会教育に活用される「熱帯医学ミュージアム」を目指しており、現在のプロジェクトと今後の展望を示し、感染症に対するリスクコミュニケーションや市民科学の発展にも寄与する体制を整備した。

平成21年度の来館者数は403名であった。そのうち長崎県内より県立中学校2校61名、東京より私立高校1校36名が課外授業の一環として訪れ熱帯病の講義を受けている。

また、2010年1月から9月にかけて熱帯医学研究所教員による感染症に関する市民公開講座を9回開催、10月より外部講師による市民公開特別講座を2回開催予定である。本講座は地域住民の皆さんに、感染症を理解していただくと共に、感染症研究の重要性についてご理解いただくために開催した。今後も継続していく予定。

5. 4 共同研究室

分子生物学実験室においては、病原体－ベクター－宿主の相互作用などを分子レベル・遺伝子レベルで解析できる機器が設置され頻繁に利用されている。現在の主な機器は高速高解像度遺伝子解析に対応している16連および48連キャピラリーシーケンサー、共焦点レーザー顕微鏡、二次元HPLCによるプロテオーム解析システム、フローサイトメーター、デジタルセルソーター、Luminexビーズアレイ解析機、パイロシーケンサー、蛍光発光マルチラベルカウンタ－蛍光発光画像撮影装置、核酸質量分析計による遺伝子多型解析システムなど、その他必要設備が設置され、研究所内外の多様な要請に対応している。

電子顕微鏡室においては、感染症を引き起こす、あらゆる病原体自体の微細構造解析のみならず、免疫組織学的手法を含む新しい技法を取り入れて、病原体と宿主との相互作用を電子顕微鏡を駆使して超高倍率までの直接観察で解析を行っている。現在の主な機器は透過および走査電子顕微鏡、超ミクロトーム、真空蒸着装置、臨界点乾燥装置、オスミウムプラズマコーター、超音波固定装置などで、広範な電子顕微鏡レベルでの研究を行っている。

Ⅰ. 電子顕微鏡（走査および透過）を用いての主な共同研究

* 新種ウイルスの細胞内増殖過程の解析(C6/36, BHK-21 細胞を用いて) (ウイルス学分野)

- * 新種ウイルスのネガティブ染色による解析（ウイルス学分野）
- * 細胞C. P. Eを起こす無名ウイルスの細胞増殖と微細構造解析（ウイルス学分野）
- * 連鎖球菌濾液による緑膿菌阻害の解析（臨床医学分野）
- * 急速凍結置換固定法を用いての肺炎球菌莢膜の免疫電顕法による解析（臨床医学分野）
- * ベーターノダウイルスの遺伝子操作によるコア欠落をネガティブ染色法により解析（感染分子薬学学分野）
- * ベーターノダウイルスのVLPウイルス粒子の解体および再構築をネガティブ染色法により解析（感染分子薬学学分野）
- * 電子顕微鏡を用いた歯周病細菌の菌体表層構造および免疫電顕法による高分子蛋白質の解析（口腔病原微生物学分野）
- * マラリアワクチンの候補分子であるTransamidase-related protein(rPyTAM)の抗体を用いての赤血球侵入マラリア原虫における免疫電顕法による局在解析（免疫遺伝学分野）
- * 大学病院検査部よりのウイルス関係のネガティブ染色の依頼が数回あった
- * 病原細菌学分野の研究，原虫学分野の研究でも電子顕微鏡室が頻繁に使用されている。

II. 電子顕微鏡室での研究

ウイルス粒子や解体されたもの，細菌や分離された構造物，その他に蛋白質や酵素などの微細構造や形態を観察する為には非常に高い解像力が必要であるが，この目的に用いられるのが，もちろん電顕用に提供される試料の作製が基本であるが，ネガティブ染色技法と電子顕微鏡である。ところが，この染色法に用いられる染色液である酢酸ウラニル(国際規制物資・劣化ウラン)が昨今の情勢によりIAEA（国際原子力機関）が敢行したBSS（国際基本安全基準）により，輸入および販売が規制となった。この為に酢酸ウランの保有がない研究施設では早急の代替え方法を取得する必要がある。このような情勢に伴い医学生物学電子顕微鏡技術学会では，いち早く「酢酸ウラニル代替え染色法の開発・切片染色とネガティブ染色」のプロジェクトを立ち上げた。我が電顕室では，当初からウイルスおよび細菌の微細構造解析の為にネガティブ染色法による電顕観察を頻繁に行っていたため，いち早くこのプロジェクトに参加し，ワークショップと論文により研究成果を発表してきている。この開発したネガティブ染色技法においては，細菌およびウイルスの小型，中型，大型に染色が良好にできるように，電子線散乱の強弱による像のコントラストを調整して良好なグラデーションでウイルス微細構造が観察できるように，燐タングステン酸やモリブデン酸アンモニウムに水酸化カリウムを微量添加調整した染色液である。この開発により中型および大型のウイルスにおいては，従来より良好な微細構造観察ができるようになった。小型および超小型(直径50nm以下)ウイルスにおいてはネガティブ染色が不十分であったが，原子量が大きく電子線散乱が強いタングステン酸アンモニウムの

探索により、この染色液を用いての良好な染色条件の結果を得て発表した。しかし、50nm以下のウイルスにおいては多少酢酸ウラニルには劣る結果となった。酢酸ウラニルのように多少の固定作用があり透明感のある像を呈する重金属イオン水になる科学物質を探索しているが(たとえて言うなれば、酢酸ウラニルは染料染色液、今までの探索した染色液は顔料染色液のような像質)、残念ながら今の所はない。

チクングニアウイルスが培養細胞に感染し、進入、脱殻、暗黒期を経て再構築されビリオンになるまでの過程の電顕超薄切片による微細構造解析は未だ解析が成されていない。そこでBHK-21 (ベビーハムスター腎臓由来)培養細胞を用いて解析を行っている。将来は細胞を生きたままの微細構造形態と活性的にも保存できる急速凍結置換固定法を用いて、細胞とウイルスの相互関係を形態学と免疫組織化学的方法を用いて解析したい。

6 特別事業費による事業

6. 1 グローバルCOEプログラム

「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」

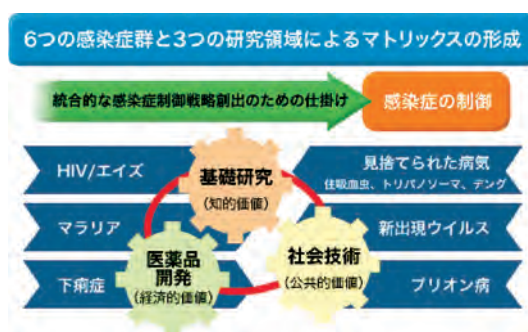
【概要】

2008年6月グローバルCOEプログラム拠点に採択された。

本プログラムでは「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」として研究・開発・フィールドワークを通して6つの感染症群と3つの研究領域において統合的に感染症を制御し克服を目指している。

長崎大学は日本唯一の感染症教育研究拠点として、国際社会の脅威となっている主要感染症を制御し克服することを目的としている。この目的を達成するためにあらゆる感染症の中から、特に子どもたちの犠牲が大きい①エイズ ②マラリア ③下痢症 ④見捨てられた感染症 ⑤新出現ウイルス ⑥プリオン病という6つの感染症群を対象に「基礎研究」、「医薬品開発」、「社会技術」という3つの研究領域から取り組んでいる。(図①)6つの感染症群は子どもたちの犠牲が大きいものばかりで、③下痢症は先進国では解決していても、世界では依然蔓延している。④見捨てられた感染症では発生源が貧しい開発途上国であったためにかえりみられることのなかった Dengue 熱や住血吸虫症などに焦点をあてたことが大きな特徴である。

これまでの過去5年間、長崎大学21世紀GCOEプログラムは、卓越した実績を基に世界の活動拠点として高い評価を受けている。この実績を基盤に、今後、目的達成に向けて拠点の更なる実質化と国際化を図っていききたい。また、その実行に必要な革新的技術の研究・開発を行い、その過程を通して将来の当該領域を支える有為な人材を育成していく。



(図①)

【事業推進担当者】

(平成22年3月現在)

		所 属		研究領域	研究テーマ
基礎研究	中 込 治	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	感染分子疫学	下痢症
	金 子 修	熱帯医学研究所	教 授	原 虫 学	マラリア
	平山 壽哉	熱帯医学研究所	教 授	病原細菌学	下痢症
	西田 教行	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	微 生 物 学	プリオン病

	由井 克之	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	免 疫 学	マラリア
	松山 俊文	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	免 疫 学	HIV/ エイズ
	濱野 真二郎	熱帯医学研究所	教 授	寄 生 虫 学	見捨てられた病気
フィールド	森田 公一	熱帯医学研究所	教 授	ウイルス学	アルボ / 新出現ウイルス
	山城 哲	熱帯医学研究所	教 授	微 生 物 学	ベトナム拠点
	皆川 昇	熱帯医学研究所	教 授	衛生動物学	媒介昆虫 / マラリア
	金子 聰	熱帯医学研究所	教 授	公衆衛生学	ケニア海外拠点 / 社会技術
	山本 太郎	熱帯医学研究所	教 授	国際保健学	社会技術
	有吉 紅也	熱帯医学研究所	教 授	感 染 症 学	HIV/ エイズ
	森内 浩幸	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	小 児 科 学	HIV/ エイズ
	平山 謙二	熱帯医学研究所	教 授	免疫遺伝学	見捨てられた病気 / 医薬品開発
	金子 明	熱帯医学研究所	客 員 教 授	マラリア学	マラリア
創薬科学	伊藤 敬	医歯薬学総合研究科 (医療科学専攻)	教 授	生 化 学	医薬品開発
	池田 正行	医歯薬学総合研究科 (生命薬科学専攻)	教 授	創 薬 科 学	医薬品開発
	甲斐 雅亮	医歯薬学総合研究科 (生命薬科学専攻)	教 授	機 能 性 分 子 化 学	医薬品開発
	小林 信之	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	感 染 病 学	基礎研究 (HIV/ エイズ)
	河野 茂	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	感 染 症 学	医薬品開発
	中山 浩次	医歯薬学総合研究科 (新興感染症病態制御学系専攻)	教 授	微 生 物 学	医薬品開発
	佐々木 均	長崎大学病院薬剤部	教 授	薬 剤 学	医薬品開発
	山本 直樹	熱帯医学研究所	客 員 教 授	ウイルス学	医薬品開発
	丹羽 正美	医歯薬学総合研究科 (医療科学専攻)	教 授	神経薬理学	医薬品開発

【人材育成】

- 1) 大学院生の育成事業。1年29名, 2年16名, 3年6名, 4年6名(うち留学生33名)

※2010年3月31日現在

- 2) ポスドクの育成事業として, ポスドク6名・特任助教11名を採用した。

- 3) 外国人留学生の補助事業を開始し, GCOE外国人留学生10名を採用した。

【活動報告】

- 1) 長崎大学GCOEセミナー「地球と人間の健康安全保障 世界トップレベル拠点を目指して」

【2009年4月18日(土) 東京国際交流館プラザ平成メディアホール】

講演者：「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」拠点リーダー

平山謙二 長崎大学熱帯医学研究所長

「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」リーダー

山下俊一 原爆後障害医療研究所長

前WHO西太平洋事務局長

尾身 茂 自治医科大学教授

2) Environmental and Health Challenges -Academie Des Sciences- JSPS Workshop 講演

【2009年5月28日(木)・29日(金)】

オーガナイザー：パスツール研究所Maxime Schwartz博士，拠点リーダー 平山謙二

長崎大学からの出席者

講演者：平山謙二，NEKKEN病害動物学教授 皆川 昇

座 長：NEKKEN国際保健学教授 山本太郎，

医歯薬学総合研究科 分子疫学教授 中込 治

3) 国際シンポジウム「The 4th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases」 (JSPSセミナー共同開催)

【2009年11月26日(木)・27日(金) 医学部良順会館・ポンペ会館】

キーノートスピーカー：

ロンドン熱帯医学校Brian Greenwood博士，南アフリカ国立感染症研究所Janusz Paweska博士，ベトナム国立衛生疫学研究所Dang Duc Anh副所長

招待講演者：イギリスエジンバラ大学 Sandra Cheesman 博士，カロリンスカ研究所(スウェーデン) Qijun Chen 博士，マヒドル大学(タイ) Kesinee Chotivanich 博士，ペンシルバニア州立大学(米国) Liwang Cui 博士，岡崎統合バイオサイエンスセンター Radostin Danev 博士，マヒドル大学(タイ) Nicholas Day 博士，ベルンハルト・ノッホ熱帯医学研究所(ドイツ) Tim-Wolf Gilberger 博士，宮崎大学フロンティア科学実験総合センター 林哲也博士，近畿大学 宮澤正顯博士，会津大学 Kishore Sakharkar 博士，在タイ米陸軍医学研究所 Jetsumon Sattabongkot 博士，千葉工業大学附属研究所 下遠野邦忠博士，スイス熱帯医学研究所 Till Voss 博士，国立感染症研究所エイズ研究センター 山本直樹博士，大阪府立大学 山崎伸二博士，九州大学 柳雄介博士，佐賀大学 吉田裕樹博士，(独)国立病機構新潟病院 結城伸泰博士

4) 長崎大学市民公開講座「ウイルスと生きるーアフリカ出血熱の謎」

【2009年11月28日(土) 医学部良順会館】

講演者：南アフリカ国立感染症研究所 Janusz Paweska 博士

6. 2 熱帯医学研修課程

I. 実施状況

平成21年度(第32回)熱帯医学研修課程は、平成21年6月1日から8月28日まで約3ヶ月間にわたり、定員15名で実施された。本年度熱帯医学研修課程運営委員は、学外12名、所外(学内)2名、所内9名に委嘱した。運営委員会は、平成21年8月27日本研究所にて、学外委員9名、所外(学内)委員1名、所内委員8名の参加をもって行われた。

II. 応募状況・選考方法

本年度は定員15名に対し34名の応募があった(競争率2.3倍)。受講者の職種内訳は 医師2名、看護師/保健師/助産師9名、獣医師1名、放射線技師1名、臨床検査技師1名、検疫所職員1名であった。

選考は、所内各分野から選出された13名の教務委員が応募者に対して順位をつけた後、結果を照合し順位の低い者から除外する、従来と同様の方法をとった。なお順位づけに関する基準は設けず、教務委員の判断によるものとした。また選考された研修生15名に学力等の問題はみられなかった。

選考方法については、運営委員会において、例年2倍以上の競争率となっている現状を鑑み、明確な選考基準を設ける必要性について議論があった。

III. カリキュラム

本年度カリキュラムは、昨年度同様分野横断的な理解を促す目的で、熱帯医学分野(総論・各論、実習、臨床医学)と実務的分野(国際保健・国際協力等の専門家による講義)を織り交ぜながら配置した。昨年度改善要望が出された点；講義内容の重複を避ける、講義時間数の増減等については、可能な限り対応した。研修生からは講義内容、講師、時間数等に関するさまざまな意見が出たが、全般的には高い評価が得られた。

なお昨年度より、講義ライブラリー作成を目指しMTMおよび研修課程講義のビデオ撮影を開始した。本年度は未公開データを含むスライドがある場合などを除き、ほとんどの講師からは録画の同意が得られた。ビデオはパソコンで視聴できるよう随時編集し、視聴は研修生およ

びOB、研究所職員、学生に制限して所内の専用コンピュータで視聴できるようにした。復習や試験前後など利用が多く、研修生からも好評を得られている。しかし講義用ファイルの取り込みに時間を要する点、またコンピュータウイルスの問題も発生し、ハード面での整備は今後とも順次行っていく必要がある。

IV. 試験

2005年度(第28回)より、研修修了時に3ヶ月の総復習を目的とした試験を導入した。所内の各分野に3～5問の出題を依頼し、計50問の選択試験問題を作成した。内容は概ね行われた講義に基づいており、研修生からは内容に関する改善要望は少なかった。全体の平均得点は68.7点であった。

試験の目的は研修内容の復習であるため、試験結果は修了の要件とはされていない。研修生からは、復習の機会にできた旨の意見が多かったが、分野ごとの試験実施等の要望もあり、試験の位置づけや実施時期については検討が必要である。

V. 研修生による評価

本学大学教育センターが管理する授業評価システムを導入し、研修生が毎講義終了時に記入・提出して結果は各分野・講師に直接返却されている。

本年度は全講義、試験終了後の8月26日、研修課程終了時ワークショップとして、職種ごとのグループで研修課程全般について論議した。研修課程参加者に実務家が多いため、講義も基礎よりも実務的内容(寄生虫学全般、疫学、GIS、SARS・インフルエンザなどの感染症コントロール等)の評価が高かった。一方原虫学や細菌学の基礎分野での内容改善の要望があり、また母子保健や開発援助の実務的内容を望む意見も多く聞かれた。

研修課程参加目的と達成度においては、全般に満足度が高く、今までのフィールド活動の振り返りをでき、熱帯地における特有な疾病、治療、疫学などをあらためて学ぶことができた、知見を広げることに役に立てた、新しいネットワークができた、などの意見があった。

VI. 本年度実施状況のまとめ

カリキュラムをはじめ研修生から全般に良好な評価が得られ、大きな問題なく実施できたと思われる。2005年度以降変更のあった分野横断的カリキュラム構成、コーディネーターの設置、試験の実施等についても、よい方向で定着しつつあるようである。しかし一方で、例年類似した内容の改善要望が出されていることも事実である。講義内容や講師の調整は難しい部分もあるが、各分野に協力を仰ぎながら可能な限り反映させる必要がある。昨年度も検討課題として挙げられていたシラバスの充実、Minimum essentialの明確化、コースの方向性提示および学

習の指針として効果的だったが、講義内容の重複を避けるためにも重要であり、引き続き検討課題と位置づけられるべきであろう。

研修課程参加者は多くが修了生からの情報などで応募しており、熱帯地域で活動する人の中での本研修課程の認知度は低くないが、ポスターやホームページによる宣伝効果はまだ低いようである。より広い範囲での人材確保のため、今後ホームページの充実；写真を含む講義・実習の紹介、修了生の感想の掲載などによる情報発信の必要があるだろう。また研修課程同窓会（ATOMECE）のネットワークを利用し、過去の修了生に対する講義ビデオ視聴による継続学習の機会提供、キャリアパスガイドとして現研修生に経験談を講演してもらう、また求人情報の提供など、相互に交流を保つようにしたい。

本課程での学習を今後熱帯地域で活動する人々に、ひいては熱帯地域住民の健康の向上に有益なものとするために、より明確で系統立った熱帯医学研修課程構築を目指したい。

6. 3 ケニアプロジェクト拠点

長崎大学ケニアプロジェクト拠点は、平成17年度（2005）からスタートした文部科学省特別教育研究経費による「連携融合事業：新興・再興感染症研究ネットワークの構築」を起爆剤として、ケニア中央医学研究所（Kenya Medical Research Institute：KEMRI）内に設置された海外研究教育活動拠点である。

「連携融合事業」では、

1. 新興・再興感染症および熱帯病の研究高度化を目的に、
2. 熱帯地に研究教育拠点を構築し、
3. 現地研究者と共同で、
4. 長期・継続的かつ広範囲の調査研究、
5. 若手研究者の現地教育を実施する。
6. JICAとの連携により、開発援助の側面からも成果を現地住民へ還元する。

となっており、これを完遂するために、下記の三本柱を建て、研究教育活動を行っている。

1. 人口静態動態サーベイランスシステム（DSS：Demographic Surveillance System）の構築と運営（西ケニア、スバ県）
2. 病原微生物を扱う高度安全レベル3実験施設（P3ラボ）を中心とした実験室の構築と運営（ナイロビ）
3. 病原体媒介生物（蚊、貝）のモニタリングシステムの構築と運営（スバ県、クワレ県）

連携融合事業最終年度にあたる平成21年度は、再構築された西ケニアにおけるDSSでは住民の観察を継続し、基本データが整い、INDEPTHの正式メンバーとして承認された。P3ラボには、これまでの細菌性下痢症の研究に、ウイルス性下痢症の研究、蚊媒介性のウイルス出血熱の研究が加わり、病原体媒介生物モニタリングにおいては、西ケニア地区でマラリア媒介蚊の生態学的観察を継続する一方、ケニア全土の媒介蚊の分布調査が継続された。クワレ地区ではビルハルツ住血吸虫症伝搬員の経時的観察が継続された。

【研究活動】

拠点におけるすべての活動はケニア人研究者との共同研究として行われている。KEMRIのScientific Steering Committee (SSC) およびEthical Review Committee (ERC) で承認され、平成21年度に継続中の研究は下記の通りである。

No	承認番号	承認年	研究タイトル	日本主任研究者	所 属
1	1088	2006	Establishment of Demographic Surveillance System in Kenya (Suba and Kwale Districts): A platform for Development of Demographic Health Information System to Support Research and Control of Infectious Diseases and Health-related Problems	金子 聡	生態疫学
2	1089	2006	Geographic distribution of malaria vectors in Kenya	皆川 昇	病害動物
3	1275	2007	Factors which promote the local people's motivation for better health in Suba and Kinango Districts of Kenya.	駒澤大佐	国際保健 (大学院生)
4	1310	2007	A large-scale field trial to evaluate an integrated malaria vector control measure targeting immature stages in Suba District	皆川 昇	病害動物
5	1316	2008	Studies on decoy snails in Kwale, Kenya - A new tool for control of schistosomiasis heamatobia	青木克己	寄生虫
6	1323	2008	The study on the diarrheagenic agents as intestinal and invasive infection in Nairobi and Western Kenya	一瀬休生	生態疫学
7	1304	2008	A seroprevalence survey for yellow fever virus exposure in humans at selected health facilities in Kenya	森田公一	ウイルス
8	1376	2008	Optimization & tests of a reverse transcriptase loop amplification test for Onyong'nyong virus	森田公一	ウイルス
9	1409	2008	Optimization of loop mediated isothermal amplification for the rapid diagnosis of Rift Valley Fever in Kenya	森田公一	ウイルス

この他、アジア・アフリカ学術基盤形成事業(AA platform)の三年目(最終年度)にあたり、12月3-5日、ナイロビにおいて"顧みられない感染症のいま"のタイトルの元にJSPSセミナーを実施した。

また、JST振興調整費による"アフリカにおける「顧みられない熱帯病(NTD)」対策に資する多重感染症の一括診断法の開発」が開始され、ナイロビに設置するMultiplex機器の設置場所の確保とケニア政府に対する研究計画書承認の準備を行った。

【教育活動】

日本人学部学生の正規科目として、滋賀医科大学学生4名の現地研修(8月-9月)、長崎大学国際健康開発研究科2年生のインターン及び研究活動の一部を実質的に引き受ける一方、ケニア人学部学生の実習受け入れ、大学院学生(修士)の指導を行った。

国際健康開発研究科、熱帯医学研修課程等の講義を、日本に出向いて行った。

9月9日、10日、KEMRI研究者を対象にバイオセイフティー講習会(P3講習会)を行った。

MTM国費留学生候補者の選考を行った。

【社会貢献】

ケニア保健省(医療サービス省と公衆衛生省に分かれている)の要請を受け、下痢症集団発生時の原因究明を行い、流行収束に向けた助言、支援を行った。コレラアウトブレイク時には現地調査を行い、細菌学的結果を随時報告した。

科学技術政策研究所シンポジウムでケニア拠点について発表した。

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会で主に高校生に対し講演した。

JICAとの協力を強化するために開始された2009年1月からの「草の根技術協力」を継続した。またKEMRIに派遣された海外青年協力隊隊員1名との共同作業として、KEMRI若手研究者に対する安全実験手技の訓練も継続した。

【運営その他】

KEMRI所長(実際には副所長が代理として来日した)を日本に招へいし、長崎大学とKEMRIの学術(交流)協定を更新した。

現地派遣事務職員が本田志保から齊藤幸枝に交代した。

財務課総務班・満本眞一、熱研管理係・林田武信、熱研海外拠点係・橋口文子が、ケニア拠点、KEMRI、ICIPEを視察、表敬訪問した。(H22. 3. 21~3. 27)

年度末を以て金子聡、二見恭子のケニア派遣を終了した。

(文責：嶋田雅暁)

6. 4 ベトナムプロジェクト拠点

ベトナムプロジェクト拠点はH21年度で、プログラム最終年度を迎えた。拠点の旗艦であるフレンドシップ研究室の整備も完了し、様々な研究活動のサポートにフル稼働している。プロジェクト研究活動の実施主体である下記の4つの研究班も、多少の修正はあるものの、ほぼ当

初の研究計画通りの実績を挙げている。本年度はプロジェクト第二期に相当する「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」の継続獲得に向けて、関係研究者をはじめとして熱研全体が一丸となって努力する年である。

プロジェクトの運営に関する事項

1 長崎拠点スタッフ人事

- 1.1 平成22年2月, Ngo Khanh Phuong 研究アシスタント 離任
- 1.2 平成22年2月, Quach Thi Thu Huong 研究アシスタント 離任
- 1.3 平成22年3月, 古矢佳男 事務職員 離任

2 主な長崎拠点訪問者

平成21年5月, 中曽根 弘文外務大臣, 猪俣弘司外務省南部アジア部長, 坂場三男在ベトナム日本国大使が長崎大学ベトナム拠点に訪問し, 拠点関連の施設を視察した。

3 長崎大学ベトナム拠点で主催した学会・講演会

平成22年1月, 長崎大学ハノイ市民公開講座。在ベトナム日本大使館の後援のもとベトナム在住邦人への感染症対策啓もう活動の一環として市民公開講座を開催。約50名の参加者があり, 長崎大学医学部・歯学部附属病院の安岡彰先生が「新型インフルエンザ感染対策-日本での現状と取り組み-」, 長崎大学熱帯医学研究所の森田公一先生が「デング熱・デング出血熱を知ろう」テーマで講演され, 参加者からは好評を得た。

4 プロジェクト運営会議 (Steering Committee Meeting, SCM)

本年度は合計7回SCMを開催し, プロジェクト運営上重要な議事や研究の進捗報告を行った。

研究活動に関する事項 (抜粋)

I. 動物由来新興・再興感染症研究班

インフルエンザについてはLAMP法を用いた新型インフルエンザ診断法を開発した。またハantaウイルスについては抗体検出系の改良を実施した。狂犬病ウイルスに関しては免疫手法によるウイルスの検出方法を開発した。また質量分析手法による網羅的ウイルス検出技術も基礎研究を終了した。これらの結果は国際誌に掲載あるいは受理された状況である。ベトナム北部, 南部, 高地地域においてコウモリ, 野鳥, 鼠を採取し検体採取を継続した。またウイルスが存在する地域では住民や有症者から血液や髄液の検体を採取して調査研究を実施した。その結果, コウモリ類からはニパウイルス, SARSウイルスの抗体が検出され, 野鳥からは鳥インフルエ

ンザウイルスが分離された。さらに鼠からはハンタウイルスの存在を遺伝子検出によって明らかにした。また原因不明の脳炎患者の一部から平成21年に開発した検出法により狂犬病ウイルス感染が検出された。ヒト型抗体の研究では抗体バンクを用いて鳥インフルエンザH5N1を中和できる複数のヒト型抗体のクローニングに成功した。

II. 昆虫媒介性感染症研究班

デング熱媒介蚊の殺虫剤抵抗性の実態把握については、ベトナム国内の72カ所から採集されたネッタイシマカ幼虫（計860個体）の内に新しいアミノ酸置換変異（F1269C）が高頻度で見つかり、東南アジアに普遍的なアミノ酸置換変異である可能性を示唆出来た。また、ミトコンドリアDNAのCOIとND4領域の塩基配列を調べた結果、ベトナム全土に分布するグループと中部以南に集中的に分布する2グループの3系統が分離された(PloS Negl. Trop. Dis., 3, 1-7, Oct. 2009)。蚊体内のウイルス調査では、中央部から北部で分離された日本脳炎ウイルスウイルスが、東アジア諸国の分離株に含まれる大きなグループに属しており、一方、南部の株とは異なるクラスターを形成することが判った。オーストラリアを含む東南アジア全体では、この2グループにオーストラリアとタイを包含するグループが加わり、3つに分けられることが示唆された。マラリア媒介蚊の同胞種についての研究では、最重要種である *An. dirus dirus* の限定的分布が示唆可能となった。

III. 経口感染症研究班

ベトナムでは5才未満児の急性下痢症による死亡数は毎年9,600～12,000人と推定されている。本研究では、小児下痢症の病因となる微生物を広範囲に調査し、熱帯地方の途上国における重症下痢症の実態を把握することを目的に、北部のハイフォン小児病院と南部のカンホア総合病院において、約80%の5才未満の下痢症入院患者で起炎微生物を同定した。重要な病原体は、ロタウイルス、ノロウイルス、下痢原性大腸菌であり、その相対頻度は、それぞれ約50%, 29%, 30%であった。赤痢菌やコレラ菌など、下痢原性大腸菌以外の下痢原性細菌の分離率は南北ともに低かった。ロタウイルスは北部ベトナムでは冬期に多く検出されたが南部ベトナムでは通年性に見られた。2種類以上の下痢原性病原体が同時に検出された混合感染の割合が南北共に高かった。ベトナムにおいてロタウイルスが最大の病因であることは確かであるが、混合感染の割合が高い事は、ロタウイルスワクチンの導入にあたって、総合的見地からの戦略を策定することが重要であると総括した。

IV. ヒトーヒト感染症研究班

ベトナム中南部カンホア省総合病院小児科病棟において確立させた感染症モニタリングシス

テムを基盤として、平成21年7月までに採取された詳細な臨床疫学情報のある検体について、18種の呼吸器病原体診断を実施し平成19年1月から約3年間にわたる呼吸器病原体の季節変動と年毎の変化を把握した。特に平成21年6月から発生した新型インフルエンザ流行をとらえることができた。さらに臨床疫学情報と連携させた統計解析を開始した。また、同病院産科病棟をベースに出生児および母体2,000組を対象としたバースコホートが本格的に開始され平成22年3月時点で1,600組以上の登録が完了し、母子の基本情報を収集するとともに、母体および臍帯からの血液が採取され保存された。さらに、同病院へ入院したデング熱と各世帯における日中の蚊帳の使用との相関を調べた論文とカンホア県対象住民中の受動喫煙に関する論文が発表された。

ベトナム中南部ニャチャン市にあるカンホア省総合病院小児科病棟において確立させた呼吸器感染症モニタリングシステムを、平成21年10月より同病院内科病棟、感染症病棟、さらに老年内科病棟にまで拡大し、同病院に入院したすべての成人呼吸器感染症患者から詳細な臨床情報および喀痰・咽頭ぬぐい液の採取を開始した。平成22年2月時点で既に180症例が登録された。

また、ニャチャン市センサスデータより任意抽出した同地域を代表する1,000世帯を対象に、作製した健康カレンダーを配布し、家族構成員の急性疾患の発生情報をモニターするシステムを開発し開始した。

(文責：山城 哲(熱帯医学研究所 アジア・アフリカ感染症研究施設 教授
感染症研究国際ネットワーク推進プログラム
長崎大学ベトナムプロジェクト拠点 拠点長))

6. 5 フィジープロジェクト拠点

大洋州予防接種事業強化プロジェクト(J-PIPS)は、大洋州の13カ国を対象としたJICA(国際協力機構)の広域技術協力プロジェクトであり、平成17年3月に5ヵ年の予定で始まった。長崎大学はJICAより技術協力契約を受託し、熱帯医学研究所病原体解析部門の森田公一教授を業務主任者として、長期専門家3名がフィジー国スバ市にあるフィジー拠点(フィジー医薬品供給センター)に赴任し活動した。本プロジェクトは、平成22年2月末に終了した。本プロジェクトの概要は「JICA/J-PIPS Project in the Pacific (2005-2010)」としてまとめられ、関係者に配布された。

本プロジェクトの主たる目的は、ポリオ、麻疹、B型肝炎、インフルエンザ桿菌等ワクチンで予防可能な疾病を対象とした予防接種の強化(政策、疫学、モニタリングシステム、検査シ

システム等の強化)、ワクチンのロジスティックス、コールドチェーン機材維持管理、EPI関連廃棄物処理に関する地域内研修システムの構築及び対象各国における人材の能力向上である。人材育成に関しては、各国の予防接種事業指導者を対象とした「地域研修」をスバ市において毎年実施すると共に、各国の末端レベルの医療従事者等を対象とした「国別研修」(技術補完研修)をプロジェクトの対象各国に対して実施した。

第六年次にあたる平成21年度の主な活動は以下の通りである。

I. 地域研修拠点の整備（フィジー医薬品供給センター（FPS））

平成21年4月から短期専門家3名を含む延べ6名の専門家をフィジー国のFPSへ派遣し、太平洋諸島地域の研修拠点となるフィジー保健省のプロジェクトカウンターパートに対して、各専門分野における技術移転を実施した。

本年度は、昨年度に引き続き、フィジー国を拠点としたプロジェクト実施体制の整備及びフィジー国における研修機能の向上のための活動を継続した。さらに、プロジェクト活動終了後もこれまでプロジェクトが行ってきた活動が自発的に継続されるよう、現地JICA事務所及びフィジー国保健省をはじめとした関係機関・関係者との協議に重点を置いた。

II. 各国の予防接種事業の支援にかかるドナー間調整

本プロジェクトはPIPS（Pacific Immunization Programme Strengthening）と称する地域の共同戦略のもと、JICAのみならずWHO、UNICEF、AusAID（オーストラリア）、NZAID（ニュージーランド）や大洋州機構（SPC）、米国CDCなどの国際機関や各国の援助機関と共同でプロジェクトを遂行してゆくことを1つの特徴としたものであった。

それぞれの援助に重複がなく、また、適切な組み合わせによる相乗的な効果が上がるよう、本年度も定期(毎月)および不定期にこれらの関係機関と連絡協議会を共催し、各種調整を行った。

III. 2009年度PIPS年次会議の共催

平成21年5月11日～15日に長崎大学ポンペ会館において、WHO、UNICEF、SPCなどの国際機関やAusAID、NZAIDとの共催により、大洋州諸島国のEPI担当者を招き、第5回PIPSワークショップ（PIPS年次会議）を開催した。本会議では、J-PIPS参加の13カ国との全体会合、個別会合を実施し、各国が取り組んでいる予防接種活動の進捗状況及び今年度の支援計画につき協議した。また、会議には、JICAの終了時評価団も出席し、プロジェクトの成果、研修実施実績等を評価するとともに今後の方向性等につき関係者協議を行った。

IV. 第5回地域研修

平成21年11月9日～13日にWHO、UNICEFなどの国際機関とフィジー保健省との共催により、第5回地域研修を開催した。研修にはプロジェクト対象国以外のパプアニューギニアからの参加もあり、総計14カ国から約45名の研修生が参加した。

本プロジェクトでは、ワクチンロジスティクス、コールドチェーン維持管理、安全注射(医療廃棄物処理を含む)の3分野に関して、地域研修のなかに指導者育成コースを設け、5年間にわたって毎年研修を行った。フィジー、トンガ、ソロモン、バヌアツ、ナウル、サモア、ミクロネシア等の国では、地域研修の参加者が単独で国内研修の講師を務めることも可能な水準に達している。地域研修の修了生による国内研修が平成18年より開始され、過去4年間でプロジェクトの対象13カ国すべてにおいて国内研修が実施された。国内研修の実施により、EPIの実施を担うヘルスセンターの看護師の意識や技術が向上した。

V. 各国における調査と個別指導の実施

国別支援では、マーシャル、パラオ、ミクロネシア連邦(平成21年5月24日～同年6月13日：コールドチェーン維持管理)、ナウル(平成21年6月18日～27日：ワクチンロジスティクス)、ツバル(平成21年6月23日～30日：コールドチェーン維持管理)、キリバス(平成21年7月7日～9日：研修計画)、ミクロネシア連邦(平成21年8月20日～26日：総括、ワクチンロジスティクス)、バヌアツ(平成21年9月11日～19日：コールドチェーン維持管理、研修計画)、バヌアツ(平成21年9月14日～29日：ワクチンロジスティクス)、キリバス(平成21年10月6日～15日：ワクチンロジスティクス)、ツバル(平成21年11月23日～12月21日：ワクチンロジスティクス)、キリバス(平成22年1月20日～29日：コールドチェーン維持管理、ワクチンロジスティクス)へそれぞれ専門家を派遣し、国内研修を支援、実施するとともに各分野における個別指導、調査や提言を行った。

VI. B型肝炎感染率の調査の実施

WHOは西太平洋地域のB型肝炎ワクチンを定期予防接種に導入済みの全ての国に対して、西太平洋地域の予防接種目標である「2010年までに5歳小児のHBsAg陽性率を2%以下とする－中間目標」に資するための活動として、対象小児のHBsAg(HBs表面抗原)調査の実施を推奨している。

フィジー国では、新生児および小児のB型肝炎感染率(HBsAg(HBs表面抗原))およびB型肝炎に対する抗体保持率(anti-HBs)等は1998年にキリバス、バヌアツ、トンガと共に実施された調査データがあるのみで、最近のデータはなかった。

かかる状況により、昨年度、フィジー保健省は小児のB型肝炎ウィルスの感染率の把握およ

びB型肝炎ウィルスの抗体保持率の把握を目的とした血清学的調査の実施を策定し、その実施につきプロジェクト専門家が技術支援を行った。今年度は、そこで採取された血液検体を長崎に運び、検査技師に対する指導を兼ね、2010年2月17日～3月12日の期間、長崎大学で実験室診断の現地研修を行った。

7 外部資金による研究

7. 1 文部科学省科学研究費補助金（平成21年度）

研究種目	研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
基盤研究(A) 一 般	教 授・平 山 壽 哉	7,100	2,130	ヘリコバクター・ピロリの VacA 毒素の毒性発現と CagA の相互作用解析	19～21 年度
基盤研究(A) 海 外	教 授・高 木 正 洋	4,400	1,320	ベトナムにおけるデング熱媒介蚊の総合防除戦略構築	19～21 年度
基盤研究(A) 海 外	教 授・森 田 公 一	12,200	3,660	アフリカとアジアにおいてデング出血熱の重症化を規定するウイルス遺伝子多型性の研究	21～23 年度
基盤研究(B) 一 般	教 授・山 本 太 郎	4,900	1,470	G 型肝炎ウイルス二重感染が HTLV-1 母子感染に与える影響：後向きコホート研究	20～22 年度
基盤研究(B) 海 外	講 師・上 村 春 樹	2,900	870	マラリア原虫の薬剤耐性：検出、同定と遺伝子解析、地域性と時間変化、拡散の予測へ	19～21 年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・一 瀬 休 生	2,900	870	熱帯地における下痢原因菌の病因論とその疫学的研究	19～22 年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・山 城 哲	3,900	1,170	ベトナムの実験農場における高病原性鳥インフルエンザウイルス浸淫状況調査	20～22 年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・金 子 修	4,200	1,260	三日熱マラリア原虫感染赤血球表面分子 PvSTP の集団遺伝学解析	20～22 年度
基盤研究(B) 海 外	教 授・濱 野 真二郎	4,107	1,232	南アジアにおける赤痢アメーバ症のゲノム疫学および免疫学的コホート研究	20～22 年度
基盤研究(C) 一 般	准教授・森 本 浩之輔	1,700	510	アポトーシス細胞の貧色除去に着目した肺気腫の新しい治療戦略	20～22 年度
基盤研究(C) 一 般	助 教・堀 田 こずえ	1,200	360	ベトナムの市場で販売される家鴨卵中の抗高病原性鳥インフルエンザウイルス抗体調査	21～23 年度
基盤研究(C) 一 般	研究員・小 堀 栄 子	1,400	420	在日タイ人の健康に関するフィールドワーク：社会階層の形成と格差の広がりの中で	21～23 年度
基盤研究(C) 一 般	教 授・濱 野 真二郎	1,500	450	リーシュマニア症の発症に及ぼす体内環境因子の影響評価とその解析	21～23 年度
基盤研究(C) 一 般	准教授・奥 村 順 子	1,500	450	河川等に排出される抗生剤濃度と薬剤耐性菌に関する研究	21～23 年度
挑戦的萌芽	助 教・砂 原 俊 彦	1,300	—	流行地の地理情報を考慮した統一的伝播モデルによるマラリアコントロールの革命	21～23 年度
奨 励 研 究	技術職員・岩 見 守	450	—	Fimbriate wholecell コレラワクチンの効果判定に関する基礎的研究	21～21 年度

研究種目	研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
特定領域研究	教 授・平 山 壽 哉	6,000	—	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現機序	21 ～ 22 年度
特定領域研究	教 授・濱 野 真二郎	3,800	—	マウスモデルを用いた赤痢アメーバ原虫の病原性発現機構の解析	21 ～ 22 年度
新学術領域研究	助 教・橋 爪 真 弘	2,300	690	黄砂の疫学的健康影響評価	21 ～ 22 年度
若手研究 B	助 教・NGUYEN HUY-T	1,800	540	繰り返し感染あるいは再燃患者における脳マalaria抵抗性機序のマウスモデルによる解析	20 ～ 21 年度
若手研究 B	助 教・矢 幡 一 英	1,600	480	マalaria原虫の転写干渉機構とその制御	20 ～ 21 年度
若手研究 B	助 教・橋 爪 真 弘	700	210	バングラデシュにおけるコレラ流行と気候変動に関する疫学研究	20 ～ 22 年度
若手研究 B	助 教・坂 口 美亜子	1,400	420	原生生物有中心粒太陽虫の EST 解析	20 ～ 21 年度
若手研究 B	研究員・阿 部 朋 子	2,300	690	ベトナムにおける小児肺炎発症の社会環境的リスク因子の量的・質的探究	21 ～ 22 年度
若手研究 B	助 教・上 地 玄一郎	1,100	330	リボソームディスプレイによるヒト型抗インフルエンザ H5N1 抗体作製と高親和性化	21 ～ 22 年度
若手研究 B	助 教・早 坂 大 輔	1,800	540	フラビウイルス脳炎の重症化・致死性に関わる病原性発現機序の解析	21 ～ 22 年度
合計	26 件	78,457	20,072		

7. 2 厚生労働科学研究費補助金(平成21年度)

研究事業名	職名・研究者名	研究課題名	研究経費 (千円)	区分
エイズ対策研究事業	教 授・山 本 太 郎	先進諸国を中心とした海外におけるエイズ発生動向, 調査体制, 対策の分析	1,610	研究代表者
地球規模保健課題推進研究事業	教 授・平 山 謙 二	寄生虫疾患の病態解明及びその予防・治療をめざした研究	14,620	研究代表者
政府創薬総合研究事業	教 授・有 吉 紅 也	新型チップ等を用いた第 22 染色体新規 SNPs 多型の網羅的解析による HIV 感染防御ワクチン及び抗 HIV 治療薬の効果判定改善と新しい免疫治療法の開発	1,750	研究分担者
エイズ対策研究事業	教 授・有 吉 紅 也	HIV 感染病態に関わる宿主因子および免疫応答の解明	3,500	研究分担者

研究事業名	職名・研究者名	研究課題名	研究経費 (千円)	区分
エイズ対策 研究事業	教授・有吉 紅也	血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者 に対する肝移植のための組織構築	2,000	研究分担者
新型インフルエン ザ等新興・再興感 染症研究事業	教授・森田 公一	我が国における日本脳炎の現状と今後の 予防戦略に関する研究	2,000	研究分担者
難治性疾患克服 研究事業	教授・安波 道郎	本邦における家族性地中海熱の実態調査	1,500	研究分担者
新型インフルエン ザ等新興・再興感 染症研究事業	准教授・川田 均	節足動物が媒介する感染症への効果的な 対策に関する総合的な研究	3,000	研究分担者
地球規模保健課題 推進研究事業	助教・橋爪 真弘	水供給分野の国際協力における総合援助 手法に関する研究	1,000	研究分担者
新型インフルエン ザ等新興・再興感 染症研究事業	助教・早坂 大輔	国内で発生のないベクター媒介性感染症 の疫学診断法等の研究	2,000	研究分担者
新型インフルエン ザ等新興・再興感 染症研究事業	教授・濱野 真二郎	顧みられない病気に関する研究	3,200	研究分担者
合 計	11 件		36,180	

7. 3 受託研究費等（平成21年度）

7. 3. 1 受託研究費

委 託 者	事業名	職名・研究者名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
文部科学省	キーテク ノロジー 研究開発 の推進	教授・平山 謙二	ベトナムにおける長崎大学 感染症研究プロジェクト	195,908	58,772	
学校法人 関西文理総 合学園長浜 バイオ大学	重点地域 研究開発 推進プロ グラム	講師・和田 昭裕	防疫に利用できる一粒子検 出による感染症診断機器の 開発	1,000	300	
独立行政法人科 学技術振興機構 イノベーション 推進本部	重点地域 研究開発 推進プロ グラム	講師・和田 昭裕	15-B08 下痢原性大腸菌の 病原毒性の強さの蛋白化学 的な手法による評価	3,847	1,153	
独立行政法人科 学技術振興機構 JST イノベーション プラザ福岡	重点地域 研究開発 推進プロ グラム	助教・吉田レイミント	15-108 多種類呼吸器ウイ ルス診断方法	1,539	461	
国立国際医療 センター	国際医療 研究委託 費	教授・有吉 紅也	19公4 開発途上国におけ る血液媒体疾患に対する総 合的な対策のあり方に関す る研究	1,000	—	
国立国際医療 センター	国際医療 研究委託 費	教授・山本 太郎	21指2 社会的文化的背景 を考慮した HIV 等感染症対 策に関する研究	3,900	—	

委 託 者	事業名	職名・研究者名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
独立行政法人 日 本 学 術 振 興 会	学術動向 等に関する調査研究	教 授・金 子 修	基礎医学分野に関する学術 動向の調査研究	1,000	300	
フマキラー 株 式 会 社		教 授・皆 川 昇	液体式蚊取り製剤のアカイエカに対する準実地効力試験	308	92	
合計		8 件		208,502	61,078	

7. 3. 2 受託事業費

委 託 者	事業名	職名・研究者名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
独立行政法人 日 本 学 術 振 興 会	拠点大学 交流事業	教 授・平 山 謙 二	熱帯医学 熱帯性感染症の 新興・再興の要因とそれに 基づく防除対策	22,632	—	
独立行政法人 日 本 学 術 振 興 会	二国間交 流 事 業	教 授・金 子 修	マラリア原虫の細胞内小器 官ロプトリーへの輸送シグ ナルの同定	2,500	—	
独立行政法人 日 本 学 術 振 興 会	アジア・ アフリカ 学術基盤 形成事業	教 授・平 山 謙 二	アフリカにおける「顧みら れない病気」の学際的研究	5,500	—	
独立行政法人 国際協力機構 九 州 国 際 セ ン タ ー	草の根技 術協力事 業	教 授・嶋 田 雅 暁	西ケニアにおける貧困層を 対象とした保健医療サービ ス支援と保健医療状況の改 善を目指す地域・人材育成	16,446	725	
独立行政法人 国際協力機構 技術協力プ ロジェクト	技術協力 プロジェクト	教 授・森 田 公 一	大洋州地域予防接種強化プ ロジェクト（第6年次）	69,232	—	
独立行政法人 日 本 学 術 振 興 会	先端学術 研究人材 養成事業	教 授・平 山 謙 二	熱帯地域における重要感染 症克服のための人材育成	25,344	2,522	
合計		6 件		141,654	3,247	

7. 3. 3 その他の補助金

補助金名	職名・研究者名	プログラム名	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
研究拠点形成費 等 補 助 金	教 授・平 山 謙 二	グローバル COE プログラム 熱 帯病・新興感染症の地球規模統合 制御戦略	245,330	73,599	20～24年度
研究開発施設 共用等補助金	教 授・平 山 謙 二	病原微生物の収集・保存・提供体 制整備事業（病原性原虫の収集、 株保存と分析、その提供）	3,800	—	
科学技術総合 推進費補助金	教 授・金 子 聰	アフリカにおける「顧みられない 熱帯病（NTD）」対策に資する多 重感染症の一括診断法の開発	21,429	6,429	
施設整備費 補 助 金	教 授・平 山 謙 二	熱帯感染症・新興感染症研究拠点 としての細胞レベルでの宿主-感 染症因子間相互作用への多面的ア プローチ基盤システム	120,000	—	
合計	4 件		390,559	80,028	

7. 3. 4 民間等の共同研究

民間等機関名	職名・研究者名	研 究 題 目	民 間 等 (千円)	大 学 (千円)	備 考
アース製薬 株 式 会 社	教 授・皆 川 昇	蚊取り器の効力試験	1,950	0	
住友化学 株 式 会 社	教 授・皆 川 昇	殺虫剤デリバリー技術の野外評価 系および半野外評価系の構築	60,000	0	
合計	2 件		61,950	0	

8 海外活動

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	カ レ ト ン リ チャー ド レ イ ト ン	エジンバラ大学にて学会出席および研究打合せ	イ ギ リ ス	H21. 4. 4 ～ H21. 4. 12	科 学 技 術 新 興 調 整 費
教 授	森 田 公 一	ベトナム拠点プロジェクトの打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 4. 5 ～ H21. 4. 8	受 託 研 究 等 収 入
准教授	川 田 均	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野外評価系および半野外評価系の構築」実施準備のための調査研究	ケ ニ ア	H21. 4. 11 ～ H21. 7. 21	受 託 研 究 等 収 入
産学官 連 携 研究員	前 川 芳 秀	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野外評価系および半野外評価系の構築」実施準備のための調査研究	ケ ニ ア	H21. 4. 11 ～ H21. 7. 21	受 託 研 究 等 収 入
助 教	吉田 レイミント	Investigator meeting に出席, ARI ProjectおよびBirth Cohortの研究打合せのため	ベ ト ナ ム	H21. 4. 12 ～ H21. 4. 25	受 託 研 究 等 収 入
教 授	平 山 壽 哉	共同研究打合せ	フ ラ ン ス	H21. 4. 14 ～ H21. 4. 19	寄 附 金
教 授	森 田 公 一	Global Outbreak Alert and Response Network Meeting に出席	ス イ ス	H21. 4. 15 ～ H21. 4. 19	先 方 負 担 (WHO)
教 授	有 吉 紅 也	Investigator meeting に出席	ベ ト ナ ム	H21. 4. 19 ～ H21. 4. 23	受 託 研 究 等 収 入
プ ロ ジェ クト 研究員	荻 野 倫 子	新興・再興感染症に関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 4. 27 ～ H21. 6. 13	運営費交付金
研 究 機 関 研究員	大 庭 伸 也	マラリア媒介蚊類の発生源の調査研究	ケ ニ ア	H21. 5. 1 ～ H21. 5. 14	グ ロー バ ル C O E
教 授	平 山 謙 二	WHO/TDR Course on Immunology and vaccinology Applied to Dengue Infectionに関する国際会議に出席し, 発表するため	タ イ	H21. 5. 6 ～ H21. 5. 9	寄附金(ディ プロマコース 寄 附 金)
産学官 連 携 研究員	高 野 宏 平	研究調査(サンプルの計測) および論文作成に関する打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 5. 10 ～ H21. 5. 15	受 託 研 究 等 収 入
教 授	平 山 謙 二	ベトナムプロジェクトに関する打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 5. 13 ～ H21. 5. 15	受 託 研 究 等 収 入
教 授	皆 川 昇	赴任のため(赴任先変更: ケニア赴任→熟研赴任)	日 本	H21. 5. 16 ～ H21. 5. 17	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	平 山 壽 哉	第109回米国微生物学会において成果発表	ア メ リ カ	H21. 5. 16 ～ H21. 5. 20	科学研究費等 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	江 原 雅 彦	腸管感染症に関する共同研究及びフィールド調査	ベ ト ナ ム	H21. 5. 19 ～ H21. 6. 2	J S P S
教 授	山 城 哲	熱研他にて資料整理および研究打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 5. 22 ～ H21. 6. 1	グ ローバル C O E
教 授	金 子 修	Vivax Malaria Research 2009 and Beyond会議出席	パ ナ マ	H21. 5. 23 ～ H21. 5. 29	先方負担 (The third Plasmodium vivax research conference)
教 授	平 山 謙 二	倫理委員会に関するワークショップ・会議出席	韓 国	H21. 5. 23 ～ H21. 5. 25	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける小児呼吸器感染症に関する研究打合せ, investigator meeting に出席	ベ ト ナ ム	H21. 5. 24 ～ H21. 6. 6	受託研究等 収 入
教 授	有 吉 紅 也	熱帯感染症教育拠点病院としての関係を確立させるため、打合せを行う	フィリピン	H21. 5. 25 ～ H21. 5. 28	グ ローバル C O E
助 教	宮 城 啓	熱帯感染症教育拠点病院としての関係を確立させるため、打合せを行う	フィリピン	H21. 5. 25 ～ H21. 5. 28	グ ローバル C O E
教 授	平 山 謙 二	JSPSに関するワークショップ・会議出席	フ ラ ン ス	H21. 5. 26 ～ H21. 5. 31	日 本 学 術 振 興 会
教 授	皆 川 昇	JSPSに関するワークショップ出席(フランス), 新興・再興感染症に関する調査・研究(ケニア)	フ ラ ン ス ケ ニ ア	H21. 5. 26 ～ H21. 6. 13	日 本 学 術 振 興 会 , 運営費交付金
教 授	山 本 太 郎	日一仏環境シンポジウム	フ ラ ン ス	H21. 5. 27 ～ H21. 5. 31	グ ローバル C O E
教 授	有 吉 紅 也	Investigator meeting に出席	ベ ト ナ ム	H21. 5. 28 ～ H21. 5. 31	受託研究等 収 入
教 授	平 山 謙 二	シャーガス病に関する研究打合せ	ボ リ ビ ア	H21. 6. 6 ～ H21. 6. 12	グ ローバル C O E
教 授	金 子 修	マラリア原虫に関する研究打合せ(ドイツ・スペイン)	ド イ ツ ス ペ イン	H21. 6. 7 ～ H21. 6. 14	受託研究等収入(ドイツ)科学研究費等補助金(スペイン)
助 教	矢 幡 一 英	マラリア原虫に関する研究打合せ(ドイツ・スペイン)	ド イ ツ ス ペ イン	H21. 6. 7 ～ H21. 6. 14	受託研究等収入(ドイツ)科学研究費等補助金(スペイン)
助 教	坂 口 美亜子	マラリア原虫に関する研究打合せ(ドイツ・スペイン)	ド イ ツ ス ペ イン	H21. 6. 7 ～ H21. 6. 14	受託研究等収入(ドイツ)科学研究費等補助金(スペイン)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	吉田 レイミント	Steering Committee Meeting に出席	ベ ト ナ ム	H21. 6. 16 ～ H21. 6. 20	受託研究等 収 入
准教授	塚 越 達 彦	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	ナ ウ ル	H21. 6. 17 ～ H21. 6. 27	受託研究等 収 入
教 授	有 吉 紅 也	現地担当研究者らとの研究打ち合わせ を行うため	タ イ	H21. 6. 18 ～ H21. 6. 20	科学研究費等 補 助 金
教 授	金 子 修	マラリア原虫に関する研究打合せ(タイ・ラオス)	タ イ ス ラ オ ス	H21. 6. 23 ～ H21. 6. 27	受託研究等 収 入
研 究 機 関 研 究 員	大 庭 伸 也	ベトナムの水田における蚊相に関する 調査研究	ベ ト ナ ム	H21. 6. 27 ～ H21. 7. 17	受託研究等 収 入
講 師	上 村 春 樹	マラリアに関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 6. 28 ～ H21. 7. 11	科学研究費等 補 助 金
C O E 研究員	五十棲 理 恵	マラリアに関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 6. 28 ～ H21. 7. 11	グローバル C O E
講 師	和 田 昭 裕	FEMS2009への参加のため	スウェーデン	H21. 6. 28 ～ H21. 7. 3	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	皆 川 昇	新興・再興感染症に関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 7. 3 ～ H21. 7. 12	運営費交付金
教 授	森 田 公 一	大洋州予防接種強化プロジェクト終了時 評価(バヌアツ・フィジー) 第43回日米 合同ウイルス性疾患専門部会(アメリカ)	バヌアツ フィジー アメリカ	H21. 7. 5 ～ H21. 7. 24	受託研究等 収 入
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける小児呼吸器感染症に関 する研究打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 7. 5 ～ H21. 7. 19	受託研究等 収 入
助 教	比 嘉 由紀子	研究調査に関する研究打合せ及び疾病 媒介蚊の調査研究	フィリピン	H21. 7. 6 ～ H21. 7. 11	科学研究費等 補 助 金
教 授	濱 野 真二郎	赤痢アメーバ症の疫学調査	バングラデシュ	H21. 7. 19 ～ H21. 7. 25	科学研究費等 補 助 金
助 手	柳 哲 雄	インドにおける腸管寄生虫感染症の 疫学的調査研究ならびに腸管寄生虫 株の収集	イ ン ド	H21. 7. 20 ～ H21. 8. 1	運営費交付金
教 授	山 本 太 郎	国際健康開発研究科学生研究課題指導	バングラデシュ	H21. 7. 24 ～ H21. 8. 1	自 己 収 入 (交付金対象)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	橋 爪 真 弘	バングラデシュにおけるコレラ流行と 気候変動に関する疫学研究	バングラデシュ	H21. 7. 25 ～ H21. 8. 1	科学研究費等 補 助 金
助 教	佐 藤 光	MTMタイ研修の引率のため	タ イ	H21. 7. 26 ～ H21. 8. 8	受託研究等 収 入
プ ロ ジェク ト 研究員	荻 野 倫 子	新興・再興感染症に関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 7. 26 ～ H21. 8. 11	運営費交付金
C O E 研究員	土 屋 菜 歩	ランパン病院にてデータ収集(タイ), 9th ICAAP LOCにて学会発表(インド ネシア)	タ イ インドネシア	H21. 7. 26 ～ H21. 8. 23	グ ロー バ ル C O E
助 教	江 原 雅 彦	腸管感染症に関する共同研究及びフィー ルド調査	ベ ト ナ ム	H21. 7. 30 ～ H21. 8. 13	J S P S
教 授	皆 川 昇	新興・再興感染症に関する研究打ち合 わせ (ベトナム), 調査・研究 (ケニ ア)	ベ ト ナ ム ケ ニ ア	H21. 8. 1 ～ H21. 8. 18	運営費交付金
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける小児呼吸器感染症に 関する研究打合せ, investigator meeting 出席	ベ ト ナ ム	H21. 8. 2 ～ H21. 8. 13	受託研究等 収 入
教 授	平 山 謙 二	SIDER-FERCAP関連のワークショップ と会議出席	タ イ	H21. 8. 2 ～ H21. 8. 8	先 方 負 担 (FERCAP)
教 授	有 吉 紅 也	Investigator Meeting 出席, Steering Committee Meetingに出席(ベトナム), 研究打ち合わせのため (タイ)	ベ ト ナ ム タ イ	H21. 8. 3 ～ H21. 8. 8	受託研究等収 入, 自己収入 (交付金対象)
准教授	森 本 浩之輔	Investigator Meeting に出席	ベ ト ナ ム	H21. 8. 3 ～ H21. 8. 5	受託研究等 収 入
助 教	中 澤 秀 介	蚊媒介性疾患(マラリア)に関する共同 研究及びフィールド調査	ベ ト ナ ム	H21. 8. 3 ～ H21. 8. 12	J S P S
産学官 連 携 研究員	前 川 芳 秀	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野 外評価系および半野外評価系の構築」 に関する研究調査及び打合せ	ケ ニ ア	H21. 8. 8 ～ H22. 1. 9	受託研究等 収 入
助 教	依 田 健 志	新型インフルエンザ流行及び対策にか かる日米での対応の相違についての研 究 (出張期間2009/9/1～2010/6/30)	ア メ リ カ	H21. 8. 9 ～ H22. 7. 1	寄 附 金
教 授	平 山 謙 二	デング出血熱に関する研究打ち合わせ	キ ュ ー バ	H21. 8. 10 ～ H21. 8. 17	受託研究等 収 入
教 授	金 子 修	研究打ち合わせ及びセミナー実施	中 国	H21. 8. 12 ～ H21. 8. 15	先 方 負 担 (中国医科大学)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	カ レ ト ン リ チャー ド レ イ ト ン	研究打ち合わせ及びセミナー実施	中 国	H21. 8. 12 ～ H21. 8. 15	先方負担(中国医科大学)
教 授	高 木 正 洋	ホイアン-日本祭り2009に参加およびベトナムプロジェクトに関する打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 8. 13 ～ H21. 8. 18	受託研究等 収 入
准教授	塚 越 達 彦	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	ミクロネシア	H21. 8. 16 ～ H21. 8. 29	受託研究等 収 入
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	ミクロネシア	H21. 8. 20 ～ H21. 8. 26	受託研究等 収 入
准教授	奥 村 順 子	アジアの流動人口におけるHIV/エイズ、結核等発生動向に関する研究およびHIV等に対する偽薬流通と薬剤耐性に関する研究	中 国	H21. 8. 23 ～ H21. 9. 3	受託研究等 収 入
助 教	吉田 レイミント	Contact Patterns and Influenza Transmission in Asia Kick-off Meetingに出席のため	タ イ	H21. 8. 24 ～ H21. 8. 27	先 方 負 担 (WHO)
助 教	橋 爪 真 弘	International Society Environmental Epidemiology学会出席(アイルランド)、現地調査(ケニア・マラウイ)	アイルランド ケ ニ ア マ ラ ウ イ	H21. 8. 25 ～ H21. 9. 14	科学研究費等 補助金, 運営 費 交 付 金
教 授	山 本 太 郎	エイズ発生動向, 調査体制, 対策の分析に関する研究打ち合わせ及び現地調査	中 国	H21. 8. 26 ～ H21. 9. 3	受託研究等 収 入
助 教	吉田 レイミント	成人呼吸器感染症に関する研究打合せ(ベトナム), International Joint Forum on Infectious Diseaseに出席(タイ)	ベ ト ナ ム タ イ	H21. 8. 29 ～ H22. 9. 18	受託研究等 収 入
教 授	皆 川 昇	新興・再興感染症に関する調査・研究及び打ち合わせ(ケニア), 共同研究(マラウイ)	ケ ニ ア マ ラ ウ イ	H21. 8. 30 ～ H21. 9. 15	運営費交付金
准教授	川 田 均	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野外評価系および半野外評価系の構築」に関する研究調査及び打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 9. 1 ～ H21. 9. 3	受託研究等 収 入
C O E 研究員	阿 部 朋 子	6th European Congress on Tropical Medicine and International Healthに出席し学会発表を行うため	イ タ リ ア	H21. 9. 4 ～ H21. 9. 13	科学研究費等 補 助 金
教 授	森 田 公 一	調査研究(ケニア), International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席(タイ)	ケ ニ ア タ イ	H21. 9. 6 ～ H21. 9. 18	科学研究費等 補 助 金
プ ロ ジェク ト 研究員	荻 野 倫 子	新興・再興感染症に関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 9. 6 ～ H21. 10. 6	運営費交付金
准教授	塚 越 達 彦	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	バヌアツ	H21. 9. 14 ～ H21. 9. 29	受託研究等 収 入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 壽 哉	国際学会での発表(第22回ヘリコバクターなどの細菌と胃炎, 胃がんに関するワークショップ)	ポルトガル	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 21	科学研究費等 補 助 金
教 授	山 城 哲	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 19	受託研究等 収 入
教 授	平 山 謙 二	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 18	受託研究等 収 入
助 教	上 地 玄一郎	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 18	受託研究等 収 入
助 教	堀 田 こずえ	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 18	受託研究等 収 入
助 教	角 田 隆	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 18	受託研究等 収 入
助 教	吉 野 弘	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 18	受託研究等 収 入
助 教	鍋 島 武	International Joint Forum on Infectious Diseasesに出席	タ イ	H21. 9. 15 ～ H21. 9. 18	受託研究等 収 入
准教授	川 田 均	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野外評価系および半野外評価系の構築」に関する研究調査及び打合せ	ケ ニ ア	H21. 9. 16 ～ H21. 12. 11	受託研究等 収 入
助 教	矢 幡 一 英	共同研究実施のため	ド イ ツ	H21. 9. 24 ～ H21. 10. 22	受託研究等 収 入
教 授	森 田 公 一	デング出血熱に関する研究打ち合わせ	ベ ト ナ ム	H21. 9. 27 ～ H21. 9. 29	科学研究費等 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	ベトナム拠点打合せ	ベ ト ナ ム	H21. 9. 27 ～ H21. 9. 30	受託研究等 収 入
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける成人呼吸器感染症の研究及び打合せ, Steering committee meetingに出席のため他	ベ ト ナ ム	H21. 9. 27 ～ H21. 10. 10	受託研究等 収 入
教 授	堀 尾 政 博	新興・再興感染症に関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 9. 28 ～ H21. 10. 17	運営費交付金
助 教	中 野 政 之	3rd Conference on Salmonella学会出席	フ ラ ン ス	H21. 10. 3 ～ H21. 10. 11	グ ロー バ ル C O E

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	有 吉 紅 也	HIV臨床疫学研究の打合せ（タイ）， Investigator meeting会議出席（ベトナム）	タ イ ベ ト ナ ム	H21. 10. 4 ～ H21. 10. 10	自己収入(交付金対象),受託研究等収入
教 授	皆 川 昇	新興・再興感染症に関する調査・研究 (ケニア)，マラウイJICA事務所及び 保険省を訪問・情報収集（マラウイ）	ケ ニ ア マ ラ ウ イ	H21. 10. 6 ～ H21. 10. 22	運営費交付金
准教授	塚 越 達 彦	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	キ リ バ ス	H21. 10. 6 ～ H21. 10. 15	受託研究等 収 入
助 教	井 上 真 吾	JICA科学技術研究員としてアルボウイルス感染症のための新たな診断法の開発を行うため	ケ ニ ア	H21. 10. 7 ～ H23. 10. 6	国際協力機構
C O E 研究員	氏 家 無 限	熱帯医学の共同研究を行うため	フィリピン	H21. 10. 11 ～ H21. 12. 27	運営費交付金
助 教	砂 原 俊 彦	研究打ち合わせ	インドネシア	H21. 10. 15 ～ H21. 10. 21	科学研究費等 補 助 金
教 授	森 田 公 一	WHO会議出席のため	中 国	H21. 10. 18 ～ H21. 10. 21	受託研究等 収 入
研 究 機 関 研究員	大 庭 伸 也	ベトナムの水田における蚊相に関する 調査研究	ベ ト ナ ム	H21. 10. 18 ～ H21. 10. 22	受託研究等 収 入
教 授	安 波 道 郎	The American Society of Human Genetics 59th Annual Meetingで成果発表	ア メ リ カ	H21. 10. 20 ～ H21. 10. 26	受託研究等 収 入
教 授	金 子 修	第3回国際寄生虫学シンポジウム出席および情報収集	中 国	H21. 10. 24 ～ H21. 10. 27	先 方 負 担 (中国寄生虫学 会)
C O E 研究員	阿 部 朋 子	第50回日本熱帯医学会大会総会で学会発表及びデータ収集	ベ ト ナ ム	H21. 10. 24 ～ H21. 11. 21	受託研究等 収 入
助 教	宮 城 啓	バンコク市内の日本人学校における流行状況調査のため	タ イ	H21. 10. 26 ～ H21. 10. 29	先 方 負 担 (関西医科大学)
教 授	森 田 公 一	GMSフォーラムに参加のため	ベ ト ナ ム	H21. 10. 28 ～ H21. 10. 31	科学研究費等 補 助 金
教 授	皆 川 昇	修士課程(MTM)学生研修指導（コンゴ），調査研究（ケニア），WHO会議出席（スイス）	コ ン ケ ニ ア ス イ ス	H21. 10. 30 ～ H21. 11. 15	受託研究等収入,運営費交付金
助 教	橋 爪 真 弘	コレラ流行に関する研究打ち合わせ及び現地調査・データ収集	バングラデシュ	H21. 10. 31 ～ H21. 11. 6	グ ロー バ ル C O E

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	フ ィ ジ ー	H21. 11. 7 ～ H21. 11. 20	受託研究等 収 入
講 師	和 田 昭 裕	ケニア拠点見学及び検体処理の実施	ケ ニ ア	H21. 11. 7 ～ H21. 11. 16	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	高 木 正 洋	国際シンポジウム出席及び学術交流	ベラルーシ	H21. 11. 7 ～ H21. 11. 15	補 助 金 間 接 経 費
教 授	濱 野 真二郎	現地視察・調査(ケニア・タンザニア)	ケ ニ ア タンザニア	H21. 11. 8 ～ H21. 11. 23	科 学 技 術 新 興 調 整 費
研 究 機 関 研 究 員	大 庭 伸 也	Annula Science Conference 出席のため	ベ ト ナ ム	H21. 11. 10 ～ H21. 11. 13	受託研究等 収 入
助 教	砂 原 俊 彦	流行地の地理情報を考慮した統一的伝播モデルによるマラリアコントロールの革命に関する研究打ち合わせ・現地調査	バングラデシュ	H21. 11. 11 ～ H21. 11. 22	科学研究費等 補 助 金
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける成人呼吸器感染症の研究及び打合せ他	ベ ト ナ ム	H21. 11. 15 ～ H21. 11. 24	受託研究等 収 入
助 教	宮 城 啓	事業地におけるマラリアに関する罹患状況の把握とデータ整備	マ ラ ウ イ	H21. 11. 16 ～ H21. 11. 28	先 方 負 担 (日本国際 民間協力会)
教 授	山 本 太 郎	エイズ、結核等の調査状況の打ち合わせ・確認及び、各フィールドでのデータ収集	中 国	H21. 11. 16 ～ H21. 11. 24	受託研究等 収 入
教 授	金 子 修	58th ASTMH Annual Meeting出席、情報収集	ア メ リ カ	H21. 11. 17 ～ H21. 11. 24	受託研究等収入・先方負担 (Malaria Research and Reference Reagent Resource Center)
教 授	皆 川 昇	ASTMH 58th Annual Meeting 参加	ア メ リ カ	H21. 11. 18 ～ H21. 11. 24	運営費交付金
教 授	平 山 謙 二	SIDER-FERCAP関連のフォーラムと会議出席	タ イ	H21. 11. 21 ～ H21. 11. 26	自 己 収 入 (交付金対象)
研 究 機 関 研 究 員	大 庭 伸 也	マラリア媒介蚊に関する調査研究	ケ ニ ア	H21. 11. 29 ～ H21. 12. 10	受託研究等 収 入
助 教	後 藤 健 介	JITMM2009&FBPZ6に出席・発表	タ イ	H21. 12. 1 ～ H21. 12. 6	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	橋 爪 真 弘	黄砂の疫学的健康影響に関する研究打ち合わせ、セミナー、データ収集など	ケ ニ ア	H21. 12. 1 ～ H21. 12. 13	科学研究費等補助 金、受託研究等収 入、運営費交付金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	皆 川 昇	新興・再興感染症に関する調査研究(ケニア・マラウイ)	ケ ニ ア マ ラ ウ イ	H21. 12. 3 ～ H21. 12. 15	運営費交付金
准教授	塚 越 達 彦	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施(ヤップ・ミクロネシア)	ヤ ッ プ ミクロネシア	H21. 12. 3 ～ H21. 12. 21	受託研究等 収 入
外国人 研究員 (客員教授)	パディリヤ フィ リップ アイヤン プ リ エ ト	49th American Society for Cell Biology Annual Meeting 出席および研究会議出席	ア メ リ カ	H21. 12. 5 ～ H21. 12. 17	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	高 野 宏 平	蚊媒介性疾患に関する共同研究	ベ ト ナ ム	H21. 12. 5 ～ H21. 12. 12	受託研究等 収 入
C O E 研究員	阿 部 朋 子	ベトナムの保健衛生動向に関するデータ収集を行うため(フィリピン・ベトナム)	フィリピン ベ ト ナ ム	H21. 12. 6 ～ H21. 12. 19	先 方 負 担 (WHO)
助 教	鈴 木 基	感染症調査のため	フィリピン	H21. 12. 7 ～ H21. 12. 12	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	安 波 道 郎	Emerging Infectious Diseases 2009にて成果発表	シンガポール	H21. 12. 7 ～ H21. 12. 12	受託研究等 収 入
助 教	比 嘉 由紀子	疾病媒介蚊に関する調査研究	タ イ	H21. 12. 8 ～ H21. 12. 24	科学研究費等 補 助 金
教 授	森 田 公 一	Emerging Infectious Diseases 2009 Conference学会出席のため	シンガポール	H21. 12. 8 ～ H21. 12. 11	科学研究費等 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	サンラザロ病院との覚書に関する調整, 在フィリピン大使館訪問	フィリピン	H21. 12. 10 ～ H21. 12. 12	日 本 学 術 振 興 会
教 授	有 吉 紅 也	サンラザロ病院との覚書に関する調整, 在フィリピン大使館訪問	フィリピン	H21. 12. 10 ～ H21. 12. 12	日 本 学 術 振 興 会
助 教	宮 城 啓	サンラザロ病院との覚書に関する調整, 在フィリピン大使館訪問	フィリピン	H21. 12. 10 ～ H21. 12. 12	日 本 学 術 振 興 会
教 授	平 山 壽 哉	共同研究打ち合わせ及び論文作成	ア メ リ カ	H21. 12. 11 ～ H21. 12. 15	科学研究費等 補 助 金
助 教	佐 藤 光	MTM, GPの準備のためのバクマイ病院 及びJICA事務所訪問	ベ ト ナ ム	H21. 12. 13 ～ H21. 12. 18	日 本 学 術 振 興 会
教 授	森 田 公 一	WHO主催のミーティングに参加	ス イ ス	H21. 12. 13 ～ H21. 12. 18	先 方 負 担 (WHO)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	有 吉 紅 也	MTM, GPの準備のためのバクマイ病院への表敬訪問	ベ ト ナ ム	H21. 12. 14 ～ H21. 12. 16	日 本 学 術 振 興 会
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける成人呼吸器感染症の研究及び打合せ他	ベ ト ナ ム	H21. 12. 14 ～ H21. 12. 24	受託研究等 収 入
C O E 研究員	土 屋 菜 歩	HIVに関するデータ収集及び研究打合せ	タ イ	H21. 12. 19 ～ H22. 1. 17	グ ローバル C O E
教 授	皆 川 昇	マラリアに関する調査・研究	ケ ニ ア	H21. 12. 24 ～ H22. 1. 13	受託研究等 収 入
教 授	平 山 謙 二	日米合同会議にて成果発表	ア メ リ カ	H22. 1. 9 ～ H22. 1. 13	受託研究等 収 入
C O E 研究員	阿 部 朋 子	バックマイ病院及びカンホア省保健局にて訪問・打合せ	ベ ト ナ ム	H22. 1. 10 ～ H22. 1. 18	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	森 田 公 一	大洋州予防接種事業強化プロジェクトの現地用務実施	フ ィ ジ ー	H22. 1. 10 ～ H22. 1. 22	受託研究等 収 入
助 教	吉田 レイミント	会議・公開講座出席及びミーティング出席のため	ベ ト ナ ム	H22. 1. 10 ～ H22. 1. 28	受託研究等 収 入
教 授	有 吉 紅 也	データの解析, 論文作成の準備	タ イ	H22. 1. 12 ～ H22. 1. 15	科学研究費等 補 助 金
教 授	山 本 太 郎	ハイチにおける大地震に対する国際緊急援助隊医療チームに係る派遣	ハ イ チ	H22. 1. 16 ～ H22. 1. 29	J I C A (国際協力機構)
助 教	比 嘉 由紀子	フィールド調査	フィリピン	H22. 1. 17 ～ H22. 2. 1	科学研究費等 補 助 金
准教授	塚 越 達 彦	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	キ リ バ ス	H22. 1. 20 ～ H22. 1. 30	受託研究等 収 入
教 授	平 山 謙 二	阪大タイ拠点との次期研究計画会議出席(タイ), 公開講座出席及び打合せ等(ベトナム)	タ イ ベ ト ナ ム	H22. 1. 22 ～ H22. 1. 27	自己収入(交付金対象), 受託研究費等収入
教 授	森 田 公 一	ハノイ公開講座出席及びミーティング	ベ ト ナ ム	H22. 1. 23 ～ H22. 1. 26	受託研究等 収 入
教 授	金 子 修	マラリアに関する研究打合せ及びデータ解析	タ イ	H22. 1. 24 ～ H22. 1. 28	先方負担(在タイ米国陸軍医学研究所)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	有 吉 紅 也	MTM, GP準備のための打合せ	イ ギ リ ス	H22. 1. 25 ～ H22. 1. 30	日 本 学 術 振 興 会
助 教	佐 藤 光	MTM, GP準備のための打合せ	イ ギ リ ス	H22. 1. 25 ～ H22. 1. 30	日 本 学 術 振 興 会
助 教	宮 城 啓	マラリアに関する罹患状況の把握とデータ整備のため	マ ラ ウ イ	H22. 1. 25 ～ H22. 2. 6	先方負担 (社 団法人日本国 際民間協力会)
C O E 研究員	土 屋 菜 歩	論博研究者の研究指導のため	タ イ	H22. 1. 25 ～ H22. 1. 28	日 本 学 術 振 興 会
産学官 連 携 研究員	前 川 芳 秀	蚊媒介性疾患に関する共同研究	ベ ト ナ ム	H22. 1. 28 ～ H22. 2. 2	J S P S
助 教	高 野 宏 平	ロタウイルス下痢症の分子疫学調査にかかる研究打合せ	ベ ト ナ ム	H22. 1. 29 ～ H22. 2. 2	グ ローバル C O E
助 教	橋 爪 真 弘	東アフリカにおける気候変動による熱帯感染症流行への疫学的評価影響(ケニア・バングラデシュ)	ケ ニ ア バングラデシュ	H22. 1. 31 ～ H22. 2. 13	運営費交付金 自 己 収 入
准教授	川 田 均	調査研究報告及び打合せ	ケ ニ ア	H22. 2. 1 ～ H22. 3. 12	受託研究等 収 入
教 授	皆 川 昇	アバンディーン大学にて情報収集及びセミナー参加 (イギリス), ナイロビ拠点にて研究打合せ及びキスムにて調査研究 (ケニア)	イ ギ リ ス ケ ニ ア	H22. 2. 2 ～ H22. 2. 14	グ ローバル C O E
教 授	森 田 公 一	「大洋州予防接種事業強化プロジェクト」の現地用務実施	フ ィ ジ ー	H22. 2. 4 ～ H22. 2. 13	受託研究等 収 入
産学官 連 携 研究員	前 川 芳 秀	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野外評価系および半野外評価系の構築」に関する研究調査及び打合せ	ケ ニ ア	H22. 2. 7 ～ H22. 2. 14	受託研究等 収 入
助 教	鈴 木 基	感染症アウトブレイク調査のため	フィリピン	H22. 2. 8 ～ H22. 2. 11	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	堀 尾 政 博	フィールド調査	ケ ニ ア	H22. 2. 8 ～ H22. 2. 21	科学研究費等 補 助 金
研 究 支 援 推進員	荒 木 一 生	フィールド調査	ケ ニ ア	H22. 2. 8 ～ H22. 2. 21	科学研究費等 補 助 金
教 授	有 吉 紅 也	17th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infectionsに出席のため	ア メ リ カ	H22. 2. 16 ～ H22. 2. 20	厚 生 科 研

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
C O E 研究員	氏 家 無 限	レイトスピラ感染症アウトブレイクの 調査及びデータ収集のため	フィリピン	H22. 2. 16 ～ H22. 3. 5	グローバル C O E
教 授	金 子 聰	熱帯アジア・オセアニアにおける環境 変化と感染症の興亡にかかる基礎作業	ラ オ ス	H22. 2. 17 ～ H22. 3. 1	先方負担(総 合地球環境学 研 究 所)
助 教	江 口 克 之	HTLV-1流行状況に関する野外調査	インドネシア	H22. 2. 20 ～ H22. 3. 6	グローバル C O E
助 教	中 澤 秀 介	蚊媒介性疾患(マラリア)に関する共 同研究	ベ ト ナ ム	H22. 2. 21 ～ H22. 2. 25	J S P S
教 授	平 山 壽 哉	ヘリコバクター・ピロリのVacA毒素の 毒性発現とCagAの相互作用解析に関す る共同研究打合せ及び論文作成	ア メ リ カ	H22. 2. 25 ～ H22. 2. 28	科学研究費等 補 助 金
産学官 連 携 研究員	前 川 芳 秀	共同研究「殺虫剤デリバリー技術の野 外評価系および半野外評価系の構築」 に関する研究調査及び打合せ	ケ ニ ア	H22. 2. 25 ～ H22. 3. 17	受託研究等 収 入
教 授	皆 川 昇	新興・再興感染症に関する研究打合せ	ケ ニ ア	H22. 2. 28 ～ H22. 3. 16	受託研究等 収 入
助 教	吉田 レイミント	ベトナムにおける呼吸器感染症に関す る研究打合せ(ベトナム), ISPPDで発 表を行うため(イスラエル)	ベ ト ナ ム イスラエル	H22. 3. 2 ～ H22. 3. 20	受託研究等 収 入
教 授	濱 野 真二郎	南アジアにおける赤痢アメーバ症のゲ ノム疫学に関する研究打合せ	バングラデシュ	H22. 3. 4 ～ H22. 3. 8	科学研究費等 補 助 金
C O E 研究員	阿 部 朋 子	大学院GP事業の打合せのため	ベ ト ナ ム	H22. 3. 6 ～ H22. 3. 13	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	宮 城 啓	僻地住民に対する健康実相調査のため	ラ オ ス	H22. 3. 8 ～ H22. 3. 20	先 方 負 担 (関西医科大学)
助 教	鈴 木 基	Investigator meetingに出席及び小児肺炎 調査について打合せ等を行うため	ベ ト ナ ム	H22. 3. 9 ～ H22. 3. 14	J S P S
教 授	有 吉 紅 也	Investigator meetingに出席及び小児肺炎 調査について打合せ等を行うため	ベ ト ナ ム	H22. 3. 11 ～ H22. 3. 13	J S P S
助 教	橋 爪 真 弘	黄砂の健康影響に関する研究打合せ(イ ギリス) 現地調査(ケニア)	イ ギ リ ス ケ ニ ア	H22. 3. 14 ～ H22. 3. 21	科学研究費等 補助金, 運営 費 交 付 金
教 授	山 本 太 郎	研究打合せ(アメリカ), 現地調査(キュー バ)	ア メ リ カ キ ュ ー バ	H22. 3. 15 ～ H22. 3. 24	自己収入(交 付金対象), 受 託研究等収入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
准教授	森 本 浩之輔	炎症終息過程におけるアポトーシス細胞貪食除去機構に関する研究のため	ア メ リ カ	H22. 3. 16 ～ H22. 6. 30	日 本 学 術 振 興 会
教 授	金 子 聰	ケニア拠点赴任免除のため	日 本	H22. 3. 20 ～ H22. 3. 23	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	グ エ シ フ イ エ ン	研究打合せ及び資料収集	ベ ト ナ ム	H22. 3. 21 ～ H22. 3. 28	自 己 収 入 (交付金対象)
C O E 研究員	土 屋 菜 歩	HIVコホートのデータベース構築に関する研究打合せ及び調査	タ イ	H22. 3. 21 ～ H22. 4. 4	グ ロー バ ル C O E
教 授	平 山 謙 二	Steering Committee Meeting に出席	ベ ト ナ ム	H22. 3. 22 ～ H22. 3. 24	受 託 研 究 等 収 入
助 教	吉田 レイミント	Steering Committee Meeting に出席	ベ ト ナ ム	H22. 3. 22 ～ H22. 3. 25	受 託 研 究 等 収 入
教 授	森 田 公 一	WHO GOARN 会議に出席	カンボジア	H22. 3. 22 ～ H22. 3. 26	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	有 吉 紅 也	データ解析, 論文作成のため	タ イ	H22. 3. 23 ～ H22. 3. 25	受 託 研 究 等 収 入
講 師	上 村 春 樹	共同研究実施のため	インドネシア	H22. 3. 24 ～ H22. 4. 4	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	二 見 恭 子	ケニア拠点赴任免除のため	日 本	H22. 3. 27 ～ H22. 3. 28	運営費交付金
助 教	宮 城 啓	サンラザロ病院TV会議システム・事務用品確認, 現地スタッフとの打ち合わせ	フィリピン	H22. 3. 29 ～ H22. 3. 31	日 本 学 術 振 興 会

9 外国人研究者の受け入れ

9. 1 熱帯医学研究コース

長崎大学大学院医歯薬総合研究科に平成18年度開設された熱帯医学専攻(熱帯医学修士課程)に入学する形で本年度のJICA熱帯医学研究コースも実施された。

平成21年4月に、同コースから7名(ベトナム4, コンゴ民主共和国3)が、同課程に入学した。(平成21年度修士課程学生総数12名)4ヶ月間の講義及び実習, 8月のタイでの海外熱帯医学臨床研修, そして9月から各教室における研究・修士論文作成を行い, 平成22年3月には, 論文発表会にて修士論文を発表し, 審査の結果, 全員が修士を授与されている。

(修士論文題目)

- The effect of intestinal parasitism of nematode *Heligmosomoides polygyrus* on the course of *Leishmania major* infection
- Retrospective study of hepatotoxicity among patients with HIV and hepatitis B/C virus co-infection in Thailand
- Use of bed nets in Mombela and Mbangu-Mbangu villages in the east of Kinshasa city, Democratic Republic of Congo
- Epidemiological trends of measles distribution in Vietnam with spatial analysis
- Impacts of conflict on tuberculosis control in Democratic Republic of Congo: Comparison between Bas Congo West and Province Orientale East
- Effects of house screening with long-lasting insecticidal nets on malaria mosquitoes in Malawi
- Development of reverse transcription loop-mediated isothermal amplification assay for St. Louis encephalitis virus
- Clinical characteristics and prognosis of tetanus cases experienced in the department of infectious diseases, Bach Mai General Hospital in Hanoi, Viet Nam between May 2006–August 2009
- Loop mediated isothermal amplification method for the diagnosis of acute bacterial meningitis in adults
- Prevalence of antiretroviral drug resistant HIV among blood donors in western and eastern parts of Democratic Republic of Congo

(文責：佐藤 光)

9. 2 平成21年度に受け入れた外国人研究者

分野等	氏名	国籍	受入期間	経費	備考
ウイルス学	Matilu Mwau	ケニア	H21. 6. 2～ H21. 6. 21	受託研究等 収 入	
	Basu Dev Pandey	ネパール	H21. 7. 18～ H21. 8. 9	受託研究等 収 入	
	Nguyen Thi Thu Thuy	ベトナム	H21. 11. 1～ H21. 11. 28	J S P S	
	Nguyen Hoang Quan	ベトナム	H21. 11. 1～ H21. 11. 28	J S P S	
	Nguyen Le Khanh Hang	ベトナム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Le Thi Quynh Mai	ベトナム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Md. Alimul Islam	バングラデシュ	H22. 1. 6～ H22. 2. 5	科学研究費 補助金	
	RABUATOKA URAIA	フィジー	H22. 2. 16～ H22. 3. 13	受託研究等 収 入	
細菌学	Padilla Philip Ian Prieto	フィリピン	H21. 4. 1～ H22. 3. 31	大学運営経費	外国人客員 教授
	Nguyen Binh Minh	ベトナム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Ngo Tuan Cuong	ベトナム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Tran Huy Hoang	ベトナム	H22. 1. 3～ H22. 1. 30	J S P S	
原虫学	王 各各	中国	H21. 10. 27～ H22. 6. 30	科学研究費等補助金 受託研究費等収入	
	Sandra Cheesman	イギリス	H21. 11. 14～ H21. 11. 24	運営費交付金	
	Chotivanich Kesinee	タイ	H21. 11. 23～ H21. 11. 28	運営費交付金	
	Le Duc Dao	ベトナム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Liwang Cui	アメリカ	H21. 11. 24～ H21. 12. 9	受託研究等 収 入	
	Prachumsri Jetsumon	タイ	H21. 11. 25～ H21. 11. 28	運営費交付金	
	Yaming Cao	中国	H21. 11. 25～ H21. 11. 29	寄 附 金	
	Yahui Lin	中国	H21. 12. 17～ H22. 6. 30	受託研究等 収 入	
	Ning Jiang	中国	H21. 12. 17～ H22. 6. 30	受託研究等 収 入	
	Tang Jianxia	中国	H22. 1. 11～ H22. 6. 30	受託研究等 収 入	
	Tippawan Sungkapong	タイ	H22. 2. 1～ H22. 6. 29	受託研究等 収 入	
	Sofia Traindade Borges	ポルトガル	H22. 3. 2～ H22. 6. 30	受託研究等 収 入	

分 野 等	氏 名	国 籍	受入期間	経 費	備 考
臨 床 医 学	NGUYEN THI NGAN ANH	ベ ト ナ ム	H21. 6. 14～ H21. 7. 11	J S P S	
	Vien chinh chien	ベ ト ナ ム	H21. 11. 1～ H21. 11. 28	J S P S	
	Le Huu Tho	ベ ト ナ ム	H21. 11. 23～ H21. 11. 28	運営費交付金	
	Nguyen Thi Hien Anh	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Wolf-Peter Schmidt	ド イ ツ	H21. 12. 15～ H22. 12. 14	日 本 学 術 振 興 会	
	Nuanjun Wichukchinda	タ イ	H22. 2. 15～ H22. 3. 20	自 己 収 入 (交付金対象)	
	AL-SHERE TAHA AMILASAN	フィリピン	H22. 3. 14～ H22. 3. 27	グ ローバル C O E	
免 疫 遺 伝 学	Mario Antonio II Jiz	フィリピン	H21. 10. 25～ H21. 11. 20	先方負担(フィリピン 国熱帯医学研究所)、 自己収入(交付金対象)	外国人客員 研 究 員
	Arthur Macaraig Navarro	フィリピン	H21. 10. 25～ H21. 11. 19	先方負担(タマサート大学)、 自己収入(交付金対象)	
	Tashi Tobgay	ブ ー タ ン	H21. 10. 25～ H21. 11. 19	自 己 収 入 (交付金対象)	
	Shyam Prakash Dumre	ネ パ ー ル	H21. 10. 25～ H21. 11. 19	自 己 収 入 (交付金対象)	
	Panida Kongiam	タ イ	H21. 11. 15～ H21. 11. 17	自 己 収 入 (交付金対象)	
	Kesara Na Bangchang	タ イ	H21. 11. 15～ H21. 11. 17	自 己 収 入 (交付金対象)	
	Edelwisa Segubre Mercado	フィリピン	H22. 1. 24～ H22. 3. 27	日 本 学 術 新 興 会	
	Celeste Donato	オーストラリア	H22. 3. 1～ H22. 5. 30	受託研究等 収 入	
	Ruth Bishop	オーストラリア	H22. 3. 23～ H22. 4. 7	受託研究等 収 入	
国 際 保 健 学	HAQUE UBYDUL	バングラデ シュ	H21. 4. 2～ H21. 4. 16	グ ローバル C O E	
	ISLAM MANIRUL	バングラデ シュ	H21. 4. 2～ H21. 4. 16	グ ローバル C O E	
病 害 動 物 学	Hoang Minh Duc	ベ ト ナ ム	H21. 11. 19～ H21. 11. 28	J S P S	
	Dang Duc Anh	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Tran Vu Phong	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Phan Le Thanh Huong	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Nguyen Thuy Hoa	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Phan Quang Thai	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	

分 野 等	氏 名	国 籍	受入期間	経 費	備 考
	Phan Van Tu	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Tran Ngoc Huu	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Bui Trong Chien	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Vu Dinh Luan	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	J S P S	
	Doan Huy Chung	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	受託研究等 収 入	
	Trinh Dinh Can	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	受託研究等 収 入	
	Nguyen Tuong Son	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	受託研究等 収 入	
	Nguyen Nam Lien	ベ ト ナ ム	H21. 11. 24～ H21. 11. 28	受託研究等 収 入	
	Nguyen Thi Viet Hoa	ベ ト ナ ム	H21. 11. 25～ H21. 11. 28	J S P S	
	Nguyen Quang Minh	ベ ト ナ ム	H21. 11. 25～ H21. 11. 28	J S P S	
	Le Thanh Tung	ベ ト ナ ム	H21. 12. 7～ H21. 12. 26	J S P S	
	Nguyen Thi Yen	ベ ト ナ ム	H22. 3. 17～ H22. 3. 21	寄 附 金	
	Vu Sinh Nam	ベ ト ナ ム	H22. 3. 17～ H22. 3. 21	寄 附 金	
	Wannapa Suwonkerd	タ イ	H22. 3. 17～ H22. 3. 21	受託研究等 収 入	
	Pradya Somboon	タ イ	H22. 3. 17～ H22. 3. 21	受託研究等 収 入	
熱 帯 医 学 専 攻	Jean Pierre MALEMBA TSHIBUYI	コンゴ民主共和国	H21. 4. 7～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員
	Ndjinga Julie Delphjne KUNUMANA	コンゴ民主共和国	H21. 4. 7～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員
	Hai Dang LE	ベ ト ナ ム	H21. 4. 7～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員
	Luat Xuan LE	ベ ト ナ ム	H21. 4. 7～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員
	Thanh Tien HOANG	ベ ト ナ ム	H21. 4. 7～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員
	Olivier TSHIANI MBAYA	コンゴ民主共和国	H21. 4. 30～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員
	Hang Thi Thuy LE	ベ ト ナ ム	H21. 4. 30～ H22. 3. 25	独立行政法人 国際協力機構	外国人受託 研 修 員

10 研究成果の発表状況

10. 1 研究業績

ウイルス学分野

- 1) **Le Roux CA, Kubo T, Grobbelaar AA, van Vuren PJ, Weyer J, Nel LH, Swanepoel R, Morita K, Paweska JT** : Development and evaluation of a real-time reverse transcription-loop-mediated isothermal amplification assay for rapid detection of Rift Valley fever virus in clinical specimens. *J Clin Microbiol* Mar; 47(3) : 645-51. 2009
- 2) **Takeshi Nabeshima, Hyunh Thi Kim Loan, Shingo Inoue, Makoto Sumiyoshi, Yasuhiro Haruta, Phan Thi Nga, Vu Thi Que Huong, Maria del Carmen Parquet, Futoshi Hasebe and Kouichi Morita** : Evidence of frequent introductions of Japanese encephalitis virus from south-east Asia and continental east Asia to Japan. *J Gen Virol* Vol. 90 : 827-832. 2009
- 3) **Shoko Honda, Mariko Saito, Efren M. Dimaano, Philip A. Morales, Maria T. G. Alonzo, Lady-Anne C. Suarez, Natsuki Koike, Shingo Inoue, Atsushi Kumatori, Ronald R. Matias, Filipinas F. Natividad, and Kazunori Oishi** : Increased Phagocytosis of Platelets from Patients with Secondary Dengue Virus Infection by Human Macrophages. *Am J Trop Med Hyg* 80(5) : 841-845, 2009
- 4) **Dong Tu Nguyen, Tuan Cuong Ngo, Huy Hoang Tran, Thi Phuong Lan Nguyen, Binh Minh Nguyen, Kouichi Morita and Masahiko Ehara** : Two different mechanisms of ampicillin resistance operating in strains of *Vibrio cholerae* O1 independent of resistance genes. *FEBS Letters* Vol. 298 : 37-43, 2009
- 5) **Kinoshita H, Mathenge EG, Hung NT, Huong VT, Kumatori A, Yu F, Parquet MC, Inoue S, Matias RR, Natividad FF, Morita K, Hasebe F** : Isolation and characterization of two phenotypically distinct dengue type-2 virus isolates from the same dengue hemorrhagic Fever patient. *Jpn J Infect Dis.* Vol. 62(5) : 343-350. 2009
- 6) **Kouichi Morita** : Molecular epidemiology of Japanese encephalitis in East Asia. *Vaccine* Vol. 27 : 7131-7132, 2009
- 7) **Daisuke Hayasaka, Noriyo Nagata, Yoshiki Fujii, Hideki Hasegawa, Tetsutaro Sata, Ryuji Suzuki, Arnest E Gould, Ikuo Takashima, Satoshi Koike** : Mortality following peripheral infection with tick-borne encephalitis virus results from a combination of central nervous system pathology, systemic inflammatory and stress responses. *Virology* 390(1), 139-150, 2009
- 8) **Takeshi Nabeshima & Kouichi Morita** : Phylogeographic analysis of the migration of Japanese encephalitis virus in Asia. *Future Virol* 5(3), 343-354, 2009
- 9) **森田公一** : 蚊媒介性の熱帯性ウイルス疾患—デング出血熱の発症機序をめぐって— *最新医学* Vol. 64(4), 919-923, 2009
- 10) **森田公一, 木下一美** : デング熱研究の最前線. *医学のあゆみ* Vol. 229(4), 241-245, 2009
- 11) **森田公一** : 日本脳炎ワクチン. *化学療法の領域* Vol. 25 : 1459-1465, 2009

- 12) 森田公一：日本脳炎，その他の脳炎（高久史磨，尾形悦郎，黒川 清，矢崎義雄（監修）：新臨床内科学第九版，医学書院，東京，pp. 1368-1369所収）2009
- 13) 蚊媒介性の熱帯性ウイルス疾患－デング出血熱の発症機序をめぐって－；最新医学(The Medical Frontline)，Vol 64(4)，919-923，2009

細菌学分野

- 14) Nakayama M, Hisatsune J, Yamasaki E, Isomoto H, Kurazono H, Hatakeyama M, Azuma T, Yamaoka Y, Yahiro K, Moss J, Hirayama T : *Helicobacter pylori* VacA-induced inhibition of GSK3 through the PI3K/Akt signaling pathway. J Biol Chem 284 : 1612-1619, 2009
- 15) Yoshida A, Isomoto H, Hisatsune J, Nakayama M, Nakashima Y, Matsushima K, Mizuta Y, Hayashi T, Yamaoka Y, Azuma T, Moss J, Hirayama T, Kohno S : Enhanced expression of CCL20 in human *Helicobacter pylori*-associated gastritis. Clin Immunol. 130, 290-297, 2009
- 16) Takeshima E, Tomimori K, Teruya H, Ishikawa C, Senba M, D'Ambrosio D, Kinjo F, Mimuro H, Sasakawa C, Hirayama T, Fujita J, Mori N : *Helicobacter pylori*-Induced Interleukin-12 p40 Expression. Infect. Immun. 77 : 1337-1348, 2009
- 17) Yamashita M, Takahashi K, Sato M, Otsu K, Hirayama T, Katagata Y : Comparison of keratin expression in cultured human adenocarcinoma cell lines. J Dermatol Sci 55 : 59-61, 2009
- 18) Takeshima E, Tomimori K, Takamatsu R, Ishikawa C, Kinjo F, Hirayama T, Fujita J, Mori N. : *Helicobacter pylori* VacA activates NF-kappaB in T cells via the classical but not alternative pathway. Helicobacter 14 : 271-279, 2009
- 19) Nguyen DT, Ngo TC, Tran HH, Nguyen TPL, Ngyen BM, Morita K, Ehara M : Two different mechanisms of ampicillin resistance operating in strains of *Vibrio cholerae* O1 independent of resistance genes. FEMS Microbiol Lett 298 : 37-48, 2009
- 20) Senba M, Buziba N, Mori N, Wada A, Irie S, Toriyama K : Detection of human papillomavirus and cellular regulators p16INK4a, p53, and NF κ B in penile cancer in Kenya. Acta Virol 53 (1) : 43-48, 2009
- 21) Senba M, Mori N, Wada A : Oncogenesis and the link between inflammation and cancer due to human papillomavirus (HPV) infection, and the development of vaccine control strategies. Cancer Research Journal 2 : 307-338, 2009
- 22) Senba M, Mori N, Wada A : DNA tumor viruses : oncogenesis of human papillomavirus (HPV). In *DNA Tumor Viruses* (Tao HE eds; Nove Science Publishers, Inc.) pp. 75-102.
- 23) Senba M, Mori N, Wada A, Fujita S, Yasunami M, Irie S, Hayashi T, Igawa T, Kanetake H, Takahara O and Toriyama K : Human papillomavirus (HPV) genotypes in penile cancers from Japan and HPV induced NF- κ B activation. Oncology Letters, 2009
- 24) Moss J, Levine R, Wada A, Hirayama T and Paone G : Modified defensins and their use. United States Patent 7, 5111, 015 : 2009
- 25) 山崎栄樹，磯本 一，平山壽哉：ピロリ菌空胞化毒素の多機能性－感染における役割－蛋白質核酸酵素54巻：607-613，2009

- 26) 和田昭裕, 長谷川慎, 北條裕信, 一ノ瀬昭豊, 千馬正敬 : *Helicobacter pylori* 空胞化致死毒素(VacA) とミトコンドリア障害の関連を調べる. G.I. Research 17 (2) : 19-24, 2009
- 27) 平山壽哉, 中山真彰, 久恒順三 : 微生物資源国際戦略ガイドブック : 生物資源としての細菌毒素. 233-239, 2009
- 28) 長谷川慎, 伊藤正恵, 和田昭裕, 白井伸明 : 蛍光の変化計測で高感度・迅速な病原体検出. レーザー加工学会誌 16 (3) : 42-45, 2009

原虫学分野

- 29) Mita T, Tanabe K, Takahashi N, Culleton RL, Ndounga M, Dzodzomenyo M, Akhwale WS, Kaneko A, Kobayakawa T : Indigenous evolution of *Plasmodium falciparum* pyrimethamine resistance multiple times in Africa. J Antimicrob Chemother 63 : 252-255, 2009
- 30) ao J, Kaneko O, Thongkukiatkul A, Tachibana M, Otsuki H, Gao Q, Tsuboi T, Torii M : Rhoptry neck protein RON2 forms a complex with microneme protein AMA1 in *Plasmodium falciparum* merozoites. Parasitol Int 58 : 29-35, 2009
- 31) Pandey BD, Pandey K, Kaneko O, Yanagi T, Hirayama K : Relapse of Visceral Leishmaniasis Following Miltefosine Treatment in a Nepalese Patient. Am J Trop Med Hyg 80 : 580-582, 2009
- 32) Pattaradilokrat S, Culleton RL, Cheesman SJ, Carter R : Gene encoding Erythrocyte Binding Ligand linked to blood stage multiplication rate phenotype in *Plasmodium yoelii yoelii*. Proc Natl Acad Sci U S A 106 : 7161-7166, 2009
- 33) Otsuki H, Kaneko O, Thongkukiatkul A, Tachibana M, Iriko H, Takeo S, Tsuboi T, Torii M : Single amino acid substitution in *Plasmodium yoelii* erythrocyte ligand determines its localization and controls parasite virulence. Proc Natl Acad Sci U S A 106 : 7167-7172, 2009
- 34) Iriko H, Jin L, Kaneko O, Takeo S, Han T-T, Tachibana M, Otsuki H, Torii M, Tsuboi T : A small-scale systematic analysis of alternative splicing in *Plasmodium falciparum*. Parasitol Int 58 : 196-199, 2009
- 35) Maekawa Y, Sunahara T, Dachlan YP, Yotoranoto S, Basuki S, Uemura H, Kanbara H, Takagi M : First record of *Anopheles balabacensis* from western Sumbawa Island, Indonesia. J Am Mosq Control Assoc 25 : 203-205, 2009
- 36) Putaporntip C, Jongwutiwes S, Ferreira MU, Kanbara H, Udomsangpetch R, Cui L : Limited global diversity of the *Plasmodium vivax* merozoite surface protein 4 gene. Infect Genet Evol 9 : 821-826, 2009
- 37) Culleton R, Ndounga M, Zeyrek FY, Coban C, Casimiro PN, Takeo S, Tsuboi T, Yadava A, Carter R, Tanabe K : Evidence for the transmission of *Plasmodium vivax* in the Republic of Congo, West Central Africa. J Infect Dis 200 : 1465-1469, 2009
- 38) Nakazawa S, Marchand RP, Nguyen QT, Culleton R, Nguyen MD, Maeno Y : *Anopheles dirus* co-infection with human and monkey malaria parasites in Vietnam. Int J Parasitol 39 : 1533-1537, 2009
- 39) Sakaguchi M, Takishita K, Matsumoto T, Hashimoto T, Inagaki Y : Tracing back EFL gene evolution in the cryptomonads-haptophytes assemblage : Separate origins of EFL genes in haptophytes, photosynthetic cryptomonads, and goniomonads. Gene 441 : 126-131, 2009

- 40) **Inagaki Y, Nakajima Y, Sato M, Sakaguchi M, Hashimoto T** : Gene sampling can bias multi-gene phylogenetic inferences : the relationship between red algae and green plants as a case study. *Mol Biol Evol* 26 : 1171-1178, 2009
- 41) **Burki F, Inagaki Y, Bråte J, Archibald JM, Keeling PJ, Cavalier-Smith T, Sakaguchi M, Hashimoto T, Horak A, Kumar S, Klaveness D, Jakobsen K, Pawlowski J, Shalchian-Tabrizi K** : Large-scale phylogenomic analyses reveal that two enigmatic protist lineages, Telonemia and Centroheliozoa, are related to photosynthetic chromalveolates. *Genome Biol Evol* 1 : 231-238, 2009

寄生虫学分野

- 42) **Tetsutani K, Ishiwata K, Ishida H, Tu L, Torii M, Hamano S, Himeno K, Hisaeda H** : Concurrent infection with *Heligmosomoides polygyrus* suppresses anti-*Plasmodium yoelii* protection partially by induction of CD4(+)CD25(+)Foxp3(+) Treg in mice. *Eur J Immunol* 39(10) : 2822-2830, 2009
- 43) **Watanabe K, Kishihara K, Hamano S, Koga M, Nomoto K, Tada.** : *Strongyloides ratti* : implication of mast cell-mediated expulsion through FcεpsilonRI-independent mechanisms. *Parasite* 16(3) : 209-214, 2009
- 44) **Abe M, Muhoho ND, Sunahara T, Moji K, Yamamoto T, Aoki Y** : Effect of communal piped water supply on pattern of water use and transmission of *schistosomiasis haematobia* in an endemic area of Kenya. *Trop Med Health* 37(2) : 43-53, 2009
- 45) **Watanabe K, Carter J M, Neely-Burnam M, Colley DG** : Relative imbalance between T regulatory cells and activated T cells in mice with differential morbidity in chronic *Schistosoma mansoni* infections. *Parasite Immunol* 31 : 440-446, 2009
- 46) **Ekhlas Hamed Abdel-Hafeez, Kikuchi M, Watanabe K, Ito T, Yu Chen H, Nara T, Aoki Y, Hirayama K** : Proteomic approach for identification of schistosomiasis japonica vaccine candidate antigen. *Parasitol Int* 58 : 36-44, 2009
- 47) **Tu L, Moriya C, Imai T, Ishida H, Tetsutani K, Duan X, Murata S, Tanaka K, Shimokawa C, Hisaeda H, Himeno K** : Critical role for the immunoproteasome subunit LMP7 in the resistance of mice to *Toxoplasma gondii* infection. *Eur J Immunol* 39 (12) : 3385-3394, 2009
- 48) **Mitsui Y, Miura M, Aoki Y** : In vitro effects of artesunate on the survival of worm pairs and egg production of *Schistosoma mansoni*. *J Helminthol* 83(1) : 7-11, 2009
- 49) **Hamano S, Petri W.A. Jr** : Chapter 221 - Amebiasis, Subsection 1 - Protozoa; A.Amebae. Feigin & Cherry's Textbook of Pediatric Infectious Diseases : Expert Consult 2-Volume Set. 6th Edition, Saunders, 2009
- 50) **吉田裕樹, 濱野真二郎** : 原虫感染とIL-12サイトカインファミリー. 蛋白質核酸酵素54(8) : 1059-1065, 2009
- 51) **小林隆志, 川澄みゆり, 濱野真二郎** : 感染症制御における制御性T細胞, アレルギー・免疫16(5) : 708-714, 2009

臨床医学分野

- 52) **Rojanawiwat A, Ariyoshi K, Pathipvanich P, Tsuchiya N, Auwanit W, Sawanpanyalert P** :

- Substantially exposed but HIV-negative individuals are accumulated in HIV-serology-discordant couples diagnosed in a referral hospital in Thailand. *Jpn J Infect Dis* 62(1) : 32–36, 2009
- 53) **Tsuchiya N, Pathipvanich P, Yasuda T, Mukoyama Y, Rojanawiwat A, Matsubayashi T, Saeng-Aroon S, Auwanit W, Matsuyama A, Sawanpanyalert P, Ariyoshi K** : Demographic, socio-economic, behavioral and clinical factors predicting virologic failure with generic fixed-dose combination antiretroviral therapy before universal health insurance coverage in northern Thailand. *South-east Asian J Trop Med Public Health* 40(1) : 71–82, 2009
 - 54) **Richens TR, Linderman DJ, Horstmann SA, Lambert C, Xiao YQ, Keith RL, Boad DM, Morimoto K, Bowler RP, Day BJ, Janssen WJ, Henson PM, Vandivier RW** : Cigarette smoke impairs clearance of apoptotic cells through oxidant-dependent activation of RhoA. *Am J Respir Crit Care Med* 179(11) : 1011–1021, 2009
 - 55) **Anh DD, Kilgore PE, Slack MPE, Nyambat B, Tho LH, Yoshida LM, Nguyen HA, Nguyen CD, Chong Y, Nguyen D, Ariyoshi K, Clemens JD, Jodar L** : Surveillance of Pneumococcal-Associated Disease among Hospitalized Children in Khanh Hoa Province, Vietnam. *Clin. Infect. Dis* 48(S-2) : 57–64, 2009
 - 56) **Yoza Y, Ariyoshi K, Honda S, Taniguchi H, Senjyu H** : Development of an activity of daily living scale for patients with COPD : The Activity of Daily Living Dyspnoea scale. *Respirology* 14(3) : 429–435, 2009
 - 57) **Honda S, Saito M, Dimaano EM, Morales PA, Alonzo MT, Suarez LA, Koike N, Inoue S, Kumatori A, Matias RR, Natividad FF, Oishi K** : Increased phagocytosis of platelets from patients with secondary dengue virus infection by human macrophages. *Am J Trop Med Hyg* 80(5) : 841–845, 2009
 - 58) **Kuroki R, Kawakami K, Qin L, Kaji C, Watanabe K, Kimura Y, Ishiguro C, Tanimura S, Tsuchiya Y, Hamaguchi I, Sakakura M, Sakabe S, Tsuji K, Inoue M, Watanabe H** : Nosocomial bacteremia caused by biofilm-forming *Bacillus cereus* and *Bacillus thuringiensis*. *Intern Med* 48(10) : 791–796, 2009
 - 59) **Suzuki M, Thiem VD, Yanai H, Matsubayashi T, Yoshida LM, Tho LH, Minh TT, Anh DD, Kilgore P, Ariyoshi K** : Association of environmental tobacco smoking exposure with an increased risk of hospital admissions for pneumonia in children under 5 years of age in Vietnam. *Thorax* 64(6) : 484–489, 2009
 - 60) **Watanabe K, Senba M, Ichinose A, Yamamoto T, Ariyoshi K, Matsumoto K** : Bactericidal activity in filtrated supernatant of *Streptococcus sanguinis* against multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*. *Tohoku J Exp Med* 219(2) : 79–84, 2009
 - 61) **Borges VM, Vandivier RW, McPhillips KA, Kench JA, Morimoto K, Groshong SD, Richens TR, Graham BB, Muldrow AM, Van Heule L, Henson PM, Janssen WJ** : TNF α inhibits apoptotic cell clearance in the lung, exacerbating acute inflammation. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 297(4) : 586–595, 2009
 - 62) **Isozumi R, Yoshimine H, Morozumi M, Ubukata K, Ariyoshi K** : Adult community-acquired pneumonia caused by macrolide resistant *Mycoplasma pneumoniae*. *Respirology* 14(8) : 1206–1208, 2009
 - 63) **Morimoto K, Nakama T, Yamamoto A, Tanaka T, Enzann H, Ishida M** : Idiopathic localized bronchostenosis in an adult man with frequent recurring pneumonia. *Intern Med* 48(21) : 1915–1918, 2009
 - 64) **Qin L, Masaki H, Gotoh K, Furumoto A, Terada M, Watanabe K, Watanabe H** : Molecular

- epidemiological study of *Moraxella catarrhalis* isolated from nosocomial respiratory infection patients in a community hospital in Japan. Intern Med. 48(10) : 797-803, 2009.
- 65) 田中健之, 黒木麗喜, 石田正之, 本田章子, 田川 努, 永安 武, 林徳真吉, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也 : 2 菌種(*N. farcinica*, *N. cyriacigeorgica*)が同定された肺ノカルジア症の1例. 日本呼吸器学会雑誌 47(7) : 647-651, 2009
- 66) 興座嘉康, 有吉紅也, 本田純久, 谷口博之, 千住秀明 : COPD患者のための日常生活活動スケールの開発 : 日常生活活動息切れスケール. 日本呼吸器学会雑誌 47(10) : 858-864, 2009
- 67) 宮城 啓 : 地域における三大感染症 : エイズ・結核・マラリア. 東南アジア. 感染症. アステラス製薬株式会社 39(1) : 37-43, 2009
- 68) 土橋佳子, 古本朗嗣 : 肺犬糸状虫. 呼吸. レスピレーションリサーチファンデーション 28(6) : 635-638, 2009
- 69) 島川祐輔, 有吉紅也 : たかがインフルエンザ, されどインフルエンザ. *medicia*. 医学書院 46(10) : 1588-1592, 2009
- 70) 鈴木 基, 吉田レイミント, 有吉紅也 : 熱帯地の肺炎をサイエンスする. 化学療法の領域. 医薬ジャーナル社 25(12) : 101-105, 2009
- 71) 有吉紅也 : コレラ. (編 : 山口 徹, 北原光夫, 福井次矢) : 今日の治療指針2009, 医学書院, 東京, pp. 138-139所収, 2009
- 72) 森本浩之輔 : 抗寄生虫(蠕虫, 原虫)薬. (編 : 水島 裕) : 今日の治療薬2009, 南江堂, 東京, pp. 136-144 所収, 2009
- 73) 田中健之, 有吉紅也 : エイズの最新情報. 健康一口メモ(22), 長崎県保険医協会, pp. 8, 2009
- 74) 田中健之, 有吉紅也 : 一般外来のHIV感染症への対応. 日本医事新報, 日本医事新報社, pp. 112-114, 2009
- 75) 宮城 啓, 中野貴司, 岩崎有澄美, 市村 宏, 庵原俊昭, 岩田 敏, 岡田賢司, 岡田純一, 金川修造, 高山直秀, 津守陽子, 西山利正, 萩原敏且, 濱田篤郎, 春田恒和, 福島慎二, 松本高明, 三島伸介, 水野泰孝, 宮津光伸, 渡邊 浩, 尾内一信 : 本邦における腸チフスワクチンと髄膜炎菌ワクチンの安全性と有効性. 2. 日本渡航医学会誌 (1) 19-23. 2008
- 76) 宮城 啓, 津守陽子 : <特集関連情報>本邦における腸チフスワクチンの安全性と有効性. 病原微生物検出情報 (月報) 30 (4) : 6-7. 2009

免疫遺伝学分野

- 77) Abdel-Hafeez EH, Kikuchi M, Watanabe K, Ito T, Yu C, Chen H, Nara T, Arakawa T, Aoki Y, Hirayama K : Proteome approach for identification of schistosomiasis japonica vaccine candidate antigen. Parasitol Int 58(1) : 36-44, 2009
- 78) Pandey BD, Pandey K, Kaneko O, Yanagi T, Hirayama K : Relapse of visceral leishmaniasis after miltefosine treatment in a Nepalese patient. Am J Trop Med Hyg 80(4) : 580-2, 2009
- 79) Helegbe GK, Huy NT, Yanagi T, Shuaibu MN, Yamazaki A, Kikuchi M, Yasunami M, Hirayama K : Rate of red blood cell destruction varies in different strains of mice infected with *Plasmodium berghei*-AN-

- KA* after chronic exposure. *Malar J* 8 : 91 2009.
- 80) **Gideon K Helegbe, Louis Y Anyidoho, Fred N Gyan** : Screening of the efficacy of some commonly used antibiotics in Ghana. *Res J Microbiol* 4 (6) : 214-221, 2009
 - 81) **Hoa PT, Huy NT, Thu le T, Nga CN, Nakao K, Eguchi K, Chi NH, Hoang BH, Hirayama K** : Randomized controlled study investigating viral suppression and serological response following pre-S1/pre-S2/S vaccine therapy combined with lamivudine treatment in HBeAg-positive patients with chronic hepatitis B. *Antimicrob Agents Chemother*; 53(12) : 5134-40, 2009
 - 82) **Hinohara K, Nakajima T, Yasunami M, Houda S, Sasaoka T, Yamamoto K, Lee BS, Shibata H, Tanaka-Takahashi Y, Takahashi M, Arimura T, Sato A, Naruse T, Ban J, Inoko H, Yamada Y, Sawabe M, Park JE, Izumi T, Kimura A** : Megakaryoblastic leukemia factor-1 gene in the susceptibility to coronary artery disease. *Hum Genet*; 126(4) : 539-47, 2009
 - 83) **Kominami S, Tanabe N, Ota M, Naruse TK, Katsuyama Y, Nakanishi N, Tomoike H, Sakuma M, Shirato K, Takahashi M, Shibata H, Yasunami M, Chen Z, Kasahara Y, Tatsumi K, Kuriyama T, Kimura A** : HLA-DPB1 and NFKBIL1 may confer the susceptibility to chronic thromboembolic pulmonary hypertension in the absence of deep vein thrombosis. *J Hum Genet* 54(2) : 108-14, 2009
 - 84) 平山謙二：消化管寄生条虫症. *Today's Therapy 2009 今日の治療指針—私はこう治療している.* pp193, 医学書院, 総編集；山口 徹, 北原光夫, 福井次矢, 2009年1月1日発刊
 - 85) 平山謙二：デング出血熱重症化に関与する遺伝子探索. 私たちの研究(71), 化学療法の領域 Vol. 25(No. 2), 99-111, 2009 (2月号), 医薬ジャーナル社発刊
 - 86) 平山謙二：感染症 Chagas病, IV空腸, 回腸, 盲腸, 結腸, 直腸, 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No12, 消化管症候群(第2班)その他の消化管疾患を含めて 下, pp79-83, 2009. 株)日本臨床社発刊 2009年9月発刊
 - 87) 安波道郎：第12回HLA-QCワークショップレポート—全体経過— MHC, 16(1) : 7 - 10, 2009
 - 88) 大田正穂, 石川義英, 石谷昭子, 大鷲 順, 小河原悟, 柏瀬貢一, 木村彰方, 小林 賢, 高原史郎, 田中秀則, 徳永勝士, 中島文明, 西村泰治, 平山謙二. 丸屋悦子, 矢部登志雄：平成21年度HLA検査技術者認定試験に関する報告. *MHC*, 16(3) : 27-28. 2009
 - 89) **Gideon K. Helegbe, Tetsuo Yanagi, Masachika Senba, Nguyen T. Huy, Mohammed N. Shuaibu, Akiko Yamazaki, Mihoko Kikuchi, Michio Yasunami, Kenji Hirayama** : Histopathologic studies in different strains of semi immune mice infected with PbANKA after chronic exposure. *The American Journal Tropical Medicine and Hygiene*; 81(5), 241, 2009
 - 90) **Kishor Pandey, Arun Kumar Mallik, Basu Dev Pandey, Osamu Kaneko, Tetsuo Yanagi and Kenji Hirayama** : Diagnosis of visceral leishmaniasis by polymerase chain reaction of DNA extracted from giemsa stained slides from Nepal. *The American Journal Tropical Medicine and Hygiene*; 81(5), 36, 2009
 - 91) 安波道郎, 山崎朗子, アマディン・ハッサン・オマール, ギデオ・ヘレシベ, マイケル・オフォリ, バルトロメオ・アカモリ, 堀江仁美, 柴田宏樹, 菊池三穂子, 平山謙二：ガーナ民族集団に見いだされた新しい低親和性IgG受容体FcγRIIaバリエーションアリル. *MHC*, 16(2), 178, 2009.

病理学分野

- 92) **Senba M, Buziba N, Mori N, Wada A, Irie S, Toriyama K** : Detection of human papillomavirus and cellular regulators p16^{INK4A}, p53, and NF- κ B in penile cancer cases in Kenya. *Acta Virol* 53 (1) : 43-48, 2009
- 93) **Watanabe K, Senba M, Ichinose A, Yamamoto T, Ariyoshi K, Mastumoto K** : Bactericidal activity in filtrated supernatant of *Streptococcus sanguis* against multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*. *Tohoku J Exp Med* 219 (2) : 79-84, 2009
- 94) **Tomita M, Toyota M, Ishikawa C, Nakazato T, Okudaira T, Matsuda T, Uchihara JN, Taira N, Ohshiro K, Senba M, Tanaka Y, Ohshima K, Saya H, Tokino T, Mori N** : Overexpression of aurora A by loss of CHFR gene expression increases the growth and survival of HTLV-1-infected T cells through enhanced NF- κ B activity. *Int J Cancer* 124(11) : 2607-2615, 2009
- 95) **Takeshima E, Tomimori K, Kawakami H, Ishikawa C, Sawada S, Tomita M, Senba M, Kinjo F, Mimuro H, Sasakawa C, Fujita J, Mori N** : NF- κ B activation by *Helicobacter pylori* requires Akt-mediated phosphorylation of p65. *BMC Microbiol* 9 : 36, 2009 (www.biomedcentral.com/1471-2180/9/36)
- 96) **Takeshima E, Tomimori K, Teruya H, Ishikawa C, Senba M, D' Ambrosio D, Kinjo F, Mimura H, Sasakawa C, Hirayama T, Fujita J, Mori N** : *Helicobacter pylori*-induced interleukin-12 p40 expression. *Infect Immun* 1337-1348, 2009
- 97) **Senba M, Mori N, Wada A** : Oncogenesis and the link between inflammation and cancer due to human papillomavirus (HPV) infection, and the development of vaccine control strategies. *Cancer Res J* 2(4) : 307-338, 2009
- 98) **Senba M*, Mori N, Wada A** : Oncogenesis of human papillomavirus (HPV). In : Tao HE, editor. *DNA Tumor Virus*. NOVA Science Publishers, Inc., New York, 75-102, 2009
- 99) **和田昭裕, 長谷川 慎, 北條裕信, 一ノ瀬昭豊, 千馬正敬** : *Helicobacter pylori* 空胞化致死毒素 (VacA) とミトコンドリア障害の関連を探る. *G.I. Research* 17 : 123-128, 2009 + カラーアトラス p106.

エイズ・感染防御分野

- 100) **H Kamiyama, H Yoshii, Y Tanaka, H Sato, N Yamamoto, Y Kubo** : Raft localization of CXCR4 is primary required for X4-tropic human immunodeficiency virus type 1 infection, *Virology* 386, 23-31, 2009
- 101) **H. Yoshii, H. Kamiyama, K. Minematsu, K. Goto, T. Mizota, K. Oishi, N. Katsunuma, N. Yamamoto, Y. Kub** : Cathepsin L is required for ecotropic murine leukemia virus infection in NIH3T3 cells. *Virology* 394, 227-234, 2009

生態疫学分野

- 102) **Daisuke Onozauka, Takemsumi Yoshimura, Satoshi Kaneko, and Masutaka Furue** : Mortality After Exposure to Polychlorinated Biphenyls and Polychlorinated Dibenzofurans : A 40-Year Follow-up Study of Yusho Patients. *Am j Epidemiol* 169(1) : 86-95, 2009
- 103) **Horio Masahiro, Hamano Shinjiro, Miura Sachio, Takeuchi Tsutomu** : Cultivo y aislamiento de T. cruzi del recién nacido con enfermedad Chagas Congenita, infectado por la vía placentaria. *しのびよるシャー*

ガス病—中南米の知られざる感染症（慶應大学出版会），2009

- 104) **Horio Masahiro, Hamano Shinjiro, Seki Kensuke, Miura Sachio, Takeuchi Tsutomu** : Triatomas que viven en las viviendas y la frecuencia de infeccion de *T. cruzi* en Bolivia. *しのびよるシャーガス病—中南米の知られざる感染症（慶應大学出版会），2009*
- 105) **Isozumi R, Yoshimine H, Morozumi M, Ubukata K, Ariyoshi K** : Adult community-acquired pneumonia caused by macrolideresistant *Mycoplasma pneumoniae*. *Respirology* 14(8) : 1206-1208, 2009
- 106) **Ochi S, Shimizu T, Ohtani K, Ichinose Y, Arimitsu H, Tsukamoto K, Kato M and Tsuji T** : Nucleotide Sequence Analysis of the Enterotoxigenic *Escherichia coli* Ent Plasmid. *DNA Research*, Oct. 16(5) 299-309, 2009
- 107) **Onozuka D, Yoshimura T, Kaneko S, Furue M** : Mortality after exposure to polychlorinated biphenyls and polychlorinated dibenzofurans : a40-year follow-up study of Yusho patients. *American journal of Epidemiology* 169(1) : 86-95, 2009

国際保健学分野

- 108) **Hashizume M, Wagatsuma Y, Hayashi T, Saha SK, Streatfield K, Yunus M** : The effect of temperature on mortality in rural Bangladesh : a population based time-series study. *International Journal of Epidemiology* 38(6) : 1689-1697, 2009
- 109) **Hashizume M, Terao T, Minakawa N** : Indian Ocean Dipole and malaria risk in the highlands of westernKenya. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 106 : 1857-62, 2009
- 110) **Abe T, Honda S, Nakazawa S, Tuong TD, Thieu NQ, Hung LX, Thuan LK, Moji K, Takagi M, Yamamoto T** : Risk Factors for Malaria Infection among Ethnic Minorities in Binh Phuoc, Vietnam. *South-east Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health* 40 : 18-29, 2009
- 111) **Hayashi H, Ashizawa K, Uetani M, Futagawa S, Fukushima A, Minami K, Honda S, Hayashi K** : Detectability of peripheral lung cancer on chest radiographs : effect of the size, location and extent of ground-glass opacity. *Br J Radiol* 82 : 272-278, 2009
- 112) **Yoza Y, Ariyoshi K, Honda S, Taniguchi H, Senjyu H** : Development of an activity of daily living scale for patients with COPD : The Activity of Daily Living Dyspnoea scale. *Respirology* 14 : 429-435, 2009
- 113) **Eguchi K, Fujii H, Otani M, Oshima K, Matsuo T, Yamamoto T** : Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1) Genetic Typing in Kakeroma Island, an Island at the Crossroads of the Ryukyus and Wajin in Japan, Providing Further Insights into the Origin of the Virus in Japan. *Journal of Medical Virology* 81 : 1450-1456, 2009
- 114) **Abe M, Muhoho ND, Sunahara T, Moji K, Yamamoto T, Aoki Y** : Effect of communal piped water supply on water use pattern and the transmission of schistosomiasis haematobia in an endemic area of Kenya. *Tropical Medicine and Health*. 37(2) : 43-53, 2009
- 115) **Onozuka D, Hashizume M, Hagihara A** : Impact of weather factors on *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. *Thorax* 64(6) : 507-11, 2009
- 116) **Koreth J, Schlenk R, Kopecky KJ, Honda S, Sierra J, Djulbegovic BJ, Wadleigh M, DeAngelo DJ,**

- Stone RM, Sakamaki H, Appelbaum FR, Dohner H, Antin JH, Soiffer RJ, Cutler C** : Allogeneic stem cell transplantation for acute myeloid leukemia in first complete remission : systematic review and meta-analysis of prospective clinical trials. *JAMA*. 301(22) : 2349-61, 2009
- 117) **Magafu M, Moji K, Lgumvor EU, Hashizume M, Mizota T, Komazawa O, Cai G, Yamamoto T** : Usefulness of Highly Active Antiretroviral Therapy on Health-Related Quality of Life of Adult Recipients in Tanzania. *AIDS Patient Care and STDs*. 23(7) : 563-570, 2009
- 118) **Oshima K, Fujii H, Eguchi K, Otani M, Matsuo T, Kondo S, Yoshiura K, Yamamoto T** : A Further Insight into the Origin of Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1) in Japan, Based on the Genotyping of ABCC11. *Tropical Medicine and Health*. 37(3) : 121-123, 2009
- 119) **Okumura J, Kai T, Hayati Z, Karmil F, Kimura K, Yamamoto Y** : Antimicrobial Therapy for Water-Associated Wound Infections in a Disaster Setting : Gram-Negative Bacilli in an Aquatic Environment and Lessons from Banda Aceh. *Prehospital and Disaster Medicine* 24(3) : 189-196, 2009
- 120) **Ahmed SM, Haque R, Haque U, Hossain A** : Knowledge on the transmission, prevention and treatment of malaria among two endemic population of Bangladesh and their health-seeking behaviour. *Malaria Journal* 8 : 173 2009
- 121) **Haque U, Huda M, Hossain A, Ahmed SM, Moniruzzaman M, Haque R** : Spatial malaria epidemiology in Bangladeshi highlands. *Malaria Journal*. 8 : 185 2009
- 122) **Haque U, Ahmed SM, Hossain S, Huda M, Hossain A, Alam MS, Mondal D, Khan WA, Khalequzzaman M, Haque R**. **Malaria** : Prevalence in Endemic Districts of Bangladesh. *PLoS one*. 4(8)1-9, 2009
- 123) **Onozuka D, Hashizume M, Hagihara A** : Effects of weather variability on infectious gastroenteritis. *Epidemiol Infect* 138(2) : 236-243, 2009
- 124) **ai G, Kang J, Shen L, Min X, Wu Z, Rou K, Yamamoto T, Moji K** : Assessment of a questionnaire used for an AIDS-related KABP survey among physicians in China : Information SCIE. (in press)
- 125) **Yamamoto T, Cai G, Chen H, Zhang Z** : A new influenza pandemic is coming. (新型インフルエンザ世界がふるえる日 (中国語版) 天津科学技術出版社
- 126) **樋口倫代, 奥村順子, 青山温子, Sri Suryawati, John Porter** : 東ティモールの地方における医薬品使用と標準治療ガイドライン活用. *国際保健医療*. 24 (4) : 281-88, 2009
- 127) **今村芳博, 小野寺美紀, 山辺麻紀, 本田純久, 宮田雄吾** : 精神科病院スタッフの緊急時心理的变化と介入. *日本社会精神医学会雑誌*. 17 : 297-305, 2009
- 128) **砂原俊彦** : マラリア媒介蚊が集まる場所. *医学のあゆみ*. 229 (4) : 264-267, 2009

国際健康開発政策学分野

- 129) **Hiroaki Yoshii, Haruka Kamiyama, Kazuo Minematsu, Kensuke Goto, Tsutomu Mizota, Kazunori Oishi, Nobuhiko Katunuma, Naoki Yamamoto, Yoshinao Kubo** : Cathepsin L is required for ecotropic murine leukemia virus infection in NIH3T3 cells. *Virology* 394 : 227-234, 2009
- 130) **Kazuo Minematsu, Yoshinori Kaneko, Mio Nakazato, Takahiro Maeda, Nmor Jephtha**

- Christopher, Takeshi Yoda, Kensuke Goto, Noboru Takamura, Tsutomu Mizota** : Percentage Body Fat Assessed by Bioelectrical Impedance Analysis as a New Health Index for Rural Areas in the Asia-Pacific Region. *Acta Med. Nagasaki*, Vol. 54. 39-43, 2009
- 131) **Jc Nmor, K Goto, K Minematsu, T Mizota, JO Onojafe, BA Omu** : Anthropogenic Indices of Soil-Transmitted Helminthiasis Among children in Delta State, Southern Nigeria. *Joint International Tropical Medicine Meeting 2009*, p.81, 2009
- 132) **K Minematsu, Jc Nmor, K Goto, T Mizota** : Prediction of Overweight Using Bioelectrical Impedance Analysis Among People Living in Rural and Isolated Areas in The Asia-Pacific Region. *Joint International Tropical Medicine Meeting 2009*, p.179, 2009
- 133) **Kensuke Goto, Ryouma Kurahashi, Kazuo Minematsu, Jephtha Christopher Nmor, Keinosuke Gotoh, Tsutomu Mizota** : Analysis of the Relationship between Yellow Sand and Bronchial Asthma by Using Satellite Data. *Joint International Tropical Medicine Meeting 2009*, p.183, 2009
- 134) **黒木貴一, 磯 望, 後藤健介** : 亀裂情報から被害分布図を作成する簡便な方法-福岡県西方沖地震を例に. *応用地質* Vol. 50, No. 3, pp. 151-159, 2009
- 135) **黒木貴一, 磯 望, 後藤健介, 宗 建郎, 黒田圭介** : 1982年長崎豪雨の被災地における環境変化. *自然災害研究協議会西部地区部会報・論文集*, 第33号, pp. 29-32, 2009
- 136) **後藤健介, 黒木貴一, 磯 望, 宗 建郎, 黒田圭介, Vu Dinh Thiem, 溝田 勉** : 衛星データによる被災地の環境指標解析. *自然災害研究協議会西部地区部会報・論文集*, 第33号, pp. 75-78, 2009
- 137) **上田真功, 米家克彦, 上田 憲, 後藤健介, 後藤恵之輔** : 陸域観測技術衛星ALOSによる農作物塩害の調査解析. *自然災害研究協議会西部地区部会報・論文集*, 第33号, pp. 79-82, 2009
- 138) **後藤恵之輔, 後藤健介, 後藤徹寛, 森 正** : 暮らしと自然災害. 電気書院, 200P, 2009

病害動物学分野

- 139) **Kawada H, Higa Y, Nguyen T.Y, Tran H.S, Nguyen T.H & Takagi M** : Nationwide investigation of the pyrethroid susceptibility of mosquito larvae collected from used tires in Vietnam. *PLOS Neglected Tropical Diseases*, 3(3)e391, 2009
- 140) **Abe T, Honda S, Nakazawa S, Trinh D.T, Nguyen Q.T, Le X.H, Le K.T, Moji K, Takagi M & Yamamoto T** : Risk factors for malaria infection among ethnic minorities in Binh Phuoc, Vietnam. *Southeast Asian J Trop Med Public Health*, 40(1), 18-29, 2009
- 141) **Tsuzuki A, Trang H, Tsunoda T, Loan L, Kawada H & Takagi M** : Effect of existing practices on reducing *Aedes aegypti* pre-adults in key breeding containers in Ho Chi Minh City, Vietnam. *American Journal of Tropical Medicine & Hygiene*, 80(5), 752-757, 2009
- 142) **Maekawa Y, Tsuda Y, Dachlan Y.P, Yotopranoto S, Gerudug I.K, Yoshinaga K, Kanbara H & Takagi M** : Anopheline fauna and incriminatory malaria vectors in malaria endemic areas on Lombok Island, Indonesia. *Medical Entomology and Zoology*, 60(1), 1-11, 2009
- 143) **Tsuzuki A, Vu T.D, Higa Y, Nguyen T.Y & Takagi M** : High potential risk of dengue transmission

during the hot-dry season in Nha Trang City, Vietnam. Acta Tropica, 111, 325-329, 2009

- 144) **Maekawa Y, Sunahara T, Dachlan Y.P, Yotoranoto S, Basuki S, Uemura H, Kanbara H & Takagi M** : First record of *Anophles balabacensis* from western Sumbawa Island, Indonesia. Journal of the American Mosquito Control Association, 25(2), 203-205, 2009
- 145) **Kawada H, Higa Y, Komagata O, Kasai S, Tomita T, Nguyen T.Y, Luu L.L, Sanchez R.A.P & Takagi M** : Widespread distribution of a newly found point mutation in voltage-gated sodium channel in pyrethroid-resistant *Aedes aegypti* populations in Vietnam. PLOS Neglected Tropical Diseases, 3(10), e527-1-7, 2009
- 146) **Tsuzuki A, Vu T.D, Higa Y, Nguyen T.Y & Takagi M.** : Effect of peridomestic environments on repeated infestation by preadult *Aedes aegypti* in urban premises in Nha Trang City, Vietnam. American Journal of Tropical Medicine & Hygiene, 81(4), 645-650, 2009
- 147) **Munga S, Yakob L, Mushizimana E, Zhou G, Ouna T, Minakawa N, Githeko A & Yan G.** : Land use and land cover changes and spatiotemporal dynamics of anopheline larval habitats during a four-year period in a highland community of Africa. American Journal of Tropical Medicine and Hygiene, 81(6), 1079-1084, 2009

共同研究室

- 148) **Kiwao Watanabe, Masachika Senba, Akitoyo Ichinose, Takeshi Yamamoto, Koya Ariyoshi and Keizo Matumoto** : Bactericidal Activity in Filtrated Supernatant of Streptococcus Sanguinis against Multidrug-Resistant Pseudomonas Aeruginosa. Tohoku J. Exp. Med. 219 : 79-84, 2009
- 149) **和田昭裕, 長谷川 慎, 北條裕信, 一ノ瀬昭豊, 千馬正敬** : *Helicobacter Pylori* 空胞化致死毒素 (VacA) とミトコンドリア障害の関連を探索. G.I.Research vol. 17 no2 : 19(123)-24(128), 2009
- 150) **一ノ瀬昭豊** : ウイルスの透過電顕試料作製の実際. 医学生物学電子顕微鏡技術学会第22回電子顕微鏡技術研修会「夏の学校」テキスト : 1-7, 2009
- 151) **一ノ瀬昭豊** : ネガティブ染色法. 医学生物学電子顕微鏡技術学会第22回電子顕微鏡技術研修会「夏の学校」テキスト : 8-14, 2009

10. 2 学会発表演題

- 1) 田中健之, 寺田真由美, 森本浩之輔, 有吉紅也: 肺の炎症巣におけるアポトーシス細胞貪食除去(efferocytosis)におけるMonocyte Chemoattractant Protein-1 (MCP-1/CCL2)の役割. 第8回肺分子病態研究会, 福岡, 2009年1月10日.
- 2) 小笠原徹, 有馬哲彦, 浦山 哲, 麻生憲史, 谷口健治, 深堀愛子, 古林正夫, 木原正高: 検診で発見された早期十二指腸癌の1例. 第284回日本内科学会九州地方会, 福岡, 2009年1月24日. 抄録集 p. 42
- 3) 氏家無限, 宮城 啓, 黒木麗喜, 久保 亨, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: 両側下肢関節痛と筋痛の遷延を認めたデング熱の1例. 第284回日本内科学会九州地方会, 福岡, 2009年1月24日. 抄録集 p. 52
- 4) 齊藤信夫, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 劉 美和, 隈上武志, 有吉紅也: 急速な視力低下で発症した梅毒性視神経炎の1例. 第284回日本内科学会九州地方会, 福岡, 2009年1月24日. 抄録集 p. 52
- 5) 後藤健介, 瀬木佑太, 溝田 勉: 衛星データ解析のノロウイルス感染症対策への適用可能性. 平成20年度福岡地理学会冬季例会, 福岡大学セミナーハウス, 福岡市, 2009年1月25日.
- 6) 橋爪真弘: バングラデシュ農村部における気温と死亡率の関連. 京都大学防災研究所・生存圏研究所・東南アジア研究所・生存基盤科学研究ユニット 共同研究集会, "気象災害軽減など人間活動の持続可能性に関する研究集会 ―南アジア地域を中心として―" 京都大学木質ホール, 2009年1月29日ー30日.
- 7) 金子 聰: "長崎大学熱帯医学研究所のケニアでの活動" 福岡JICA派遣専門家連絡会, アクロス福岡, 2009年2月7日.
- 8) 金子 聰: 「地球規模課題である『熱帯病』制圧のための熱帯病流行地域における大規模情報収集システム整備に関する研究: 5万人登録追跡システムの紹介」, 第19回エコヘルス研究会, 総合地球環境学研究所, 京都, 2009年2月9日.
- 9) 矢幡一英, 前島一博, 今本文男, 金子 修: マラリア原虫への外来遺伝子の導入と制御に向けて. 第7回感染症沖縄フォーラム, 那覇, 2009年2月12日ー14日.
- 10) 金子 修: マラリア原虫の赤血球侵入の分子基盤. 第7回感染症沖縄フォーラム, 那覇, 2009年2月12日-14日.
- 11) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介, 宗 建郎, 黒田圭介: 1982年長崎豪雨の被災地における環境変化, 平成20年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 九州大学(福岡市) 2009年2月13日.
- 12) 後藤健介, 黒木貴一, 磯 望, 宗 建郎, 黒田圭介, Vu Dinh Thiem, 溝田 勉: 衛星データによる被災地の環境指標解析, 平成20年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 九州大学(福岡市) 2009年2月13日.
- 13) 上田真功, 米家克彦, 上田 憲, 後藤健介, 後藤恵之輔: 陸域観測技術衛星ALOSによる農作物塩害の調査解析. 平成20年度自然災害研究協議会西部地区部会・研究発表会, 九州大学(福岡市), 2009年2月13日.
- 14) 皆川 昇: 気候変動とアフリカのマラリア流行. 第24回日本環境感染症学会横浜市, パシフィコ横

浜, 2009年 2 月27日-28日.

- 15) **金子 修**: マラリアは世界的な問題だけど, 科学はどこまで追い詰めているの? 第27回日本国際保健医療学会西日本地方会, 大阪市, 2009年 2 月28日.
- 16) **松本由有子, 小寺宏平, 嶋田貴子, 島崎貴治, 小山和彦, 古本朗嗣, 有吉紅也, 増崎英明**: 帝王切開術後に子宮筋層炎を併発したが, 子宮温存が可能であった1例. 第33回長崎感染症研究会, 長崎, 2009年 2 月28日.
- 17) **島川祐輔, 古本朗嗣, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也**: タイ北部・モン族難民キャンプにおける責任臓器不明の熱性疾患の診断. 第33回長崎感染症研究会, 長崎, 2009年 2 月28日.
- 18) **吉田レイミント, Vu TTH, 鈴木 基, 野内英樹, 渡邊貴和雄, Anh NT, Phan HTL, Anh DD, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 有吉紅也**: ベトナムにおける小児肺炎症例での肺炎球菌とウイルスとの関連についての検討. 第33回長崎感染症研究会, 長崎, 2009年 2 月28日.
- 19) **Junko K Akada, Hisao Kurazono, Toshiya Hirayama, Teruko Nakazawa and Kazuyuki Nakamura**: *Helicobacter pylori* CagA inhibits VacA endocytosis during infection. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋国際会議場, 2009年 3 月12日-14日.
- 20) **Toshiya Hirayama**: Pleiotropic effects of *H. pylori* VacA may associate with the development of gastric cancer. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋国際会議場, 2009年 3 月12日-14日.
- 21) **和田昭裕**: 蛍光相関分光法を用いた細菌毒素とガングリオシドの結合親和性の検出と評価. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋国際会議場, 2009年 3 月12日-14日.
- 22) **江原雅彦, 岩見 守, Nauyen Dong Tu, 一瀬休生**: Characterization of *Vibrio cholerae* O1 strains isolated in Vietnam in 2007-2008. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 2009年 3 月12日-14日.
- 23) **一瀬休生, 江原雅彦, 辻 孝雄, 越智定幸**: 西日本ケニアで流行したO1コレラ菌株の性状について. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 2009年 3 月12日-14日.
- 24) **Nguyen Dong Tu, 岩見 守, 一瀬休生, 江原雅彦**: Vibriophages in the northern provinces in Vietnam. 第82回日本細菌学会総会, 名古屋, 2009年 3 月12日-14日.
- 25) **後藤健介**: 衛星データの保健医療分野への応用事例. 「熱海アジア・オセアニアにおける環境変化と感染症の興亡」に関するGIS合同研究会, ニューフジヤホテル (熱海市) 2009年 3 月16.
- 26) **Hamano S.**: 赤痢アメーバの感染成立を規定する宿主因子に関する研究. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月26日-28日.
- 27) **Watanabe K.**: The effect of *Schistosoma mansoni* immature worm antigen on the host immune response against egg antigen. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年 3 月26日-28日.
- 28) **和田昭裕, 一瀬休生**: ガングリオシド樹脂を用いた細菌毒素の同定方法の検討. 第83回日本細菌学会総会, パシフィコ横浜, 2009年 3 月27日-29日.
- 29) **前野芳正, 中澤秀介**: 熱帯熱マラリア原虫生殖母体のpfg377 mRNA の多型について. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 30) **井上雅広, 安田幸一, 上村春樹, 杉本佳織, 井上大志, 福岡利英**: Biological significance of heterodimeric form of *Trypanosoma brucei* 14-3-3 I and II. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年 3 月27日-28日.

- 31) **Culleton Richard, Pattaradilokrat Sittiporn, 金子 修, Heesman Sandra, Carter Richard** : Gene encoding Erythrocyte Binding Ligand linked to blood stage multiplication rate in *Plasmodium yoelii*. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 32) **Alexandre Jean Sem Fils, Kaewthamasorn Morakot, 矢幡一英, 中澤秀介, 鳥居本美, Sattabongkot Jetsumon, Udomsangpetch Rachanee, 金子 修** : Diversity of the rhoph1/clag multigene family of *Plasmodium falciparum* in Thailand. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 33) **Kaewthamasorn Morakot, 矢幡一英, Alexandre Jean Sem Fils, 中澤秀介, 鳥居本美, Sattabongkot Jetsumon, Udomsangpetch Rachanee, 金子 修** : Positive diversifying selection on *Plasmodium falciparum* SURFIN4. 2. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 34) **Tang Jianxia, 矢幡一英, 鳥居本美, 金子 修** : The diversity of the extracellular domains of *Plasmodium falciparum* SURFIN family proteins; evidence for positive diversifying selection. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 35) **Sungkapong Tippawan, Culleton Richard, 矢幡一英, 坪井敬文, 鳥居本美, Sattabongkot Jetsumon, 金子 修, Hotivanch Kesinee** : Characterization of *Plasmodium vivax* subtelomeric transmembrane protein (PvSTP), a homolog of *P. falciparum* SURFIN. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 36) **五十棲理恵, 上村春樹, Dao LD, Hanh TV, Giang ND, Vien HV, Phuc BQ, Tuan NV, Thuong NT, ong LD, Thuan LK, 中澤秀介** : ベトナムBinh Phuoc 省で採取された熱帯熱マラリア原虫の縦断的網羅的薬剤耐性遺伝子解析 (pfcr, pfmdr1). 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 37) **Toshihiro Mita, Kazuyuki Tanabe, Nobuyuki Takahashi, Hideaki Eto, Takahiro Tsukahara, Hikota Osawa, Richard Culleton, Hiroshi Omae, Kiyoshi kita, Akira kaneko, Takatoshi Kobayakawa** : Origins and spread of pyrimethamine resistant *Plasmodium falciparum*. 第78回日本寄生虫学会大会, 東京, 2009年3月27日-28日.
- 38) **菊池三穂子, Segubre-Mercardo, Edelwisa M, Leonardo Lydia R, 千種雄一, 井上 徹, Arevalo Napoleon L, Lim Rornald R, Agsolid Lea M, 平山謙二, 吾妻 健** : フィリピンにおける若年性住血吸虫性肝線維化症の発症に関わるHLA-DRB1*1501の相関解析. 第78回日本寄生虫学会大会, 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎, 東京, 2009年3月27日-28日. (第78回日本寄生虫学会大会プログラム・抄録集, pp69, 2009)
- 39) **Abdel-Hafeez Ekhlas Hamed, 菊池三穂子, 渡部幹次, Boamah Daniel, 陳 紅根, 余 伝心, 平山謙二** : ミニプタにおけるガンマ線照射セルカリア免疫によって誘導される防御免疫応答性. 第78回日本寄生虫学会大会, 2009年3月27日-28日, 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎, 東京, 2009年3月27-28日. (第78回日本寄生虫学会大会プログラム・抄録集, pp71, 2009)
- 40) **田邊和桁, 美田敏宏, 堀部 舜, 先導直子, 澤井裕美, 金子 明, 大前比呂思, 中村正聡, 平山謙二, 小早川隆敏, 堀井俊宏, 岸野洋久** : 熱帯熱マラリア原虫における遺伝的多様性の分布. 第78回日本寄生虫学会大会, 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎, 東京, 2009年3月27日-28日. (第78回日本

寄生虫学会大会プログラム・抄録集, pp79, 2009)

- 41) **Puerto Rodas Del Fflorencia, 菊池三穂子, Nishizawa J Eiki, Iihoshi Keiko, Velarde U G Freddy, Velarde Luis A, Roca Jelin, 三浦左千夫, 安波道郎, 平山謙二**：ボリビアの慢性シャーガス病発症に関わる宿主遺伝要因の解析. 第78回日本寄生虫学会大会, 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎, 東京, 2009年3月27日-28日. (第78回日本寄生虫学会大会プログラム・抄録集, pp79, 2009)
- 42) **後藤健介, 黒木貴一, 黒田圭介, 宗 建郎, 磯 望**：土砂崩壊地における衛星データを用いた長期モニタリングによる環境変動調査. 2009年日本地理学会春季学術大会, 帝京大学(八王子市), 2009年3月28日-30日.
- 43) **黒木貴一, 磯 望, 後藤健介**：1982年長崎豪雨による被災地の環境変化と土地被覆分類. 2009年日本地理学会春季学術大会, 帝京大学(八王子市), 2009年3月28日-30日.
- 44) **大庭伸也, 高木正洋**：日本産ゲンゴロウ類成虫のボウフラに対する捕食能力の評価. 第53回日本応用動物昆虫学会大会, 札幌市, 2009年3月28日-30日.
- 45) **二見恭子, 皆川 昇**：ケニアにおけるマラリア媒介蚊の分布. 第53回日本応用動物昆虫学会大会回, 札幌市, 北海道大学, 2009年3月28日-30日.
- 46) **皆川 昇, 二見恭子**：西ケニア・スバ地区でのマラリア媒介蚊サーベランスシステム(MSS). 第53回日本応用動物昆虫学会大会, 札幌市, 北海道大学, 2009年3月28日-30日.
- 47) **砂原俊彦, 山本太郎**：リモートセンシングによるAnopheles dirus密度予測の試み. 第61回日本衛生動物学会大会, 香川県, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日.
- 48) **高木正洋**：日本の疾病媒介蚊の研究. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp37, 2009)
- 49) **大橋和典, 津田良夫, 葛西真治, 川田 均, 阿部眞由美, 都野展子, 高木正洋**：住宅地におけるウエストナイルウイルスの潜在的媒介蚊の特定とその季節消長. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp50, 2009)
- 50) **鎌田龍星, 伊澤晴彦, 星野啓太, 佐々木年則, 津田良夫, 金京 純, 梁瀬 徹, 白藤浩明, 今田忠男, 川田 均, 比嘉由紀子, 前川芳秀, 高木正洋, 小林睦生, 澤邊京子**：2008年国内捕集コガタアカイエカからの日本脳炎ウイルスの検出および遺伝子解析. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp56, 2009)
- 51) **大庭伸也, 高木正洋**：ゲンゴロウ類成虫のコガタアカイエカ幼虫に対する捕食能力. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp57, 2009)
- 52) **富田隆史, 葛西真治, 駒形 修, 比嘉由紀子, 津田良夫, 澤邊京子, 小林睦生, Wang His-Chieh, Weerasinghe Indira S**：コガタアカイエカ殺虫剤抵抗性アセチルコリンエステラーゼ遺伝子のアジアにおける分布. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp59, 2009)
- 53) **岡澤孝雄, 當間孝子, 宮城一郎, 比嘉由紀子, Leh Charles**：マレーシアに分布するArmigeres属の蚊の卵巣小管数. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp62, 2009)

- 54) 高野(竹中)宏平, **Nguyen Thi Hong Ngoc, Nguyen Thi Huong Binh, Nguyen Duc Manh, 高木正洋**: ベトナム産ハマダラカ属 *Leucosphyrus* グループの分子系統学的・生物地理学的整理. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日(衛生動物60, 大会特集号, pp63, 2009)
- 55) 玉城美加子, 當間孝子, 宮城一郎, 比嘉智子, 金城高子, 比嘉由紀子: 分子生物学的手法による沖縄県内に生息する蚊の吸血源動物の同定. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日. (衛生動物60, 大会特集号, pp72, 2009)
- 56) 川田 均, 比嘉由紀子, 駒形 修, 葛西真治, 富田隆史, **Nguyen Thi Yen, Nguyen Thuy Hoa, 高木正洋**: ベトナム全土における古タイヤに発生する蚊類の生態調査 (5) ネットアイシマカの *kdr* 遺伝子の地域分布に関する解析. 第61回日本衛生動物学会大会, 高松市, サンポートホール高松, 2009年4月2日-4日.
- 57) 有吉紅也: 開発途上国での経験を含めて一熱帯地(開発途上国)で感染症を学ぶ〜アフリカ・アジアの経験から〜. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 58) 原田義高, 森本浩之輔, 富増邦夫, 森内浩幸, 有吉紅也: Multiplex-PCRを用いた本邦の小児急性呼吸器感染症におけるウイルス感染症の検討. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 59) 土屋菜歩, 森内浩幸, 有吉紅也: 北タイにおいてGB virus-C共感染がHIV感染者の予後に及ぼした影響について. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 60) 松木 啓, 森 正彦, 有吉紅也: In Silico手法を用いたHIV特異的細胞傷害性T細胞 (CTL) 認識エピトープのFine Mapping. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 61) 森 正彦, 有吉紅也: タイ国HIV-1 CRF01_AE感染長期未発症者における新たなHLA拘束性Gagエピトープの同定. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 62) 古本朗嗣, 土橋佳子, 柳原克紀, 森本浩之輔, 有吉紅也: 当科がコンサルトを受けた化膿性脊椎炎症例の検討. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 63) 森本浩之輔, 原田義高, 有吉紅也: ベトナム政府系病院へ入院した小児重症呼吸器感染症患者におけるMultiplex PCRを用いた呼吸器ウイルス感染症の検討. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 64) **Vu TTH, 有吉紅也**: Measurement of Bacterial Loads in Nasopharyngeal Sample and Its association with Pediatric Pneumonia in Vietnam. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 65) 森内浩幸, 有吉紅也: ベトナム中南部における先天性トキソプラズマ・風疹・CMV感染の疫学. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 66) 島川祐輔, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: タイ北部におけるモン族難民キャンプ内NGO診療所で経験した水痘アウトブレイクの報告. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 67) 石田正之, 葛籠幸枝, 中間貴弘, 森本浩之輔, 有吉紅也: 当院で経験したDrug-Induced Hypersensitivity Syndrome (DIHS) 3症例の検討. 第83回日本感染症学会総会, 東京, 2009年4月23日-24日.
- 68) 久保 亨, 一瀬休生, 森田公一: ケニア共和国における黄熱ウイルス感染症のELISA法を用いた血清疫学とその他の蚊媒介性熱帯ウイルス感染症の血清学的解析. 第83回日本感染症学会総会, 東京,

2009年4月23-24日.

- 69) **山本太郎**：今後のアフリカ科学技術協力はいかにあるべきか．アフリカ科学技術協力シンポジウム，文部科学省講堂，東京，2009年4月27日．
- 70) **古本朗嗣，松木 啓，土屋菜歩，星野和彦，真崎宏則，森本浩之輔，有吉紅也**：胸膜炎，半月体形成糸球体腎炎を合併したANCA関連血管炎の一例．第62回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部，春季学術講演会，沖縄，2009年5月23日．
- 71) **小山和彦，渡邊貴和雄，原田義高，古本朗嗣，本田章子，力富直人**：呼吸器感染症における肺炎球菌およびインフルエンザ菌の各種抗菌薬に対する薬剤感受性に関する検討．第57回日本化学療法学会総会，東京，2009年6月3日-5日．
- 72) **一瀬休生，江原雅彦，越智定幸，辻 孝雄**：西ケニアのコレラ流行とその起因菌の性状について．第57回日本化学療法学会，2009年6月3日-5日．
- 73) **石田正之，中間貴弘，葛籠幸枝，円山英昭，福岡順也，古本朗嗣，土橋佳子，森本浩之輔，有吉紅也**：悪性関節リウマチ（MRA）治療中に急速な経過で発熱・呼吸不全を呈し死亡した，胸部多発結節影症例の一剖検例．第49回日本呼吸器学会学術講演会．東京，2009年6月12日-14日．
- 74) **石田正之，中間貴弘，島崎貴治，松木 啓，田中健之，原田義高，古本朗嗣，土橋佳子，森本浩之輔，有吉紅也**：当院及び協力施設におけるガイドシース併用気管支内腔超音波検査（EBUS-GS）の使用経験．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 75) **土橋佳子，松木 啓，田中健之，山下嘉郎，森本浩之輔，田川 努，永安 武，林徳真吉，中田光，有吉紅也**：生体肺移植に至った治療抵抗性肺胞蛋白症（抗GM-CSF自己抗体陰性）の一例．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 76) **中間貴弘，石田正之，山本 彰**：当院における外科的気管切開術（ST）と経皮的気管切開術（PT）の検討．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 77) **田中健之，寺田真由美，森本浩之輔，有吉紅也**：肺の炎症巣でのアポトーシス細胞貪食除去（Efferocytosis）におけるMCP-1/CCL2の役割．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 78) **島崎貴治，Marte Shane，氏家無限，松木 啓，田中健之，原田義高，石田正之，古本朗嗣，宮城啓，本田章子，土橋佳子，森本浩之輔，有吉紅也**：肺非結核性抗酸菌（NTM）症患者における治療効果に影響する因子の解析．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 79) **森本浩之輔，吉田レイミント，鈴木 基，原田義高，有吉紅也**：ベトナム中南部カンホア県病院に入院した小児呼吸器感染症958症例における呼吸器ウイルス性病原体の関与に関する研究．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 80) **土屋菜歩，山下嘉郎，森本浩之輔，有吉紅也**：北タイHIVコホートにおけるHAART療法導入前後の結核罹患率の推移に関する研究．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 81) **中間貴弘，石田正之，山本 彰**：経皮的気管切開術におけるラリングマスク（LM）を用いた気道確保の有用性の検討．第49回日本呼吸器学会学術講演会，東京，2009年6月12日-14日．
- 82) **早坂大輔**：ダニ媒介性脳炎ウイルスをマウスに異なる経路で接種した際の発症・致死性の比較．第44回日本脳炎ウイルス生態学研究会，北海道，2009年6月19日-20日．

- 83) 吉川 亮, 井上真吾, 吾郷昌信, 森田公一: 長崎県におけるイノシシの日本脳炎抗体保有率調査, 第44回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 北海道, 2009年6月19日-20日.
- 84) 左 一八, 在原雅貴, 加藤大介, 渡邊一平, 森田公一, 鈴木 隆: 日本脳炎ウイルス感染における硫酸化糖鎖分子の構造と機能. 第44回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 北海道, 2009年6月19日-20日.
- 85) 岡本健太, 遠藤友志郎, Posadas Guillermo, 余 福勲, Maria del Carmen Parquet, 鍋島 武, 井上真吾, Nguyen Thanh Thuy, Bui Minh Trang, nguyen Tran Hien, Vu Sinh Nam, Filipinas F. Natividad, 長谷部太, 森田公一: プロテオミクス法を用いた蚊媒介性ウイルスの迅速的網羅的同定法の開発. 第44回日本脳炎ウイルス生態学研究会, 北海道2009年6月19日-20日.
- 86) 中島悠史郎, 磯本 一, 大仁田賢, 平山壽哉, 中尾一彦: 胃MALTリンパ腫に対するH. pylori除菌治療前後の拡大内視鏡像の変化. 第15回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京ステーションコンファレンス, 2009年6月25日-26日.
- 87) 平山壽哉, 磯本 一, 山岡吉生, 東 健: VacAによるPI3K/Akt情報伝達経路を介したGSK3の阻害について. 第15回日本ヘリコバクター学会学術集会東京ステーションコンファレンス, 2009年6月25日-26日.
- 88) 磯本 一, 平山壽哉: 「シンポジウム: H. pylori 病原性関連遺伝子: どこまで明らかにされたか?」ヘリコバクターピロリ空胞, 化致死毒素 (VacA) のアポトーシス誘発機構, 第15回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京ステーションコンファレンス, 2009年6月25日-26日.
- 89) 赤田純子, 中澤晶子, 平山壽哉, 中村和行: CagAによる細胞膜VacA受容体RPTRaのエンドサイトーシス遅延, 第15回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京ステーションコンファレンス, 東京, 2009年6月25日-26日.
- 90) 稲垣祐司, Fabien Burki, Jon Brate, John Archibald, Patrick Keeling, Thomas Cavalier-Smith, 坂口美亜子, 橋本哲男, Ales Horak, Dag Klaveness, Kjetill Jakobsen, Jan Pawlowski, Kamran Shalchian-Tablizi: 遺伝子データ解析によるテロネマ類と有中心粒太陽虫の系統的位置. 日本進化原生生物学会, 仙台, 2009年7月4日-5日.
- 91) Inoue MTang J, Culleton R, Kaneko O: Abrogation of Immunity Against Pre-Erythrocytic Stages of Malaria by Exposure to Blood Stages of Homologous and Heterologous Species. 免疫学サマースクール2009, 淡路市, 2009年7月15日-18日.
- 92) 宮城 啓: バンコクにおける邦人の医療事情: 三大私立病院を通して. 第13回日本渡航医学会, 学術集会, 福岡, 2009年7月17日-18日.
- 93) 氏家無限, 佐藤 光, 有吉紅也, 平山謙二, 中込 治: 長崎大学医歯薬学総合研究科熱帯医学修士課程を修了した日本人医師の動向. 第13回日本渡航医学会学術集会, 福岡2009年7月17日-18日.
- 94) 宮城 啓: バンコクにおける邦人の医療事情: 三大私立病院を通して. 第24回日本国際保健医療学会学術大会, 仙台, 2009年8月5日-6日.
- 95) 秦 亮, 山本太郎: 中国におけるエイズhigh risk groupである流動人口についての調査. 第24回日本国際保健医療学会学術大会, 東北大学星陵キャンパス, 2009年8月5日-6日.
- 96) 金子 修: マラリア原虫の赤血球侵入・感染赤血球表面の生物学. 第17回分子寄生虫学ワークショップ

- プ，群馬県吾妻郡草津町，2009年8月6日-9日。
- 97) 佐倉孝哉，矢幡一英，金子 修：熱帯熱マラリア原虫EBA-175の細胞内トラフィックティング．光イメージング若手の会・第1回光塾，神戸市，2009年8月15日-16日。
 - 98) 黒木貴一，磯 望，後藤健介：福岡県西方沖地震の被害情報を地図化する試み．日本国際地図学会，平成21年度定期大会，立正大学（東京都品川区），2009年8月19日-20日。
 - 99) Mohiuddin Hussain Khan, Masatoshi Taga, Junko Okumura, Manabu Akazawa, Tey Sovannarith, Nam Nivanna, Tea Kim Chhay, Kazuko Kimura : A survey on counterfeit medicines among community pharmacies/drug outlets in Cambodia during 2006-2008. 69th International Congress of FIP, Istanbul, Turkey, 2009年9月3日-8日。
 - 100) 平山壽哉，中山真彰，久恒順三，磯本 一： *H. pylori* VacAによるPI3K/Akt情報伝達経路を介したGSK3の阻害について．第62回日本細菌学会九州支部総会，佐賀大学医学部，臨床大講堂，2009年9月4日-5日。
 - 101) Nguyen Dong Tu, 岩見 守，一瀬休生，江原雅彦：Characterization of *Vibrio cholerae* O1 strains isolated in northern Vietnam in 2007-2009. 第62回日本細菌学会九州支部総会，佐賀，2009年9月4日-5日。
 - 102) Toshiya Hirayama and Hajime Isomoto : Functional significance of *Helicobacter pylori* vacuolating cytotoxin, VacA, through the PI3K/Akt signaling pathway. 第9回あわじしま感染症・免疫フォーラム，兵庫県立淡路島夢舞台国際会議場，2009年9月8日-11日。
 - 103) Mitsui Y, Miura M, Aoki Y, Hamano S : In vitro effects of artesunate on the survival of worm pairs and egg production of *Schistosoma mansoni* : 第9回あわじしま感染症・免疫フォーラム，兵庫県淡路市，2009年9月8日-11日。
 - 104) 平山謙二：熱帯感染症の重症化の遺伝学的解析．第53回国立大学附置研究所・センター長会議第2部会，公開シンポジウム，帯広畜産大学，北海道，2009年9月18日-19日。
 - 105) 安波道郎，グエン ラン，倉田佐和，ヴ フォン，トラン テュイ，ハ テュアン，ヴォ テュオン，トラン ダト，柴田宏樹，堀江仁美，菊池三穂子，森田公一，平山謙二：NF κ B (NFKB1) - β マンノシダーゼ (MANBA) 遺伝子領域への Dengue 出血熱重症化要因のマッピング．日本人類遺伝学会第54回大会，2009年9月23日-26日，グランドプリンスホテル高崎，東京，2009年9月23日-26日。（日本人類遺伝学会第54回大会，p196，2009）
 - 106) 安波道郎，山崎朗子，アマディン ハッサン オマール，ギデオンのヘレシベ，マイケル オフォリ，バルトロメオ アカモリ，堀江仁美，柴田宏樹，菊池三穂子，平山謙二：ガーナ民族集団に見いだされた新しい低親和性IgG受容体FcγRIIaバリエーション。第18回日本組織適合性学会大会，2009年9月25日-27日，名古屋国際会議場，名古屋2009年9月25日-27日。（MHC，16(2)，178，2009）
 - 107) 金子 修：マラリア原虫分子の細胞内動態および原虫のライブイメージング．第8回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム，吹田市，2009年10月9日-10日。
 - 108) 大槻 均，石野 智，金子 修，橘真由美，坪井敬文，鳥居本美：ネズミマラリア原虫赤血球結合タンパク (EBL) の細胞内輸送ドメインの機能解析．第8回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム，吹田市，2009年10月9日-10日。

- 109) **Hamano S, Shimokawa C, Rashidul H, Dinesh M** : カラ・アザールの発症を規定する因子に関する研究. 第8回分子寄生虫・マラリアワークショップ, 大阪市, 2009年10月9日-10日.
- 110) **橋本知幸, 伊藤靖忠, 川田 均** : レーザー光センサーを用いた家ねずみの探索行動の観察. 第61回日本衛生動物学会東日本支部, 東京都, 国立感染症研究所, 2009年10月17日.
- 111) **長谷部 太** : デングウイルスと viral quasispecies (ウイルス準種). 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 112) **渡辺直熙, Nguyen Thi Phuong Lan, Vu Thi Que Huong, Tran Thi Thuy, Vo Dinh Tham, Tran Van Dat, 菊池三穂子, 安波道郎, 森田公一, 平山謙二, 古田隆久** : デング熱の病態形成におけるマスト細胞の関与, 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 113) **上地玄一郎, 山城 哲** : ファージディスプレイ方を用いたインフルエンザウイルスH5N1亜種に中和活性を示すヒト単クローン性抗体の分離. 第50回日本熱帯医学会大会 総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 114) **岡本健太, 遠藤友志朗, 井上真吾, 鍋島 武, Posadas Guillermo, 余 福勲, Filipinas F. Natividad, Phan Thi Nga, 長谷部 太, 森田公一** : LC/MS/MSを用いた蚊媒介性ウイルスの迅速的網羅的同定法. 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 115) **Lyre Anni Murao, Kouichi Morita** : RNA-dependent regulation of the interferon response by dengue virus. 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 116) **Tran Thi Ngoc Ha, Nguyen Tien Huy, Lyre Murao, Vu Thi Que Huong, Tran Thi Thuy, Miho-ko Kikuchi, Michio Yasunami, Kouichi Morita, Kenji Hirayama** : Role of circulating plasma DNA in severe dengue disease. 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 117) **山城 哲, 中込とよ子, 中込 治** : 北部ベトナムにおける小児重症下痢症に関する網羅的病因検索と混合感染の重要性に関する研究. 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 118) **仲宗根 昇, グエン ビンミン, リー ザン フォン, グエン ホアイ トゥー, 比嘉直美, 小泉由紀子, 小倉裕範, トーマ クラウディア, 鈴木敏彦, 江原雅彦** : ベトナム・ハノイ市における鶏肉からの腸内細菌の分布頻度. 第50回日本熱帯医学会大会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 119) **Kaewthamasorn M, Alexandre JSF, Nakazawa S, Torii M, Sattabongkot J, Udomsangpetch R, Kaneko O** : Diversity of Plasmodium falciparum SURFIN4. 2 in Thai field isolates. 第50回日本熱帯医学会大会, 宜野湾市, 2009年10月22日-23日.
- 120) **Zhu X, Kaewthamasorn M, Yahata K, Cao YM, Kaneko O** : Polymorphism patterns of Plasmodium vivax subtelomeric transmembrane protein 1 (PvSTP1) among China field isolates. 第50回日本熱帯医学会大会, 宜野湾市, 2009年10月22日-23日.
- 121) **Alexandre JSF, Kaewthamasorn M, Yahata K, Nakazawa S, Torii M Sattabongkot J, Udomsangpetch R, Kaneko O** : Variation in the rhoph1/clag multigene family of *Plasmodium falcipa-*

- rum* from Thai field isolates. 第50回日本熱帯医学会大会, 宜野湾市, 2009年10月22日-23日.
- 122) **Xangsayarath P, Kaewthamasorn M, Yahata K, Nakazawa S, Kaneko O** : Positive diversifying selection on *Plasmodium falciparum* SURFIN4. 1. 第50回日本熱帯医学会大会, 宜野湾市, 2009年10月22日-23日.
- 123) **Shimokawa C, Houpt E, Hamano S** : 赤痢アメーバ原虫の腸管定着阻止機構についての研究, 第50回日本熱帯医学会, 沖縄県宜野湾市, 2009年10月22日-23日.
- 124) **宮城 啓** : トラベルクリニックとトラベルワクチン. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 125) **阿部朋子, Tuong D T, Thieu Q N, Hung X L, 砂原俊彦, 中澤秀介, 門司和彦** : ベトナム南部の少数民族集落における蚊帳使用状況および蚊帳の状態. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 126) **土屋菜歩, パチバニッヒ パニタ, ロジャナウィワット アーチャウィン, サワンパンヤラート パトム, 有吉紅也** : 北タイ政府系病院HIV外来通院患者における13年間の死亡率推移と新たな課題. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 127) **土屋菜歩, ロジャナウィワット, アーチャウィン, サワンパンヤラート パトム, パチバニッヒ パニタ, 有吉紅也** : 北タイにおいて抗HIV薬治療導入が日和見感染症罹患率に与えた影響に関する研究. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 128) **Vu TTH, Yoshida L, Suzuki M, Nguyen ATH, Yamamoto T, Oishi K, Le H T, Nguyen TA, Nguyen DL C, Furumoto A, Morimoto K, Anh DD, Ariyoshi K** : The synergism between *Streptococcus pneumoniae* and respiratory viruses in nasopharynx as risk factors for childhood pneumonia in Vietnam. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 129) **鈴木 基, ムルホランド キム, 吉田レイミント, Nguyen CD, Anh DD, 有吉紅也** : 胸部X線写真で確定診断された5歳未満小児の肺炎罹患率: 中央ベトナムにおける病院ベース前向きコホート研究から. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 130) **佐藤 光, 有吉紅也, 平山謙二, 中込 治** : 熱帯医学の次世代人材育成の試みー長崎大学熱帯医学専攻(修士課程)の三年間の取組みと今後の展開. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 131) **一瀬休生, 江原雅彦, 堀尾政博, 荻野倫子, 越智定幸, 辻 孝雄, 嶋田雅暁, Mohamed Karama, Victor Okoth, Angella Makumi** : 西ケニアのコレラ流行とその起因菌の性状について. 第50回日本熱帯医学会総会, 沖縄, 2009年10月22日-23日.
- 132) **江口克之, 藤井秀文, 大島謙吾, 大谷正史, 松尾敏明, 渡邊俊樹, 山本太郎** : 東アジアにおける成人T細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)の空間的広がりとは系統分化 ~HTLV-1がいつ, どこから日本に来て, どのように広まったのか~. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 133) **大木美香, 砂原俊彦, 山本太郎** : Exce-Ent : デング出血熱患者数と気象データから媒介蚊発生源密度を逆推定する. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日.
- 134) **砂原俊彦, 砂原俊彦, 山本太郎** : マラリア媒介蚊の発生源の分布を推定する数理モデル. 第50回日

- 本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。
- 135) **Haque UHashizume M, Sunahara T, Yamamoto T** : Present situation of Malaria control in Bangladesh. 第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。
 - 136) **橋爪真弘, A S G Faruque, Terao Toru, MD Yunus, Kim Streatfield** : インド洋の大気海洋相互作用現象とバングラデシュにおけるコレラ流行の関連。第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。
 - 137) **Zhuo Z, Cai G, Shen L, Yamamoto T** : 中国におけるハイリスク集団を対象とするエイズ予防問題について。第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。
 - 138) **Alicia Mora, Junko Okumura, Hiroto Nagai, Mohiuddin Hussain Khan, Masatoshi Taga, Manabu Akazawa, Kazuko Kimura** : Survey on public health concerns of pharmaceutical presentations in Cambodia. 第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(演題番号P11-6)
 - 139) **平山謙二** : 熱帯地域における感染症のヒト宿主抵抗性の遺伝子支配関する研究。第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集，pp34. 2009)
 - 140) **Kenji Hirayama, Florencia Del Puerto Rodas, Eiki J. Nishizawa, Mihoko Kikuchi, Nomi Iihoshi, Yelin Roca, Cinthia Avilas, Alberto Gianella, Javier Lora, Freddy Udalrico Gutierrez Velarde, Luis A. Renjel, Sachio Miura, Hiroo Higo, Kenji Maemura, Norihiko Komiya.** : Genetic analysis of host and parasite factor influencing on the prognosis of Chagas disease in Bolivia. 第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集，pp51. 2009)
 - 141) **Tran Thi Ngoc Ha, Nguyen Tien Huy, Lyre Murao, Vu Thi Que Huong, Tran Thi Thuy, Mihoko Kikuchi, Michio Yasunami, Kouichi Morita, Kenji Hirayama.** : Role of circulating plasma DNA in severe dengue disease. 第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集，pp71. 2009)
 - 142) **渡辺直熙, Nguyen Thi Phuong Lan, Vu Thi Que Huong, Tran Thi Thuy, Vo Dinh Tham, Tran Van Dat, 菊池三穂子, 安波道郎, 森田公一, 平山謙二** : デング熱の病態形成におけるマスト細胞の関与。第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集，pp72. 2009)
 - 143) **橘 祐司, 柳 哲雄, hamala Lama, 小林正規, Jeevan Sherchand, 平山謙二** : ネパールのアカゲザルにおけるEntamoeba mutaliの感染状況。第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集，pp92. 2009)
 - 144) **Florencia Del Puerto Rodas, Eiki J. Nishizawa, Mihoko Kikuchi, Keiko Iihoshi, Freddy U. G. Velarde, Luis A. Renjel, Jelin Roca, Norihiro Komita. Kouji Maemura, Sachio Miura, Michio Yasunami, Kenji Hirayama** : Immunogenetic analysis of chronic Chagas disease in Bolivia. 第50回日本熱帯医学会大会，沖縄コンベンションセンター，2009年10月22日-23日。(第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集，pp93. 2009)

- 145) 菊池三穂子, Edelwisa M SegubreMercado, Lydia R Leonardo, 千種雄一, 林 直子, 亀井香里, 井上 哲, Alevako Napoleon L, 吾妻 健, 平山謙二: フィリピンにおける若年性住血吸虫性肝線維化症の発症に関わる免疫関連遺伝子の探索. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日. (第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集, pp97. 2009)
- 146) 佐藤 光, 有吉紅也, 平山謙二, 中込 治: 熱帯医学の次世代人材育成の試みー長崎大学熱帯医学専攻(修士課程)の三年間の取組と今後の展開. 第50回日本熱帯医学会大会, 沖縄コンベンションセンター, 2009年10月22日-23日. (第50回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集, pp118. 2009)
- 147) 黒木貴一, 黒田圭介, 後藤健介, 磯 望: ALOSデータによる地形区分の試み. 日本応用地質学会平成21年度研究発表会, 山形テルサ(山形市), 2009年10月22日-23日.
- 148) 越智定幸, 有満秀幸, 塚本健太郎, 大谷 郁, 佐々木慶子, 加藤道夫, 一瀬休生, 清水 徹, 辻孝雄: 毒素原性大腸菌H10407株Entプラスミドの接合伝達領域. 第46回日本細菌学会中部支部総会, 名古屋, 2009年10月23日-24日.
- 149) 黒木貴一, 磯 望, 後藤健介: デジタルカメラによる雲仙の火砕流堆積地の侵食量評価. 日本地理学会2009年秋季学術大会, 琉球大学(沖縄県中頭郡), 2009年10月24日-10月27日.
- 150) 吾郷昌信, 平野 学, 山口顕徳, 吉川亮, Umani Qifqiyar Nur, 西村順裕, 清水博之: 上気道炎患者由来検体からの高感度エンテロウイルス検出同定法. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 151) 森田公一: ニパウイルスの生態学. 第57回日本ウイルス学会学術集会(大谷明先生記念セッション病原ウイルスの生態学), 都市センターホテル, 2009年10月25日10-27日.
- 152) 余 福勲, 木下一美, 井上真吾, 長谷部 太, 森田公一: Sero-diagnosis of SARS infection using recombinant N protein expressed by baculovirus expression system. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 153) 左 一八, 加藤大介, 森田公一, 鈴木 隆: 硫酸化糖鎖を介したデングウイルス-宿主細胞間相互作用, 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 154) 北浦一孝, 藤井克樹, 早坂大輔, 高島郁夫, 高崎智彦, 鈴木隆二, 倉根一郎: ダニ媒介性脳炎ウイルス感染マウスにおける脳炎発症に関わる脳内湿潤T細胞の解析. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 155) 早坂大輔, 永田典代, 長谷川秀樹, 佐多徹太郎, 高島郁夫, 小池 智: ダニ媒介性脳炎ウイルス(TBEV)を脳内接種した際にみられる早い時期の致死性. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 156) 吉川 亮, 井上真吾, 吾郷昌信, 森田公一: 長崎県におけるイノシシの日本脳炎ウイルス感染状況. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 157) 長谷部 太, Guillermo Posadas, Thuy Nguyen Thi Thu, Thach Nguyen Co, Phuong Ngo Khanh, 鍋島 武, 井上真吾, Dat Dang Tuan, Nga Phan Thi, Mai Le Thi Quynh, 森田公一: アルボウイルス感染症におけるコウモリの役割. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 158) 久保 亨, 井上真吾, 森田公一: ケニア共和国における黄熱ウイルスならびにその他の蚊媒介性熱

- 帯ウイルス感染症の網羅的血清学的解析. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 159) **Yoshida L, 吉野 弘, 鈴木 基, Hien Anh Nguyen, Thiem Vu Dinh, 野内英樹, Paul Kilgore, 森内浩幸, Duc Anh Dang, 有吉紅也**: Viral Pathogens Associated with of Acute Respiratory Infection in Vietnamese Children. 第57回日本ウイルス学会学術集会, 都市センターホテル, 2009年10月25日-27日.
- 160) **神山陽香, 吉居廣朗, 田中勇悦, 佐藤裕徳, 山本直樹, 久保嘉直**: HIV-1感染における標的細胞中のエズリン・リン酸化の重要性. 日本ウイルス学会, 東京, 2009年10月25日-27日.
- 161) **久保嘉直, 吉居廣朗, 神山陽香, 田中勇悦, 佐藤裕徳, 山本直樹**: カテプシンB抑制因子によるCD4非依存性HIV-1感染の促進. 日本ウイルス学会, 東京, 2009年10月25日-27日.
- 162) **峰松和夫**: “自助”能力を育む時期はいつが最も適しているか, そしてその教育法は? ~身体組成研究から提案する保健体育科教育法~横浜開港150周年記念 市民安全安心フェスタ・日本市民安全学会 第6回横浜大会, 開港150周年記念討論会, 横浜市開港記念会館(横浜市), 2009年11月1日.
- 163) **後藤健介**: 「予知安全」国内インフルエンザの過去10年間における感染分布特性と対策, 横浜開港150周年記念 市民安全安心フェスタ・日本市民安全学会 第6回横浜大会 開港150周年記念討論会, 横浜市開港記念会館(横浜市), 2009年11月1日.
- 164) **比嘉由紀子, Nguyen Thi Yen, Tran Hai Son, Hoang Minh Duc, 高木正洋**: ベトナムにおける都市化の程度とデング熱媒介蚊, ネットアイシマカとヒトスジジマカ, の分布の違いについて. 第59回日本衛生動物学会南日本支部大会, 福岡大学(福岡市), 2009年11月7日-8日.
- 165) **Ramona Florencia, Del Puerto Rodas, Eiki J. Nishizawa, 菊池三穂子, Keiko Iihoshi, Freddy Velarde, Luis Renjel, Jelin Roca, 小宮憲洋, 前村浩二, 三浦左千夫, 肥後広雄, 平山謙二**: Lineage analysis of the circulating Trypanosoma cruzi from different clinical forms of chronic Chagas Disease in Bolivia. 第62回日本寄生虫学会南日本支部大会, 福岡大学(福岡市) 2009年11月7日-8日.
- 166) **磯 望, 黒田圭介, 宗 建郎, 西木真織, 下山正一, 黒木貴一, 後藤健介**: 地図情報を利用した簡便な標高データ解析の事例ー博多湾および太宰府水城跡の地形解析ーCSIS DAYS 2009 全国共同利用研究発表大会, 東京大学(千葉県柏市), 2009年11月12日-13日.
- 167) **Mitsui Y, Miura M, Aoki Y, Hamano S**: マンソン住血吸虫(*Schistosoma mansoni*)の成虫の生存期間及び虫卵の生産に与えるアルテスネイトのインビトロでの効果. 第3回蠕虫研究会, 宮崎市, 2009年11月13日-14日.
- 168) **菊池三穂子, T C Yahathugoda, NV Weerasooriya, 高木明子, 木村栄作, 伊藤 誠, 平山謙二**: フィラリア感染による象皮病発症に関わる要因についての考察. 第3回蠕虫研究会, 青島サンクマール, 宮崎, 2009年11月13日-14日. (第3回蠕虫研究会 プログラム・講演要旨)
- 169) **Minakawa N, Sonye G, Dida G, Futami K**: Breeding habitats for malaria vectors associated with alake. American Society of Tropical Medicine and Hygiene, 58th Annual Meeting Washington DC, U.S.A. 2009年11月17日-24日.
- 170) **Dida G, Sonye G, Futami K, Minakawa N**: Bed net coverage and usage in fishing villages of Suba district, Western Kenya. American Society of Tropical Medicine and Hygiene, 58th Annual Meeting, Washing-

ton DD, U.S.A. 2009年11月17日-24日.

- 171) 松木 啓, 有吉紅也, 森本浩之輔, 古本朗嗣, 石田正之, 柳原克紀: 肺癌の空洞性病変に合併した *Capnocytophaga* 属による肺化膿症の1例. 第79回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 福岡, 2009年11月19日-20日.
- 172) 山領 豪, 延末謙一, 川上健司, 木村由美子, 森本浩之輔, 有吉紅也: *Actinomadura* 属及び *Nocardia* 属の2菌種が検出された肺放線菌症の1例. 第79回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 福岡, 2009年11月19日-20日.
- 173) 吉嶺裕之, 五十棲理恵, 齊藤信夫, 原田義高, 諸角美由紀, 生方公子, 有吉紅也: リアルタイムPCR法による成人市中肺炎の迅速診断. 第79回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 福岡, 2009年11月19日-20日.
- 174) 釜谷寛之, 高橋健介, 宮城 啓, 石田正之, 古本朗嗣, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: 脾臓摘出後に *Streptococcus agalactiae* による細菌性髄膜炎を発症した1例. 第79回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 福岡, 2009年11月19日-20日.
- 175) 古本朗嗣, 松木 啓, 石田正之, 宮城 啓, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: 長崎市における土曜夜間HIV即日検査について. 第79回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 福岡, 2009年11月19日-20日.
- 176) 加藤隼悟, 古本朗嗣, 島川祐輔, 森本浩之輔, 柳原克紀, 有吉紅也: 熱傷患者に生じたMRSAによるTSS(トキシックショックシンドローム)の1例. 第79回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 福岡, 2009年11月19日-20日.
- 177) Kenji Hirayama: Promoting Good Practices in Product Research and Development. An International Conference on Developing Leadership in Ethical Health Research towards Good Practices and Intergrated Systems. FERCAP General Assembly, the Imperial Mae Ping Hotel, Thailand, 2009年11月22日-25日.
- 178) 土橋佳子, 島崎貴治, 出川 聡, 石田正之, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 有吉紅也: 関節リウマチ, シューグレン症候群に合併したLIPの一例. 第63回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部 秋季学術講演会, 北九州市, 2009年11月26日-27日.
- 179) 石田正之, 泉田真生, 宮原麗子, 加藤隼悟, 高橋健介, 松木 啓, 田中健之, 古本朗嗣, 宮城 啓, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: 当科における気管支内腔超音波断層法(EBUS-GS)の実際と有用性の検討. 第63回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部 秋季学術講演会, 北九州, 2009年11月26日-27日.
- 180) 泉田真生, 伊藤博之, 石田正之, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 有吉紅也: 極細径気管支鏡(XP260F)を用いて肺化膿症の空洞病変内を観察した一例. 第63回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部 秋季学術講演会, 北九州, 2009年11月26日-27日.
- 181) 吉嶺裕之, 原田義高: 睡眠時無呼吸症候群を合併した急性大動脈解離の一例. 第63回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部 秋季学術講演会, 北九州, 2009年11月26日-27日.
- 182) 伊藤博之, 泉田真生, 田中健之, 寺田真由美, 田代尚樹, 石田正之, 古本朗嗣, 土橋佳子, 森本浩之輔, 有吉紅也: EBUS-TBNAによって診断し得た前立腺癌縦隔リンパ節転移の一例. 第63回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部 秋季学術講演会, 北九州, 2009年11月26日-27日.

- 183) 高松由基, 石田正之, 高橋健介, 吉嶺裕之, 森本浩之輔, 有吉紅也: PET/CT所見とEBUS-TBNAで診断に相違を認めた縦隔リンパ節腫脹を伴う肺悪性腫瘍の一例. 第63回日本呼吸器学会・日本結核病学会 九州支部 秋季学術講演会, 北九州, 2009年11月26日-27日.
- 184) 土屋菜歩, Pathipvanich P, Rojanawiwat A, Sawanpanyalert P, 有吉紅也: 北タイ政府系病院HIV外来における13年間の診療経験-死亡率の推移と新たな問題-. 第23回日本エイズ学会学術集会・総会, 名古屋市, 2009年11月26日-28日.
- 185) 大庭伸也, 大塚雅和, 高木正洋: 異なるサイズの水域で繁殖する蚊2種に与える捕食者の効果, 日本動物行動学会第28回大会つくば市, 筑波大学, 2009年11月27日-11月29日.
- 186) Tsunoda T: Effect of controlled release plastic formulations of permethrin (Olyset net) and insect growth regulator, pyriproxyfen, on *Aedes aegypti* in southern Vietnam, The 4th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases-JSPS Program-Nagasaki, 2009年11月27日.
- 187) 門司和彦, 金子 聡, Sengchanh Kounnavong, 金田英子: Health and Demographic Surveillance System (HDSS)の紹介, 日本人口学会2009年度関西地域部会, 関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパス, 2009年11月28日.
- 188) 荒木理沙, 木村和子, 奥村順子, 赤沢 学: 医薬品個人輸入に関する消費者の意識調査, 日本社会薬学会第28年会, 北里大学, 東京, 2009年11月28日-29日. (演題番号P-66)
- 189) 清水佳一郎, 奥村順子, 赤沢 学, 木村和子: カンボジア王国の民間薬局における品質管理とその要因の検討. 日本社会薬学会第28年会, 北里大学, 東京, 2009年11月28日-29日. (演題番号P-75)
- 190) Michio Yasunami, Nguyen TP. Lan, Hitomi Horie, Sawa Kurata, Hiroki Shibata, Vu TQ. Huong, Tran T. Thuy, Ha M. Tuan, Vo V. Tuong, Tran V. Dat, Mihoko Kikuchi, Kouichi Morita, Kenji Hirayama: デング熱重症化の宿主要因としてのLAG3遺伝子多型の解析 (LAG3 gene polymorphism in severe dengue virus infection in Vietnamese.). 第39回日本免疫学会総会, 大阪国際会議場, 大阪, 2009年12月2日-4日. (2009日本免疫学会総会・学術集会記録 第39巻, pp171.)
- 191) Futami K, Lutiali P, Opiyo G, Shombua M, Dida G, Kaneko S, Shimada M & Minakawa N: Geographical distribution of the *Anopheles gambiae* complex in Kenya. JSPSAA Science Platform Protram on Tropical Disease in East Africa, "Neglected Infectious Disease (NTDs) Today" Nairobi, Kenya, 2009年12月3日-5日.
- 192) 一ノ瀬昭豊, 和田昭裕, モハメド アリムル イスラム, 滝沢直己, 一ノ瀬 亨, 小林信之, 森田公一: 酢酸ウラニルに代わる細菌・ウイルスのネガティブ染色法の開発. 第51回 日本顕微鏡学会九州支部総会・学術講演会シンポジウム, 北九州市, 2009年12月5日.
- 193) Yasunami M, Nguyen TPL, Horie H, Kurata S, Yamazaki A, Shibata H, Vu TQH, Tran TT, Ha MT, Vo VT, Tran VD, Kikuchi M, Morita K, Hirayama K: Susceptibility To Severe Dengue Virus Infection Conferred By Lymphocyte Activation Gene 3 (LAG3) Polymorphism. Emerging Infectious Diseases 2009 (EID 2009), Duke-NUS Graduate School & Ministry of Health, Singapore. 8-11 December, 2009. (Abstract: Emerging Infectious Diseases 2009 (EID 2009, Singapore, pp182.)
- 194) 有吉紅也: 長崎とベトナムの小児肺炎研究. 第179回日本小児科学会長崎地方会, 長崎, 2009年12月13日.

10. 3 国際会議における研究発表

- 1) **Hamano S** : Genetic control of resistance to intestinal amoebiasis in inbred mice. 7th US-Japan Cooperative Medical Science Program, Jan 6-8, 2009, Tokyo, Japan
- 2) **Watanabe K** : Analysis of protective immunity by gamma-irradiated cercaria immunization with *Schistosoma japonicum* infection in miniature pigs. 7th US-Japan Cooperative Medical Science Program, Jan 6-8, 2009, Tokyo, Japan
- 3) **Zhu Xiaotong, Kaewthamasorn M, Yahata K, Cao YM, Kaneko** : OPlasmodium vivax subtelomeric transmembrane protein 1 (PvSTP1), a homolog of P. falciparum SURFIN, is highly polymorphic. 43rd Annual U.S.-Japan Joint Conference on Parasitic Diseases, Jan 7-8, 2009, Tokyo, Japan
- 4) **Otsuki H, Kaneko O, Thongkukiatkul A, Tachibana M, Iriko H, Takeo S, Tsuboi T, Torii M** : Erythrocyte-Binding-Like molecule and Virulence of Plasmodium yoelii. 43rd Annual U.S.-Japan Joint Conference on Parasitic Diseases, Jan 7-8, 2009, Tokyo, Japan
- 5) **Sawabe K, Higa Y, Tsuda Y, Nihei N & Kobayashi M** : Current distribution and molecular identification of anopheline mosquitoes in Japan. The 43th U.S.-Japan Joint Conference on Parasitic Diseases, U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program, Jan 7-8, 2009, Tokyo, Japan
- 6) **Mihoko Kikuchi, Mihoko Kikuchi, Kanji Watanabe, Ekhlal Hamed Abdel-Hafeez, Daniel Boamah, Honggen Chen, Yu Chuangxin, Kenji Hirayama** : Analysis of protective immunity induced by gamma-irradiated cercaria immunization with Schistosoma japonicum infection in miniature pigs. The 43rd Annual U.S.-Japan Joint Conference on Parasitic Diseases, Jan 7-8, 2009, International Medical Center of Japan, Tokyo, Japan, (The 43rd Annual U.S.-Japan Joint Conference on Parasitic Diseases, U.S.-Japan Parasitic Diseases Panel Meeting, U.S.-Japan Cooperative Medical Science Program, pp24, 2009)
- 7) **Kenji Hirayama** : Presentation of Diploma Course on Research & Development of Products to Meet Public Health Needs sponsored by Nagasaki University and Thammasat University. Meeting on the Harmonization of Short Training Course on GCP-GCLP/Basic Research/Bioethics, Feb 9-11, 2009, WHO-TDR Clinical Coordination and Training Center, Thammasat University
- 8) **山本太郎** : アフリカ科学技術調査ミッションの派遣. アフリカ科学技術調査ミッション, Feb 21-Mar 8, 2009, アフリカ 4 ヶ国 (南アフリカ, ケニア, エジプト, ガーナ)
- 9) **山本太郎** : TDRのステイクホルダー会議 WHO/TDRのステイクホルダー会議 Mar 16-18, 2009, ベルリン
- 10) **Long-Kwan Ho, Yosuke Matuo, Mohammed Nasir Shuaibu, Takashi Tanaka, Isao Kouno** : Phytochemical study of African plants having trypanocidal activity. Asian Symposium on Pharmaceutical Sciences in Nagasaki, Japan, Mar 17-18, 2009, Nagasaki, Japan
- 11) **Kenji Hirayama, Nguyen Thi Phuong Lan, Naoko Okuda, Hitomi Horie, Sawa Kurata, Vu T.Q. Huong, Vu T.T. Ngu, Hoang N. Dao, Do Q. Ha, Tran T. Thuy, Ha M. Tuan, Vo V. Tuong, Tran V. Dat, Mihoko Kikuchi, Kouichi Morita and Michio Yasunami** : Immune-Related Host Genetic Polymorphism Predisposing To Severe Dengue Infection. Genetics and Genomics of Infectious Disease, Mar

- 21-24, 2009, The Ritz Carlton Millenia Hotel, Singapore, (Program and Abstract, pp13.)
- 12) **Michio Yasunami, Nguyen Thi Phuong Lan, Hiroki Shibata, Hitomi Horie, Vu T.Q. Huong, Vu T.T. Ngu, Hoang N. Dao, Do Q. Ha, Tran T. Thuy, Ha M. Tuan, Kouichi Morita and Kenji Hirayama :** Transcription Profile of Severe Forms of Acute Dengue Virus Infection. Genetics and Genomics of Infectious Disease 2009, Mar 21-24, 2009, The Ritz Carlton Millenia Hotel, Singapore (Program and Abstract, p42)
 - 13) **Sriwanthana B, Mori M, Wichukchinda N, Tanaka M, Pathipvanich P, Sawanpanyalert P, Ariyoshi K :** Overlapping CRF01_AE Gag peptides identified several novel CTL epitopes in long-term slow-progressors in northern Thailand. Keystone Symposia, Mar 22-27, 2009, Colorado, USA
 - 14) **Ichinose Y, Karama M, Sora G, Makumi A, Bundi M, Maranga R, Limo H, Mathew A., Okoth V, Galata A, Gachigu S, Mwende G, Kaneko S, David S, Wamae N, Shimada M :** Phenotypic and molecular typing of *Vibrio cholerae* 01 isolated in Western Kenya" 3rd East African Health & Scientific Conference, Mar 25-27, 2009, Nairobi, Kenya
 - 15) **Long-Kwan Ho, Yosuke Matuo, Mohammed Nasir Shuaibu, Takashi Tanaka, Isao Kouno :** Phytochemical study of African plants having trypanocidal activity. The 129th Annual Meeting of The Pharmaceutical Society of Japan in Kyoto, Japan, Mar 26-28, 2009, Kyoto, Japan
 - 16) **ulleton RNdounga M, Zeyrek FY, Yadava A, Tsuboi T, Carter R, Tanabe K :** Evidence for the transmission of *Plasmodium vivax* in the Republic of Congo, West Africa. BSP Spring & Malaria meeting, Apr 5-8, 2009, Edinburgh, UK
 - 17) **Nguyen Thi Phuong Lan, Mihoko Kikuchi, VU Thi Que Huong, VU Thien Thu Ngu, Hoang Nhu Dao, Do Quang Ha, Tran Thi Thuy, Vo Dinh Tham, Vo Van Tuong, Cao Thi Phi Nga, Tran Van Dat, Toshifumi Oyama, Kouichi Morita, Michio Yasunami, Kenji Hirayama. :** "Protective & Enhancing HLA-alleles for severe forms of dengue virus infection. Curriculum for WHO/TDR course on Immunology and Vaccinology applied to dengue infection. May 4-8, 2009, WHO-TDR clinical coordination and training centre, Thammasat University, Pathumthani, Thailand.
 - 18) **Kenji Hirayama :** The innate response critical for dengue infection. WHO/TDR Course on Immunology and Vaccinology Applied to Dengue infection. May 4-8, 2009, WHO/TDR Clinical Coordination and Training Center, Academic Affairs Building, Thammasat University (Rangsit Campus), Thailand
 - 19) **Morimoto K, Yoshida L, Suzuki M, Anh NTH, Anh DD, Kilgore PE, Yanai H, Ariyoshi K :** Viral etiological agents and clinical features of childhood acute respiratory infection in Vietnam. American Thoracic Society International Conference. May 15-20, 2009, San Diego, USA
 - 20) **Tanaka T, Terada M, Morimoto K, Ariyoshi K :** MCP-1/CCL2 (Monocyte Chemoattractant Protein-1/CC Chemokine Ligand-2) enhance apoptotic cells removal (efferocytosis) through activation of Rac1. American Thoracic Society International Conference. May 15-20, 2009, San Diego, USA
 - 21) **Toshiya Hirayama, Masaaki Nakayama, Hajime Isomoto, Shigeru Kohno, Eiki Yamasaki, Hisao Kurazono, and Joel Moss :** *Helicobacter pylori* VacA-induced inhibition of GSK3 through the PI3K/Akt signaling pathway. 109th General Meeting of American Society for Microbiology, May 17-21, 2009, Philadelphia, USA

- 22) **Zhu XT, Sungkapong T, Kaewthamasorn M, Culleton R, Tachibana M, Tsuboi T, Torii M, Yahata K, Cao YM, Chotivanch K, Kaneko O** : Plasmodium vivax subtelomeric transmembrane protein 1 (PvSTP1), a homolog of P. falciparum SURFIN; polymorphism and human sera reactivity. Vivax Malaria Research III: 2009 and Beyond, May 24–28, 2009, Panama
- 23) **Kenji Hirayama** : Global Research Center for Human and Earth Health? Academie des Sciences-JSPS Workshop "Environment and Health Challenges" May 28–29, 2009, La Fondation del Duca, France
- 24) **Akihiro Wada, Makoto Hasegawa, Hironobu Hojo, Masachika Senba, Pooi-Fong Wong** : Direct binding of gangliosides to Helicobacter pylori vacuolating cytotoxin (VacA) neutralizes its toxin activity. 3rd Congress of European Microbiologists, Jun 28–July 2, 2009, Gothenburg, Sweden
- 25) **Kenji Hirayama** : Ethical considerations in the community based study. 8th Nagasaki International Course on Research Ethics, Jun 28–July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
- 26) **Kenji Hirayama** : Objective of the Training Workshop. SIDCER-FERCAP Strategic Quality Management (SQM) Training Workshop. Aug 3–7, 2009, WHO-TDR, Clinical Coordination and Training Center (CCTC) Thammasat University (TU) - Rangsit Campus, Pathum Thani, Thailand
- 27) **Rojanawiwat A, Tsuchiya N, Pathipvanich P, Auwanit W, Sawanpanyalert P, Ariyoshi K** : Opportunistic infections before and after the national antiretroviral program in Thailand. The 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Aug 9–13, 2009, Bali, Indonesia
- 28) **Pathipvanich P, Tsuchiya N, Rojanawiwat A, Auwanit W, Sawanpanyalert P, Ariyoshi K** : Over 10 years of experience of treating HIV/AIDS patients at a government hospital in Thailand. The 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), Aug 9–13, 2009, Bali, Indonesia
- 29) **Kenji Hirayama: Conference** : Genetic susceptibility to Dengue Hemorrhagic Fever in Vietnam. 11th International Dengue Course, Aug 10–21, 2009, Pedro Kouri Tropical Medicine Institute (IPK), Havana, Cuba
- 30) **橋爪真弘** : Climatic components of seasonal variation in cholera incidence. International Society for Environmental Epidemiology, Aug 25–29, 2009, University College Dublin, Ireland
- 31) **Abe T, Dinh TT, Quang TN, Xuan HL, Sunahara T, Nakazawa S, Moji K** : Malaria treatment seeking behaviour of mothers with under 5 years old children in Binh Phouc, Vietnam. 6th European Congress on Tropical Medicine and International Health. Sep 6–10, 2009, Verona, Italy
- 32) **Nguyen Thi Phuong Lan, Michio Yasunami, Hitomi Horie, Mihoko Kikuchi, Vu Thi Que Huong, Do Quang Ha, Tran Thi Thuy, Ha Manh Tuan, Vu Thien Thu Ngu, Hoang Nhu Dao, Vo Dinh Tham, Vo Van Tuong, Cao Thi Phi Nga, Tran Van Dat, Kouichi Morita and Kenji Hirayama** : Polymorphism and linkage disequilibrium in CD4 gene in severe dengue infection. The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Sep 8–11, 2009, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan (The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity, pp119)
- 33) **Gideon Kofi Helegbe, Tetsuo Yanagi, Masachika Senba, Nguyen Tien Huy, Mohammed Nasir Shuaibu, Akiko Yamazaki, Mihoko Kikuchi, Michio Yasunami, and Kenji Hirayama** :

- Histopathologic studies in different strains of semi immune mice infected with *Plasmodium berghei* ANKA after chronic exposure. The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Sep 8–11, 2009, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, (The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity, pp119
- 34) **Tsumori Y, Ndounga M, Tanabe K, Kaneko O, Culleton R** : Urbanisation and Malaria Epidemiology in West Africa. The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Sep 8–11, 2009, Awaji-shi, Japan
 - 35) **Palacpac N, Marie Q, Arisue N, Culleton R, Tanabe K, Zeyrek FY, Coban C, Sattabongkot J, Tsuboi T, Torii M, Udomsangpetch R, Horii T** : Diversity in geographically distinct *Plasmodium vivax* populations. The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Sep 8–11, 2009, Awaji-shi, Japan
 - 36) **Toshiya Hirayama, Masaaki Nakayama, Hajime Isomoto, Masanori Hatakeyama, Takeshi Azuma, Yoshio Yamaoka, and Joel Moss** : *Helicobacter pylori* VacA induces GSK3 inhibition through the PI3K/Akt signaling pathway XXII International Workshop on Helicobacter and related bacteria in chronic digestive inflammation and gastric cancer, Sep 17–19, 2009, Porto, Portugal
 - 37) **Xangsayarath P, Kaewthamasorn M, Yahata K, Nakazawa S, Kaneko O** : Positive diversifying selection on *Plasmodium falciparum* SURFIN4. 1. The 3rd National Health Research Forum to Support the health research systems strengthening in Lao PDR, Oct 2–3, 2009, Champasak, Lao PDR
 - 38) **Futami K, Lutiali P, Opiyo G, Dida G, Shombua M & Minakawa N** : Change of relative abundance of the *Anopheles gambiae* complex in Suba District of western Kenya. 5th International Sove Congress Belek-Antalya-Turkey, Oct 11–16, 2009, Turkey
 - 39) **Sheru Waanyua, Mohamed Karama, Ibrahim Kiche, James K'Opiyo, Yoshio Ichinose, and Satoshi Kaneko** : Water Sources, Treatment and Storage at the Household Level in Suba District. The Biennial Association of Public Health Officers of Kenya Conference, Oct 12, 2009, The Tom Mboya College, Kisumu, Kenya
 - 40) **Nguyen Doug Tu, Ngo Tuan Cuong, Tran Huy Hoang, Vu Dinh Thiem, Nguyen Binh Minh, Nguyen Tran Hien, Minh and Masahiko Ehara** : Characteruzation of *Vibrio cholerae* 01 strains isolated in noethern Vietnam in 2007–2009. Cholera and other bacterial enteric infections, 44th Annual Joint Panel Meeting, United States-Japan Cooperative Medical Science Program, Oct 12–14, 2009, San Diego, USA
 - 41) **Nguyen Binh Minh, Nguyen Dong Tu, Ngo Tuan Cuong, Tran Huy Hoang, Le Thanh Huong, Nguyen Hoai Thu, Mamoru Iwami, Nguyen Binh Minh, and Masahiko Ehara** : Molecular Epidemiological Study on Cholera in Northern Viernam in 2006–2009. Cholera and other bacterial enteric infections, 44th Annual Joint Panel Meeting, United States-Japan Cooperative Medical Science Program, Oct 12–14, 2009, San Diego, USA
 - 42) **Sheru Waanyua, Mohamed Karama, Ibrahim Kiche, James K'Opiyo, Yoshio Ichinose, and Satoshi Kaneko** : Water sources, treatment and storage at the household level in Suba district. 16th Biennial Conference at Tom Mboya Labour College Kisumu The Association of public health officers (Kenya), Oct 13–15,

2009, Kisumu, Kenya

- 43) **Daniel Boamah, Irene Ayi, Kenji Hirayama, Kwabena Yankson and Kwabena Mante Bosompem :** Generation and Characterization of Species-specific Mouse Monoclonal Antibodies against *Schistosoma mansoni* urinary protein Sm-UP2IP in Human. 30th Africa Health Sciences Congress, Oct 14-17, 2009, Ghana University, Accra, Ghana (SSII-11)
- 44) **M. Yasunami, TPL. Nguyen, N. Okuda, H. Horie, S. Kurata, TQH. Vu, TTN. Vu, TT. Tran, MT. Ha, VT. Vo, VD. Tran, M. Kikuchi, K. Morita, K. Hirayama. :** Mapping of genetic risk for severe dengue virus infection to the NFkB1-MANBA region on chromosome 4 (4q21). American Society of Human Genetics 59th Annual Meeting, Oct 20-24, 2009, Honolulu, USA (page 267)
- 45) **Kaneko O :** Erythrocyte ligand and malaria virulence. The Third International Symposium of Parasitology, Oct 23-26, 2009, Xi'an, China
- 46) **S Kaneko :** Mibta Health and Demographic Surveillance System, Kenya. 9th INDEPTH-Network Annual General and Scientific Meeting, Oct 26-29, 2009, Pune, India
- 47) **Tsunoda T, Kawada H, Huynh T T T, Luu L.L, Tran NH. Le HS, Vu TQH, Nguyen TY, Hasebe F, Tsuzuki A & Takagi M :** Effect of controlled release plastic formulations of permethrin (Olyset Net) and insect growth regulator, pyriproxyfen, on *Aedes aegypti* in southern Vietnam. Annual Science Conference, Nov 11, 2009, Hochiminh, Vietnam
- 48) **Tsuzuki A, Huynh T, Tsunoda T, Luu L, Kawada H & Takagi M :** Effect of existing practices on reducing *Aedes aegypti* pre-adults in key breeding containers in Hochiminh City, Vietnam. Annual Science Conference, Nov 11, 2009, Hochiminh, Vietnam
- 49) **Pandey K, Mallik AK, Pandey BD, Kaneko O, Yanagi T, Hirayama K :** Diagnosis of visceral leishmaniasis by polymerase chain reaction of DNA extracted from giemsa stained slides collected from Nepal. American Society of Tropical Medicine and Hygiene 58th Annual Meeting, Nov 18-22, 2009, Washington, DC, USA
- 50) **ao J, Kaneko O, Thongkukiatkul A, Tachibana M, Otsuki H, Sattabongkot J, Gao Q, Tsuboi T, Torii M :** *Plasmodium vivax* rhoptry neck protein (PVRON2) expressed at both erythrocytic and pre-erythrocytic invasive parasites. American Society of Tropical Medicine and Hygiene 58th Annual Meeting, Nov 18-22, 2009, Washington, DC, USA
- 51) **Vu T H, Yoshida L, Suzuki M, Anh TN, Kilgore P, Anh DD, Ariyoshi K :** The role of nasopharyngeal load of *Streptococcus pneumoniae* and its interaction as risk factors for childhood pneumonia in Vietnam. 58th American Society of Tropical Medicine and Hygiene. Nov 18-22, 2009, Washington DC, USA
- 52) **Gideon K. Helegbe, Tetsuo Yanagi, Masachika Senba, Nguyen T. Huy, Mohammed N. Shuaibu, Akiko Yamazaki, Mihoko Kikuchi, Michio Yasunami, Kenji Hirayama :** Histopathologic studies in different strains of semi immune mice infected with PbANKA after chronic exposure. American Society of Tropical Medicine and Hygiene, The 58th Annual Meeting, Nov 18-22, 2009, Marriott Wardman Park Washington, DC, USA (The American Journal Tropical Medicine and Hygiene; 81(5), 241, 2009)
- 53) **Kishor Pandey, Arun Kumar Mallik, Basu Dev Pandey, Osamu Kaneko, Tetsuo Yanagi and Kenji**

- Hirayama** : Diagnosis of visceral leishmaniasis by polymerase chain reaction of DNA extracted from giemsa stained slides from Nepal. American Society of Tropical Medicine and Hygiene, The 58th Annual Meeting, Nov 18-22, 2009, Marriott Wardman Park Washington, DC, USA (The American Journal Tropical Medicine and Hygiene; 81(5), 36, 2009)
- 54) **Kenji Hirayama** : Promoting Good Practices in Product Research and Development. An International Conference on Developing Leadership in Ethical Health Research towards Good Practices and Integrated Systems. FERCAP Conference, Nov 22-26, 2009, Imperial Maeping Hotel, Chiangmai, Thailand
- 55) **Kenji Hirayama** : Promoting Good Practices in Product Research and Development. An International Conference on Developing Leadership in Ethical Health Research towards Good Practices and Integrated Systems. FERCAP General Assembly, Nov 22-25, 2009, The Imperial Mae Ping Hotel, Thailand
- 56) **Masahiko Ehara, Nguyen Dong Tu, Ngo Tuan Cuong, Tran Huy Hoang, Le Thanh Huong, Nguyen Hoai Thu, Mamoru Iwami and Nguyen Binh Minh** : Molecular Epidemiological Study on Cholera in Northern Vietnam in 2006-2009, JSPS国際セミナー, Nov 26-27, 2009, 長崎
- 57) **Ngo Tuan Cuong, Nguyen Dong Tu, Tran Huy Hoang, Le Thanh Huong, Nguyen Hoai Thu, Mamoru Iwami, Nguyen Binh Minh, and Masahiko Ehara** : Characterization of *Vibrio Cholerae* 01 strains isolated in northern Vietnam in 2007-2009. JSPS国際セミナー, Nov 26-27, 2009, 長崎
- 58) **Kaneko O** : Plasmodium SURFIN : evolution, polymorphism, and human sera reactivity. The 4th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases Nov 26-28, 2009, 長崎市
- 59) **Nakazawa S** : A gametocyte pool, a site and size - Goals and outcomes in the JSPS. The 4th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases, Nov 26-28, 2009, 長崎市
- 60) **Takagi M** : Our collaborative research on disease vector mosquitoes in Vietnam. The 4th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases-JSPS Program Nov 27, 2009, Nagasaki, Japan
- 61) **Kazuo M, Jc Nmor, K Goto, T Mizota** : Prediction of overweight using bioelectrical impedance analysis among people living in rural and isolated area in the Asia-Pacific region. Joint International Tropical Medicine Meeting 2009 (JITMM2009), Dec 2-4, 2009, Centara Grand and Bangkok Convention Centre at Central World, Bangkok, Thailand
- 62) **Nmor Jephtha Christopher, K Goto, K Minematsu, T Mizota, JO Onojafe, BA Omu** : Anthropogenic indices of soil-transmitted helminthiasis among children in Delta State, Southern Nigeria. Joint International Tropical Medicine Meeting 2009 (JITMM2009), Dec 2-4, 2009, Centara Grand and Bangkok Convention Centre at Central World, Bangkok, Thailand
- 63) **Kensuke G. Ryouma Kurahashi, Kazuo Minematsu, Jephtha Christopher NMOR, Keinosuke Gotoh, Tsutomu Mizota** : Analysis of the relationship between yellow sand and bronchial asthma by using satellite data. Joint International Tropical Medicine Meeting 2009 (JITMM2009), Dec 2-4, 2009, Centara Grand and Bangkok Convention Centre at Central World, Bangkok, Thailand

10. 4 報告書等印刷物

- 1) 濱野真二郎：赤痢アメーバ症の感染防御機構の解明，厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「顧みられない病気に関する研究」分担研究報告：31-35，2009.
- 2) 平山謙二：寄生虫疾患の病態解明及びその予防・治療をめざした研究．厚生労働科学研究補助金社会保障国際協力推進研究事業(国際医学協力研究事業)．(H20-医国-指定-004) 平成20年度 総括・分担研究報告書．研究代表者 平山謙二，pp. 1-632，長崎大学熱帯医学研究所，2008．平成21(2009)年3月発刊 昭和堂印刷
- 3) 平山謙二：寄生虫疾患の宿主因子の検討に関する研究—寄生虫疾患の病態解明及びその予防・治療をめざした研究．厚生労働科学研究補助金社会保障国際協力推進研究事業(国際医学協力研究事業)．(H20-医国-指定-004) 平成20年度 総括・分担研究報告書．研究代表者 平山謙二，pp. 8-10，長崎大学熱帯医学研究所，2008．平成21(2009)年3月発刊 昭和堂印刷
- 4) 平山謙二：ミニブタ感染モデルを用いた住血吸虫ワクチンの関連研究．厚生労働科学研究費補助金，振興・再興感染症研究事業，動物由来感染症のコントロール法の確立に関する研究 平成20年度研究成果報告書，主任研究者 吉川泰弘，pp. 219-221，東京大学大学院農学生命科学研究科，2009．平成21年3月発刊
- 5) 太田伸生，金澤 保，Yu Chuanzin, Lu Shaohong, 奈良武司，関 丈典，池田正行，ソウ ウットモン，菊池三穂子，平山謙二：中国の住血吸虫症の予防および慢性合併症対策に関する共同研究．平成20年度（2008）共同研究報告書，長崎大学熱帯医学研究所（全国共同利用研究所），pp26-29，長崎大学熱帯医学研究所，2009年9月発行
- 6) 平山謙二：医学研究のための倫理に関する国際セミナー．平成20年度（2008）共同研究報告書，長崎大学熱帯医学研究所（全国共同利用研究所），pp63-71，長崎大学熱帯医学研究所，2009年9月発行
- 7) 平山謙二：長崎大学グローバルCOE「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」の獲得．長崎医学同窓会朋百，Vol.117, 1-3, 2009
- 8) 平山謙二：2008年度グローバルCOEプログラム採択 ～人類を脅かす感染症の克服をめざす～ 熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略．長崎大学広報誌（長報：チョーホー）CHOHO Vol.26 pp10-15, 2009 January
- 9) 平山謙二：長崎大学熱帯医学研究所，研究所の概要・研究内容・特色・最近の成果．国立大学附置研究所・センター長会議，pp87，2009 企画制作（株）ゼニス
- 10) 平山謙二：片峰教授の退官に寄せて．Bacteriology, 片峰茂教授退官記念特集号，pp16，2009.
- 11) 平山謙二：平成21年度熱帯医学研究所の現況報告，長崎大学熱帯医学研究所同門会誌．第38号，pp7-10．2009
- 12) 黒木貴一，磯 望，後藤健介：雲仙噴火以降の植物活性度変化と土地条件．福岡教育大学紀要，第58号，第2分冊，pp. 13-22，2009
- 13) 後藤健介(分担執筆)：人工衛星データによる斜面特性の評価の詳細研究．平成18年度～平成20年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般)18500780 研究成果報告書(研究代表者：黒木貴一)，136P，

2009

- 14) 後藤健介, 後藤恵之輔, 倉橋竜磨: 衛星リモートセンシングによる黄砂飛来量解析結果と気管支喘息との関係分析. 福岡工業大学 環境科学研究所所報, Vol.3, pp. 19-26, 2009

11 講 演 会

11. 1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

- 1) Mitochondrial functions as drug targets in trypanosomes.

Achim Schnauffer

熱帯医学研究所 セミナー

2009年3月5日

- 2) ケニア農村の暮らしと人間関係

松園万亀雄

国立科学博物館 特別講演

2009年3月7日

- 3) サブサハラ・アフリカにおけるHIV/AIDS, 女性と子供に及ぼす影響

大西真由美

国立科学博物館 特別講演

2009年3月7日

- 4) アフリカの現実と夢, 日本の現実と夢: スーダンの小さな診療所を通して

川原尚行

国立科学博物館 特別講演

2009年3月8日

- 5) 生き残ることの素晴らしさ: エチオピア南部の暮らしの中から

増田 研

国立科学博物館 特別講演

2009年3月8日

- 6) Phenotypic characterization of malaria parasites related to the disease's severity.

Kesinee Chotivanich

熱帯医学研究所 セミナー

2009年3月24日

- 7) Issues in international research ethics.

Reidar K. Lie (Bergen Univ., NIH)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

- 8) Placebo and ethics.

Ki-ichirou Tsutani (The University of Tokyo)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

9) Research on children.

Hidefumi Nakamura (National Center for Child Health and Development)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

10) Ethics on research with stored samples.

Kenji Matsui (The University of Tokyo)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

11) University, Informed Consent.

Kenji Matsui (The University of Tokyo)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

12) Difference between research and clinical care, ethics of innovative therapy.

Shimon Tashiro (The University of Tokyo)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

13) Evaluation of risks and benefits.

Reidar K. Lie (Bergen Univ., NIH)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

14) Framework for research ethics

Reidar K. Lie (Bergen Univ., NIH)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

15) IRB regulations regarding clinical trials in Japan.

Eiji Uchida. (Showa Univ.)

8th Nagasaki International Course on Research Ethics

June 29 - July 1, 2009, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University

11. 2 熱帯医学研究所教員による講演

- 1) 平成20年度大学教育改革プログラム合同フォーラム・大学院教育改革支援プログラム分科会/事例報告

青木克己

シンポジウム

2009年1月13日, パシフィコ横浜会議センター

- 2) 新型インフルエンザ・ウイルス性出血熱

依田健志

東京医科大学医学部寄生虫学特別講義

2009年1月15日, 東京医科大学(東京都新宿区)

- 3) インフルエンザ: 歴史・生態学・国際協力の視点から

山本太郎

県立長崎シーボルト大学 講演

2009年1月27日

- 4) 酸素欠乏危険作業主任者講習

依田健志

長崎県労働基準協会セミナー

2009年1月28日, 長崎県労働基準協会

- 5) 気候変動と感染症: 生態学の視点から

山本太郎

全国保健所長会

2009年1月30日, 東京

- 6) 命の大切さ: 3人の医師との出会い

山本太郎

兵庫県立教育研修センター公開講座

2009年2月5日, 兵庫

- 7) 感染症共生: 生態学的視点から

山本太郎

近畿熱帯医学研究会

2009年2月7日, 於京都大学東南アジア研究センター

- 8) アポトーシス細胞クリアランスと肺疾患

森本浩之輔

東北大学学術講演会

2009年2月12日，仙台

9) 気候変動と感染症：生態学的視点から

山本太郎

佐賀県衛生生薬業センター

2009年2月17日，佐賀

10) Assesment of new recombinant antigens as possible malaria vaccine candidates by a Cohort study for the identification of resistant and susceptible individuals in Ghana.

平山謙二

特別講演/ガーナ大学野口記念医学研究所

2009年2月19日，ガーナ大学野口記念医学研究所

11) 酸素欠乏危険作業主任者講習

依田健志

長崎県労働基準協会セミナー

2009年3月3日，長崎県労働基準協会

12) ケニアの下痢症の現状と対応策に関して

一瀬休生

ケニア研究拠点の研究教育活動

2009年3月5日，藤田保健衛生大学医学部

13) 感染症総論

依田健志

セミナー

2009年3月5日，国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

14) 開発途上国の人々を苦しめる熱帯病：研究と対策の必要性

青木克己

国立科学博物館 特別講演

2009年3月7日，国立科学博物館

15) なぜいまアフリカ，熱帯の病なのか？

嶋田雅暁

国立科学博物館 特別講演

2009年3月8日，国立科学博物館

16) 熱研の将来戦略と新型インフルエンザに対する個人企業の対応について.

平山謙二

新政策調査会

2009年3月10日，ホテルニュー長崎

17) 熱研グローバルCOE

平山謙二

長崎中央ロータリークラブ来所講演

2009年3月16日，長崎大学熱帯医学研究所大会議室

18) 衛星データの保健医療分野への応用事例

後藤健介

「熱海アジア・オセアニアにおける環境変化と感染症の興亡」に関するGIS合同研究会
ワークショップ

2009年3月16日

19) 洪水により下痢症患者数はどのくらい増えるか？—1998年洪水時のダッカにおけるデータ
解析—

橋爪真弘

研究会：ベンガルの人々の生活の豊かさを求めて

2009年3月26日，長崎大学工学部 社会開発工学科会議室

20) 溝田 勉

放送大学セミナー

2009年4月1日～9月30日，放送大学長崎学習センター

21) ネットイシマカとヒトスジシマカのピレスロイド抵抗性について

川田 均

第61回日本衛生動物学会大会，殺虫剤研究班集会

2009年4月2日，高松市，サンポートホール高松

22) グローバルCOE「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」「地球と人間の健康安全
保障 世界トップレベル拠点を目指して」

平山謙二

長崎大学GCOEセミナー

2009年4月18日，東京国際交流館プラザ平成（東京都江東区青海2-79）メディアホール

23) HIV・エイズ，アフリカから長崎まで～その起源，教訓と予防治療の最前線～

有吉紅也

第六回 地域薬剤師卒後教育研修センター講演会

2009年5月23日，財団法人長薬協会長崎大学薬学部地域薬剤師卒後教育研修センター

24) 新型インフルエンザ～歴史・生態・国際協力の視点から～

山本太郎

第6回地域薬剤師卒後教育研修センター講演会

2009年5月23日，長崎大学薬学部本館2階多目的ホール

- 25) 熱帯医学における海外研究教育拠点の意義と将来

嶋田雅暁

ナイスステップな研究者2008からのメッセージ

2009年5月26日，文部科学省 第2講堂

- 26) Climate change and malaria endemicity.

Minakawa N.

French-Japanese Joint Meeting on Environment and Health Challenges, Japanese Society for the Promotion of Science and Academie des Sciences-Institute de France.

2009. 5. 28-29, Paris, France

- 27) 第6回「紫外線防御と暑熱耐性」

大渡 伸

長崎大学環境生理学セミナー

2009年6月3日，環境科学部講義棟 242番教室，

- 28) ねずみ，昆虫等の防除

堀尾政博

建築物環境衛生管理技術者講習会

2009年6月10日，福岡国際ホール

- 29) Single amino acid substitution in Plasmodium yoelii erythrocyte ligand determines its localization and controls parasite virulence.

Osamu Kaneko

セミナー

2009年6月11日，Institut de Recerca Biomedica，バルセロナ，スペイン

- 30) なぜいまアフリカ，熱帯の病(やまい)なのか？

嶋田雅暁

平成21年度日本学会議九州・沖縄地区会議学術講演会

2009年7月7日，長崎大学中部講堂

- 31) A seminar of Rotavirus infection

一瀬休生

NUITM-KEMRI Project セミナー

2009年7月31，NUITM-KEMRI Project, Nairobi Kenya

- 32) Erythrocyte Invasion and Cytoadherence.

Osamu Kaneko

セミナー

2009年8月13日, 中国医科大学, 瀋陽, 中華人民共和国

- 33) Abrogation of Immunity to the pre-erythrocytic stages of malaria infection by exposure to acute blood stage infections of homologous and heterologous malaria parasite species.

Megumi Inoue, Jianxia Tang, Osamu Kaneko, Richard Culleton

セミナー

2009年8月13日, 中国医科大学, 瀋陽, 中華人民共和国

- 34) Environmental changes and malaria epidemics in East Africa.

皆川 昇

International Symposium on Island Health (Ⅱ) -Tropical & Subtropical Environmental-

2009年10月2日－4日, 琉球大学

- 35) 新型インフルエンザ：歴史，対策，課題，国際協力の視点から

山本太郎

北海道医学大会集中治療分科会

2009年10月17日, 札幌

- 36) 長崎大学の国際化を担う国際連携研究戦略本部 (CICORN)-事例報告-

高木正洋

大学マネジメントセミナー[国際編]

2009年10月22日, 東京都, 一橋記念講堂

- 37) ケニアにおける環境変化とマラリア感染

皆川 昇

住友化学(株)農業化学品研究所講演会

2009年10月23日, 宝塚市, 住友化学(株)

- 38) レトロウイルスベクターを用いた遺伝子導入法について

久保嘉直

東京大学医学付属病院 招待講演

2009年10月27日

- 39) Development of a new method for detection and identification of new encephalitis viruses and unknown viruses

Kouichi Morita

First GMS Forum on Japanese Encephalitis Prevention and Control : Achievements and Orient-

atio

2009. 10 . 30, Hue City, Vietnam

- 40) 「予知安全」国内インフルエンザの過去10年間における感染分布特性と対策

後藤健介

講演

2009年11月 1 日, 横浜市開港記念会館

- 41) African Plasmodium vivax; Prevalence and Origins.

Richard Culleton

セミナー

2009年11月24日, 大阪大学微生物病研究所

- 42) 結核の世界の現状について

一瀬休生

五島保健所合同結核研修会

2009年11月24日, 五島中央病院

- 43) 気候変動と感染症：その影響，脆弱性と公衆衛生.

橋爪真弘

アジア・アフリカ学術基盤形成事業 東アフリカ熱帯病セミナー

2009年12月 3 日－ 5 日, ケニア中央医学研究所 訓練センター

12 主要な研究設備

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 回転電動万能ミクロトーム | 23 熱帯性病原体成分機能解析システム |
| 2 反射型蛍光顕微鏡 | 24 多機能ぜん虫行動解析システム |
| 3 ウルトラミクロトーム | 25 熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム |
| 4 落射蛍光位相差顕微鏡 | 26 自動炭酸ガス細胞培養装置 |
| 5 分離用超遠心機 | 27 超遠心機 |
| 6 真空高速冷却遠心機 | 28 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム |
| 7 クリオスタット | 29 生物顕微鏡 |
| 8 万能倒立顕微鏡 | 30 細菌毒素活性測定解析システム |
| 9 走査電子顕微鏡装置 | 31 DNAシークエンサー |
| 10 生態機能解析装置 | 32 デジタル画像電子顕微鏡システム |
| 11 病理組織標本作製システム | 33 耐腐食構造棚式真空凍結乾燥装置 |
| 12 超高速ビデオ | 34 リアルタイム定量PCRシステム |
| 13 原虫遺伝子DNA解析システム | 35 高圧蒸気滅菌装置 |
| 14 レーザースキャン顕微鏡 | 36 液体クロマトグラフ質量分析計 |
| 15 医用サーモグラフィ装置 | 37 自動焦点維持装置付長時間観察システム |
| 16 蛋白細胞相互作用解析システム | 38 マルチラベルカウンターシステム |
| 17 白血球機能解析システム | 39 生体分子精製システム |
| 18 核酸蛋白質解析合成システム | 40 高感度ノンラベル・ゲノム定量解析システム |
| 19 宿主・寄生体相互作用解析システム | 41 デジタルセルソーターシステム |
| 20 プラスミド自動分離調整システム | 42 ジェネティックアナライザ |
| 21 遺伝子検出システム | 43 透過及び操作電子顕微鏡用デジタル画像出力装置 |
| 22 感染症病原性解析システム | 44 多機能超遠心機 |

13 刊 行 物

1) Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときにTropical Medicine（熱帯医学）と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成20年度年次要覧は平成22年2月に発行された。

3) 長崎大学熱帯医学研究所 Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内及び外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内（A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University）が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成22年度版は、平成22年6月に発行された。

4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成21年度の報告集は、平成22年9月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成21年度（2009）

平成22年12月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所

発行者：長崎大学熱帯医学研究所

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4

☎(095)819-7800（総合案内）

印刷所：株式会社クイックプリント

〒850-0034 長崎市樺島町8-12

☎(095)827-1318